

は盗財ナルモ一旦「カレンシー」ノ性質ヲ以テ交轉セラレレ後ハ其所有權ハ盗財ナルヲ知ラズシテ購買セシ者ノ手ニ歸ストスルノ要點ニ於テハ全ク貨幣ト同一視セラレタルナリ
凡ソ商業上ノ證書類ニハ悉ク皆右ト同一ノ法則ヲ適用シタルナリ是ヲ以テ「流通物」カレンナル語ハ貨幣及ヒ一切ノ信約證書ヲ稱スルニ用フ可キモノニシテ近代ニ至ルマテハ貨幣及ビ信約證書類ヲ悉皆「流通物」ナル語中ニ包含セシメタリ然レモ最近時ニ至リ此ノ事項ニ就キテ異說起リ立法上ニ甚ク重大ナル關係ヲ及ボレタリ余輩ハ後文ニ於テ詳密ニ之ヲ論究セザルヲ得ズ
サテ「融通媒介」シレクメデウムチナル語ハ千七百九十年ノ比始メテ世ニ行ハル、ニ至リシガ「流通物」ナル語ニ比スレバ大ニ妥當ナルモノトス、
「融通中介」トハ貨物融通ノ由テ以テ行ハル、所ノ媒介ヲ謂フ其貨幣及

ビ各種ノ信約證書ヲ包含スルハ此ノ釋義ノ語勢ニ照シテ自ラ明白ナリ、金屬ノ「流通物」ハ名ケテ貨幣ト曰ヒ紙片ノ「流通物」ハ名ケテ貨幣ニ對スル抵當ト曰フ貨幣ニ對スル抵當即チ紙片ノ「流通物」ヲ大別レテ二種ト爲ス第一ハ貨幣ヲ拂フ可キノ約束ニシテ「約束手形」ト名ケラル、者是レナリ第二ハ貨幣ヲ拂フ可キノ指令ニシテ「爲換手形」ト名ケラル、者是レナリ此ノ二大別中ニ又數小別有リ余輩後章ニ於テ之ヲ論セン
紙片「流通物」ハ貨幣ト同ク將來ノ仕方ニ對スルノ抵當ヲ表証スルモノナリ然レモ貨幣ニ於テハ何時ニテモ要求ニ應シテ即時ニ拂フ可キ抵當ナルニ紙片「流通物」ニ至リテハ然ラス要求ニ應シテ即時ニ拂フ可カラズレテ而モ發行ノ後一定ノ時期ノ來ルヲ俟テ始メテ拂フ可キ抵當ナルヲ砂シトセズサレト縱ヒ仕拂ノ期ハ遲延スルコトアリトモ此ノ遲延ハ以テ其信約證書タル本然ノ性質ヲ變スルニ至ラザルナリ仕拂

ノ邊延ハ其價ヲ低下シ、且ツ其讓與ノ便利ヲ妨ケザルニ非ザレバ、其未
 性ヲ變ズルヨ至ルヲ無シ、例ヘハ三ヶ月ノ後ニ於テ仕拂ヲ可キ抵當セ、
 要求ニ應ジテ即時ニ拂フ可キ抵當セ、其抵當タルノ性質ニ至リテハ、
 溢異ナラザルナリ、又其抵當タル所以ハ決シテ紙片ニ記載セラレ、
 單ニ無形負債ノ成立タルニ止マルトニ關係スル所無シ
 「流通物」ナル語ハ兩箇ノ單純觀念ヲ包含セル結合名目ナリ、當初ノ功用
 ハ負債ヲ表証スルニ在リシヲ以テ之ヲ推ストハ其本原ノ觀念ハ努力
 以要求スルノ權カヲ指示スル某物件タルニ在リ、第二ニハ其物件自ラ
 手ヨリ手ニ經過ストノ觀念ヲ包含セリ、此ノ兩箇ノ觀念中ニ在テ、前者
 ノヨ本原ノ觀念ナリ、然レモ其名稱ノ由テ求ル所ハ後者ニ在リ、是レ特
 ニ若慮セザル可カラザルノ要點ナリ、今斯ク此ノ語ヲ分解スル、
 指示スル所ニ二別アルコト左ノ如シ

第一 貨物ヲ融通セシムル者ト云フ是レナリ、此ノ場合ニ於テハ融
シルキユレト

通ナル語ヲ他動詞トシテ用フルルノ觀念ヲ取ル

第二 自ラ融通スル者ト云フ是レナリ、此ノ場合ニ於テハ融通ナル
シルキユレト

語ヲ自動詞ニ用フルルノ觀念ヲ取ル

「融通媒介」ナル名目ハ第一ノ觀念ヨリ出ヅ、「流通物」ナル語ハ第二ノ觀念
 ヨリ出ツ

「シルキユレト」チング、メチウム」融通ナル名目ハアグム、スミスノ「富國論」

中ニ之ヲ見ズ、又千七百九十三年貿易逼迫ノ秋ニ當リ某人此ノ事ヲ論
 シテ出版シタル一小冊子アリ、其中ニ亦之ヲ見ズ、此ノ名目ニレテ著
 シ當時昔ク世ニ用ヒラレシモノナランニハ此等ノ書中ニモ必ズ見ニ
 ヘキナランニ、其然ラザルヲ觀レバ、當時未ダ昔ク世ニ用ヒラレザリレ
 サ知ル可キノミ、余輩ノ見聞ニ據ルルハ此ノ名目ノ始メテ圖書中ニ載

セフレレハ千七百九十七年ニ在リ、國會史記第三十三卷三百四十二頁ニ於テフオックス氏ガ「シルキユレ」チング、メヂウム「ナル名稱ノ新奇ニレテ意義確定セザルヲ要フルノ旨是レナリ」

「融通ナル語ノ自餘諸動詞ト同ク他動自動兩様ノ意義ヲ有スルコトハ上文之ヲ示レタリ、スミスノ如キモ「富國論」中此ノ語ヲ用フルニ、或ハ他動ノ意義ヲ以テシ、或ハ自動ノ意義ヲ以テセリ、其第二卷一章ニハ曰「其金銀用ハ貨物ヲ融通セシムルニ在リ」ト又其第二章ニ曰「融通ノ大車輪ハ全ク之ガ中介ヲ經テ融通セラル、所ノ貨物ト異ナリ、社會ノ歲入ハ全ク此等ノ貨物ニ在リテ、之ヲ融通セシムル所以ノ車輪ニ在ラズ」ト而シテ同章ノ後段ニ至リ諸種ノ紙幣ニ論及シテ曰「融通スル銀行諸券ハ諸種ノ紙幣中ニ在テ最モ能ク世人ノ熟知スル所ノ者ナリ」ト此ノ兩句ニ於テ融通レ「トキユ」ナル語ヲ用フルニ兩箇異様ノ意義ヲ以テセリ、其後

又曰「貨幣ノ用ハ獨リ貨物ヲ融通セシムルニ在リ」ト而シテ其次句ニ至リテハ兩様ノ意義ヲ以テ此ノ語ヲ用ヒタリ、曰「試ニ余輩某時ニ當リテ某國ノ土地及ヒ勞力ノ全年產ヲ融通セシムルニ一百万磅ノ金額ヲ以テ足レリトシ、該國ニ融通スル貨幣ノ全額恰モ當時一百万磅ニ至リタリト假定センカ」ト又曰「余輩ハ凡ソ一社會ニ融通スル資本ノ左右スルヲ得ル工業ノ多寡ヲ計算スルニ當リテハ必ズ常ニ其資本中食料、物料、及ビ完工物ヨリ成立スル所ノ部分ニノミ着眼シテ、貨幣ヨリ成立シ、唯此ノ三者ヲ融通セシムルニ止マル所ノ部分ヲ除去セザル可カラズ」ト、又曰「凡ソ一國ニ融通スル貨幣ヲ之ガ爲ニ融通セシメラル、年產ノ全價ニ比シテ其割合何如ヲ斷定スルハ蓋シ難カラント、是ニ由テ之ヲ觀レバアダム、スミスハ「シルキユレ」チング、メヂウム「ナル語ヲ用ヒズト雖、其「シルキユレ」ナル語ヲ用フルニ兩様ノ意義ヲ以テセシヤ明

白ナリ

千七百九十三年刊行ノ小冊子中ニ於テハ「シルキユレーチング」ト「メヂ
 ウム」トヲ接続シテ一ノ熟語ト爲スヲ見ズト雖モ亦之ヲ以テ指示スル
 所ノ觀念ニ至テハ既ニ其中ニ存スルヲ見ルヘシ著者大英國ノ隆盛ナ
 ル貿易ニ論及シテ曰「此ノ廣大ナル貿易ノ由テ以テ經理セラル、所ノ
 媒介ハ紙片ノ信約ナリ、至急且ツ至速ナル通商ノ用ニ應スルモノハ編
 リ此ノ中分アルノミト、其次句ニ於テ又曰「萬國ノ產物ノ由テ極メテ迅
 速ニ各國各地ノ間ニ運轉セラル、所ノ資本ノ極大無形ナルモ頃刻ニ
 以テ變シテ債トハ硬貨、ギンニニ金貨ト爲レリト、要スルニ「シルキユレー
 チング」イテ「メヂウム」イテ「カヤ語」ハ此ノ「兩切」精神ニ外ナラザルヤ甚ク明白ナ
 ル、此ノ「シルキユレーチング」ナル語ハ融通スルヲ融通セシムルヲ「兩意」

義「シルキユレーチング」イテ「メヂウム」イテ「カヤ語」ハ此ノ「兩切」精神ニ外ナラザルヤ甚ク明白ナ
 シ、我レカ異意義シルヤハ之ヲ理學上ノ言詞ノ通義ニ照シテ疑ヲ容
 レザルモノ有リ、理學上ニ於テ所謂「メヂウム」イテ「カヤ語」トハ必ズ中間位ニ立
 ツ某物件ニシテ由テ以テ他ノ事ヲ爲スノ具タル者ヲ謂フナリ、例ヘバ
 某人若クハ某物件ニシテ他ノ人々ノ間ニ某物件ヲ傳フルノ具タル者
 ヲ稱シテ通信ノ「メヂウム」イテ「カヤ語」ト曰フ、故ニ「シルキユレーチング」メヂウム」
 トハ融通ノ媒介ニシテ由テ以テ他ノ物件ヲ融通セシムルノ具タル者
 ノ謂ナラザル可カラズ、若シ「シルキユレーチング」融通ナル語ヲ解釋シ
 テ自ラ融通スルノ効力アル者ト爲ス可クンバ、他ノ同一義ノ語ヲ以テ
 之ニ代ラシムルコトヲ得、而レテ「シルキユレーチング」メヂウム」トハ「ザ
 ラプエリ」ニシテ「ミツドル」イテ「旅行」ニシテ「メヂウム」イテ「カヤ語」トハ「カヤ語」ニシテ「メヂウム」
 「シルキユレーチング」メヂウム」ナル語ヲ以テ全ク無意義ニ屬セシムル

異ナラフヤ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、哲理上ノ意義ニ於テ「シルキュレ」
 チング、ノアウム」トハ、巡回スル媒介、即チ必ズ自ラ融通スル媒介ノ謂ニ
 非ズシテ、由テ以テ貨物ヲ融通セシムル所ノ媒介ノ謂ナリ、是レ始メ此
 ノ語ヲ造ルニ當テ之ニ附與シタル意義ナルヤ、毫モ疑ヲ容レザルナリ、
 凡ソ一國ニ在ル「流通物」即チ「融通媒介」ノ類ハ、其國ニ在テ各一個人ニ屬
 スル「流通物」即チ「融通媒介」ノ類ナリ、夫レ然リ凡ソ一個人ノ現有スル
 貨物ノ外ニ、之ニ對スル負債ヲ表スル者ハ、其負債ヲ記録スル形狀ノ何
 如ク同ハス、金屬ナルト紙片ナルトヲ問ハズ、又通常負債ノ成立ニ止マ
 ル事否ラサルト、討論セズ、此ソ一個人ニ屬スル「流通物」ヲラザルハ無シ、
 故ニ余輩ハ此ノ釋義ヲ取テ左ノ如ク「流通物」ヲ彙類スルマヲ得ヘシ
 第一 鑄造貨幣、即チ金銀及ビ銅貨
 第二 紙片流通物、即チ約束手形、爲換手形、並ニ此ノ二者ニ類スル類

第三 通常負債、諸種、即チ銀行主ノ帳簿中ニ記載スル貸方金ニシ
 テ預金ト稱スル者、商賈ノ帳簿中ニ記載スル負債、及ヒ一個人ト一個
 人トノ間ニ成立スル私債等ノ如キ是レナリ
 以上第二種及ビ第三種ノ「流通物」ヲ比較スルニ、其原理ニ於テ毫モ別異
 アルコト無キハ明白ナリ、二者均ク某種讓與ノ既ニ行ハレタルヲ表
 示スル者ニシテ、又均ク將來ニ償還ヲ受クルノ權義アルコトヲ保證ス
 ルモノナリ、而シテ此等「流通物」中ノ或ル者ハ便利ノ爲ニ之ヲ紙片ニ記
 録スルモノナリ、今ヤ此等諸種ノ「流通物」ヲ對照スルハ、其原理ニ於テ
 コソ異ナル所無ケレ、確實ト便利トノ度ニ至リテハ多少相同シカラザ
 ル所有リ、即チ金屬「流通物」ノ如キハ政府ニ於テ其秤量及ビ性合ノ正當
 ナルヲ保證シ、又人民一般ニ勞力ノ報酬トシテ之ヲ收ムルヲ許諾ス

ルニ由テ行ハル者ナルヲ以テ確實ト便利トノ度最モ高シトス。紙片
 「流通物」ハ外國ニ於テハイサ知ラズ英國ニ於テハ全ク信約ニ由テ行ハ
 ル、モノニシテ上ハ「英倫銀行」ノ「株券」ヨリ下ハ一個人ノ「負債證書」ニ至
 ルマデ凡ソ諸種ノ證券ハ皆之ニ屬セザル者無シサレバ此等諸種ノ「流
 通物」ハ其具有スル所ノ流通力ニ差等ナキニ非ズ其確實便利ノ度ニ不
 同ナキニ非ズト雖モ其表スル所ノ本然觀念ニ至テハ一ノミ即チ「負債」
 是レナリ是ニ由テ之ヲ觀レバ凡ソ一國ニ在ル「流通物」即チ「融通媒介」ノ
 類ハ其國ニ在ル各一個人ニ屬スル一切ノ「負債」ノ總額ナルヤ明白ナリ
 サレバ余輩ハ本書ニ於テ「流通物」及ヒ「融通媒介」ノ兩語ヲ以テ全ク同一
 ノ意義ヲ有シ「廣狹」モ亦相均キモノト爲レテ使用ス可シ蓋ヒ「融通媒介」
 ナル語モ自ラ「融通」スト云フ流通物ノ本然觀念ニ基クモノト見做シテ
 然ルナキ「流通物」ナル語ハ「融通媒介」ナル語ニ比スレバ甚ダ古語ニシテ

其由テ來ル所ハ今日「融通媒介」ナル語ニ由テ屢々吾人ノ心中ニ起ル來
 ル所ノ觀念ヲ自ラ「融通」ト云フ在ルヤ固ヨリ言ヲ俟タズ或人或人「流通
 物」ナル語ヲ以テ「融通媒介」ナル語ノ如ク意義ノ廣大ナルモノト爲スガ
 見テ初メ少シク驚訝スルヲ無キニ非ザル可シ然レモ凡ソ物ノ名稱ハ
 當初最モ著シク人ノ留意ヲ促セシ特殊一個ノ資質ニ由テ之ヲ命シタ
 ルモ後ニ至リテ此ノ資質ノ未タ以テ其類物ノ本然觀念ヲ示スニ足ラ
 ザルヲ發見スルニ至リ理學上ノ必要ヨリシテ己ムヲ得ズ此ノ名稱
 ノ適用ノ範圍ヲ擴メ以テ其由テ來ル所ノ資質ヲ具ヘサル自餘ノ諸物
 ヲモ包含セシムルハ諸科ノ理學ニ於テ往々見ル所ニシテ此ノ語ノミ
 獨リ然ルニ非ラザルナリ余輩ハ今地質學及ヒ化學ニ於テ吾人ノ熟知
 スル二條ノ證例ヲ舉ゲテ之ヲ示サン地質學ニ於テ「魚卵石」ナル語ハ初
 メ之ヲ「魚卵」ニ類似セシ「石塊」ヲ指示スルニ用ヒタリシガ地質學士ハ理

學上ノ必要ヨリシテ已ムクヲ得ズモ魚卵ニ類似セザル自餘ト石塊
 ヲ魚卵石ナル語ノ部下ニ加列スルニ至リ、今日ハ地質學上普ク此ノ分
 類法ヲ用ヒサルハナシ又、毎季評論誌第九十五卷三百九十三頁ニ曰、白
 堊ニハ黃色ナル有リ、又黑色ナル有リ、而シテ現ニ一二ノ地方ニ於テ白
 堊ノ此等ノ彩色ヲ帶ブルヲ見ルベレ、然レモ其素質ニ此等ノ汚點アル
 ニ拘ラズ猶ホ之ヲ稱シテ「白堊ト曰フ」ト、又化學上ノ現象ノ一種ヲ指示
 スルニ「燃燒ナル語ヲ用ヒルハ其現象アルト熱ノ發顯スルヲ見タルニ
 因ルモノナリ、然レモ化學上ノ知識漸ク進歩スルニ及ブヤ、此ノ現象ハ
 單ニ酸素ト他ノ物質ト相結合スルノ作用ニシテ熱ノ發顯ハ只メ此ノ
 現象ノ偶屬性タルニ過キズ、現ニ酸素ト他ノ物質ト相結合シナガラモ
 モ熱ノ發顯ヲ見ザル場合有ルコトヲ發見シタリ、然ルモ尙ホ悉皆此等
 ノ現象ヲ燃燒ナク語ノ部下ニ加列スルナリ、例ヘバ鐵ト錒ヲ生スルハ

化學上ノ作用ニ依リ酸素ト鐵トノ結合ニ外ナラズシテモ熱ノ發顯
 アルト無キト雖モ猶ホ之ヲ燃燒ノ部類ニ加列スルカ如キ、又酸ナレ
 語ノ如キモ今日ハ其意義ヲ擴充シテ酸味ヲ具ヘザル許多ノ物件ヲ包
 含セシムルニ至リシニ非ズヤ、然レバ則私債ヲ以テ「流通物」ナル語ノ部
 下ニ加列スヘキモノト爲スモ此等ノ類例ヲ觀察スル者ヨリ之ヲ視レ
 バ亦何ノ妨ガ之レ有ラン、是レ唯タ諸科ノ理學ニ於テ其與リ關スル所
 ノ事目ノ分類法ノ漸ク正當ニ進ムニ及デ往々現出スル事實ノ一例ナ
 ルノミ

自餘諸科ノ理學ニ於テ此ノ類ノ證例ヲ求メバ尙ホ多ク之ヲ得ルハ極
 メテ容易ナル可シト雖モ、本論ノ主意ヲ詳明スルニハ上文ノ證例ニシ
 テ既ニ足レリトス、ドクトルヒウエル曰凡ソ事物ノ形狀ヲ取テ命シタ
 ルノ名稱ハ縱ヒ一時ハ至當ナリト見ユルコトアルヘキモ、其實ハ允當ナ

流通物

ルヲ甚ク罕ナリ、其然ル所以ノ理ハ初メ形状ノ爲ニ選出シタル標識ハ其物ノ神髓ニ洞貫スルヲ罕ニシテ、自然事物ノ明白ナル關係ハ假ニ下シタル釋義ヲ超越スルコト有レバナリ略中字義ハ以テ記憶ヲ助クレハ則可ナリ、然レモ決シテ之ヲシテ自然分類ノ能力ヲ制スルヲ得シム可カラザルナリト

流通物ノ流通物タル所以ノ必然ノ資質ハ負債者即チ義務者ノ身上ニ汎然未定ナル負債アルヲ証表スルニ在リテ債主即チ權利者ヲシテ特殊ノ物品ヲ要求スルノ權利ヲ得シムルニ在ラズ、是レ特ニ着意セザル可ラザルノ要旨ナリ、何如ナル場合ニ於テスルモ「流通物」ハ只チ身上責任ノ觀念ヲ包含スルノミ案スルニ負債主ノ特殊ノ物品ニ關シテ存立スル實日ニ他物ヲ上置任トシテ身ノ上置任トシテ、例ヘバ此ニ酒商アリ、雜貨商ニ酒ヲ賣ル、雜貨商ハ此ガ義務トシテ何時チモ要求ニ應ジテ茶半磅或

經濟哲學

賣物等ヲ酒商ニ轉セシメ、酒商ハ得ル所ハ、雜貨商ニ對シテ汎然未定ナルノ半磅ノ茶ヲ要求スルノ權利ニ在リテ、特殊ノ茶ヲ專有スルノ權利ニ在ラザルヲ明記セザル可カラズ、是ヲ以テ雜貨商ノ貯藏スル茶ノ全額ハ、償還ノ要求ヲ受クルニ至ルマテ依然トシテ其所有ニ屬スルヲ以テ悉皆之ヲ賣却スルヲ得ヘキナリ、若シ之ニ反シテ其全額中ノ一定特殊ノ部分ハ他人ノ所有トシテ之ヲ別存シ、雜貨商ハ唯之カ管守者タルノミナランニハ安ゾ悉皆之ヲ賣却スルコトヲ得ンヤ

此ノ別異ハ至緊至要ノ者ニシテ、手ヨリ手ニ轉移シ得ヘキノ性質ハ「流通物」ノ本然觀念ニ非ルノ理ヲ證明スルニ足レリ、茲ニ又手ヨリ手ニ轉移シ得ヘキノ性質アル事ニ於テハ「爲換手形」ニ類似スルヲ以テ世人往々之ト同一種ノ者ト看做スト、雖モ其實ハ決シテ然ラサル一ニノ商用證券アリ、船渠證券船渠證券及ビ船荷送狀船荷送狀是レナリ、人其所有ノ物件ヲ船渠ニ付

托スルハ船渠主ハ之ガ爲ニ收票ヲ交付スヘシ、而シテ此ノ收票ハ商業ノ便利ノ爲ニ隨意ニ他人ニ讓與得可キモノニレテ、何人ヲ論セズ之ガ所持人タル者ハ該物件ノ所有主ナリトス、又一船舶ノ外港ニ向テ解纜セントスルニ當リテ貨物ヲ裝載スルコトアレバ、船長ハ之ガ爲ニ收票ヲ交付スヘシ、而シテ現貨物ヲ要求スルニ至ルノ前ニ於テノ「船荷送狀」ノ轉賣ハ或ハ五十回ニ及ブ、無キニ非ズ、サテ此ノ「船渠證券」及ビ「船荷送狀」ノ通常ノ爲換手形ト異ナル所以ノ者ハ他ナシ、此ノ二者ハ船渠ノ倉庫ニ貯藏シ若クハ商船ニ裝載スル特殊ノ貨物ニ關スル所有權ヲ表証スルニ止マリテ決シテ身上責任即チ負債ノ觀念ヲ包含セス、之ニ反シテ「爲換手形」ハ單ニ某人ノ身上ニ關スル負債ノ証狀タルニ因レリ、若シ「爲換手形」ニシテ特殊ノ財本ヲ專有スルノ權利ヲ表証スルトキハ「爲換手形」ノ何カニ關スル本然觀念ニ背馳スルヤ明白ナリ、若シ「爲換

手形」ナル趣意ノ證券ニシテ特殊ノ財本ヲ專有スルノ權利ヲ表証スル者ナラシムル立トコロニ其「爲換手形」タル所以ヲ放失セン、
 「爲換手形」ノ本然概念ト「船荷送狀」「船渠證券」ノ本然概念トヲ辨別スルノ甚々緊要ナルヲ前説ニ於テハ恐クハ未タ彰明ナラザルヘシ、然レモ下文ニ説ク所ヲ見レバ必ズ十分ニ豁然タラン、
 「信約」ノ事ニ就キ極メテ危險ニシテ恐ル可キ一二觀念ノ由テ起ル所ハ此ノ二者ヲ混同スルニ在リ、余輩今一事ヲ舉クルモ此ノ二者ノ異ナル所以灼然タラン、蓋シ「船荷送狀」「船渠證券」ハ決シテ其表示スル所ノ物件ノ量ヲ超過スルコト無シ之ニ反シテ「爲換手形」ノ表示スル所ハ現在貨幣ノ額ヲ大ニ超過スルアルヘキコト是レナリ、之レ「爲換手形」ハ格段特殊ノ貨幣ヲ表示スル者ニ非ズシテ、人ヲシテ一定ノ時期ニ於テ貨幣ヲ有セシメントノ約束ヲ表証スルニ止マリ、從テ同一貨幣ニシテ手ヨリ手ニ經過シ、陸續一百葉ノ

「爲換手形」ヲ消却スルカ如キヲモ決シテ之レ無キニ非ザルニ因ルコトナリ

前文ノ類別差異ヲ心裡ニ銘スルハ甚タ緊要ナルヲ以テ、余輩ハ尙ホドクトルヒウエルノ著述ニ係ル一書中ヨリリンチアスト其徒弟ノギンケトノ談論ヲ此ニ引舉シ、以テ此ノ類別差異ヲ詳明セントス、其趣旨ハ余輩ノ主張セント欲スル所ト甚タ相似タルモノ有リ、ギンケハリンネアスガ植物ノ天然部類ヲ收拾セシ方法ニ就キテ道理ニ合スルノ根據アルコトヲ察スル能ハザルヨリ大ニ疑ヲ生シ、其師リンチアスト談論ヒシ次第ヲ記録シテ、今其趣旨ヲ見ルニ前段説ク所ト啗合スルコト誠ニ驚ヲ可キモノ有リ、初メギンケハ專一ニ以爲ラタ、一科ニ屬スル植物ハ皆其科名ノ由テ來ル所ノ性質ヲ具ヘザル可カラズ、例ヘバ傘形科ハ屬スル植物ノ如クハ排列ノ據皆傘形ニ似タル花ヲ有セザル可カラ

ズ、因テ之ヲ其師ニ告ギテ、其師ハ其言ニシテ、リンチアスト談論ニ於テハ、本義ヲ失ヒ、徒ニ名義ニ拘泥セバ、其自然ニ着目セ、コトヲ以テセリ、ギンケ曰、然レモ名ニシテ若シ本義トスル所ノモノヲ指示セズンバ、其用ハ何クニ在ルヤ、

リンチアスト曰、若シ汝植物ヲ選擇シテ適當ノ一部類ヲ設ケ、此等ノ植物ニ下スニ之ニ屬スルヲ判然タル名稱ヲ以テスル以上ハ、其名稱ノ何如ナルヘキヤハ決シテ緊要ノ事ニ非ザルナリ、今汝ガ論ズル所ノ場合ノ如キニ於テモ余ハ論理學ノ規則ニ循ヒテ此ノ部類中ノ首要ノ草花ヲ見テ假ニ傘形科ノ名稱ヲ其全部類ニ下タシタルノミ、今汝試ニ一科ノ植物ノ性質ヲ余ニ示サンカ、
ギンケ曰、然リ、傘形科ノ性質ハ豈ニ其傘形ノ花序ヲ有スルニ在ルニ非サルヲ得レヤ、

リシテアス曰「善シ然レハ傘形ノ花序ヲ有スルモ尙ホ傘形科ニ屬セザル植物有リ」

ギンケ曰「小子之ヲ知レリ故ニ吾人ハ傘形ノ上ニ二箇ノ裸種子ヲ有スルノ言ヲ添ヘザル可カラズ」

リシテアス曰「然レバ則唯一箇ノ種子ヲ有スル「エキノフロラ」ノ傘形科中及ヒ傘形ノ花ヲ有セザル「エリンジアム」上ハ傘形科ニ屬セザル可キニ尙ホ此ノ科ニ屬セリ而シテ二者共ニ傘形科ナルハ毫モ疑ヲ容レザルナリ」ト

讀者請フ前段談論ノ精神ヲ諦觀シ而シテ凡ソ吾人論スル所ノ物件類別ノ法ヲシテ正當ナラシメント欲セバ徒ニ其名稱ニ拘泥セマシテ其性質ニ着眼セザル可カラザル所以ス理ヲ熟思セヨ、傘形ノ花ヲ有セザル植物ニシテ尙ホ傘形科ニ屬スルモノ有ルカ如ク私權ノ流通セズト

雖モ尙ホ「流通物」ナリ、又傘形ノ花序ヲ生スル植物ニシテ尙ホ傘形科ニ屬セザルモノアルカ如ク「船渠證券」「船荷送狀」ハ流通スト雖モ尙ホ「通貨」ニ非ザルナリ

二十二節 此ニ至リテ余輩ハ「經濟中ニ在テ至緊至要ナル一論旨ヲ提出シ、以テ其眞確ナルヲ證明セザル可カラズ、蓋シ此ノ論旨ニ就テハ極メテ甚シキ膠説ノ大ニ世ニ行ハル、コ有レバナリ、今先ツ此論旨ヲ開示セン

凡ソ一國ニ在ル貨幣ノ分量ハ決シテ其國ニ在ル他ノ貨物等ノ分量又ハ其價銀ト何等ハ離ル可カラザル關係ヲモ有セズ

經濟書ヲ著述スル者多クハ以爲ラシ一國ニ在ル貨幣ノ分量ハ其國ニ在ル貨物ノ分量ト離ル可カラザルノ關係ヲ有スト、且ツ以爲ラク貨物ノ價銀ハ貨幣ノ分量ト貨物ノ分量トノ割合ニ由テ定マレリト、是レ極

メテ、甚シク見テ、最モ容易ニ之ヲ證明シ得ルキヲ、今甲乙二人
貨物ノ賣買ノ爲ニ相互ニ債ヲ負ヒ甲ハ乙ヨリ十磅ノ金額ニ抵レル貨
物ヲ買ヒ乙ハ甲ヨリ十磅ノ金額ニ抵レル貨物ヲ買フトセシカ其取
引ヲ結了スルニ三種異様ノ方法有リ

(第一) 甲乙各、手代ヲ遣テ其貸金ノ完價ヲ討求スルコト有ラン、此方法
ヲ以テセバ二十三磅ノ貨幣ヲ要ス可シ

(第二) 甲ハ其負債ヲ拂ハンガ爲ニ乙ニ十磅ヲ贈リ、乙ハ其負債ヲ拂
ハンガ爲ニ更ニ三磅ヲ加ヘテ之ヲ贈回スルコト有ラン、此方法
ヲ以テセバ十三磅ノ貨幣ヲ要ス可シ

(第三) 甲乙交互ノ負債ヲ對照シ其差額ノミヲ拂フコト有ラン、此方法
ヲ以テセバ僅ニ三磅ノ貨幣ヲ要ス可シ

夫レ何如ナル金額ノ取引ヲ行フニ於テモ、此ノ三方法中ニ就キ此ヲ取

ルト彼ヲ取ルトニ從テ其要スル所ノ貨幣ノ多寡甚ク異ナル可キハ明
白ナリ、第一ノ方法ト第三ノ方法トノ間ニハ二十磅ノ差異有リ、然レ
貨物ノ價銀ニ至リテハ毫モ差異有ラザル可シ、此二十磅ハ少シモ貨物
ノ價銀ニ影響スル所無ク、唯々取引ヲ結了スル方法ノ拙劣ナルガ爲ニ
之ヲ要スルノミ、サレバ商業經營ノ方法上ニ簡單ナル一變革ヲ加フル
トハ忽チ二十磅ヲ融通上ヨリ引キ去リテ之ヲ別事ノ取引ノ用ニ充ル
コトヲ得ヘシ

是ニ由テ之ヲ觀レバ、一國ニハ毫モ貨物ノ價銀ニ影響ヲ及ホサザル巨
額ノ貨幣ノ存スル有リテ、貨幣ト貨物トノ割合ハ商業ヲ經營スル方法
ノ異ナルニ從ヒテ大ニ變スルコト有ルヤ顯然タリ、今若シ常ニ第一ノ方
法ヲ用ヒ井タルノ國ニシテ一朝其舊慣ヲ變シテ第三ノ方法ヲ取ラン
ニハ、極メテ巨額ノ貨幣ヲ融通上ヨリ引キ去リテ之ヲ殊別ノ事業ノ用

ニ充ルヲ得可ク、又一方ヨリ之ヲ觀レハ其實際ノ結果タル恰モ從前存
 在セル貨幣ノ額ヲ増益シタルト一般ナル可キハ甚々明白ナリ、是ヲ以
 テ貨幣ノ用ヲ減省スル種々ノ方法ハ邦國ノ財源ヲ増益スル所以ノ方
 策ナリト看做スモ不可ナキナリ、故ニ商業ヲ經營スルノ方法ヲ改良シ
 タルヲ以テ取引ヲ結了スルニ於テ五十萬磅ノ用ヲ減省スルコト得バ
 是レ恰モ一國ノ財源ニ此金額ヲ増加スルカ如シ、此ノ如キ商業上ノ變
 革ヲ促進シ、人々ヲシテ貨幣ノ媒介ヲ須メシテ交互ノ負債ヲ清結ス
 ルコトヲ得ルニ至ラシムルハ、是レ銀行ノ要務ノ一ナリ、此ノ如キ方法ヲ
 用フルノ術ニシテ果シテ精工ナラシニハ、爲ニ邦國ノ財用ヲ節シ、財源
 ヲ擴ムルノ極メテ大ナルハ請フ後章ニ於テ之ヲ示サン

○融通の釋義

二十三節 貨物等ヲ直接ニ換フルルハ、之ヲ名ツケテ「交換」又ハ「交
 易」^{エクスジ}ト曰フ、又貨物ト貨幣トヲ換フルハ、此貨幣ヲ收ムル所以ノ
 者ハ之ヲ以テ再々他ノ物件ト換フルコト得ルニ在リ、サレバ「セイ」^{セイ}
 ガ取引上ニ貨幣ヲ用フルルハ此取引ハ眞ノ「交易」ノ一半ナリト言ヒシ
 モ亦宜ナリ又之ヲ名ツケテ「買賣」ト曰フ、買賣トハ常ニ交易セラルル可
 量物ノ一ハ貨幣即チ信約タル取引ヲ指スモノナリ、即チ兩箇可量物ノ
 中、一ハ有用ノ貨物ニシテ、一ハ之ヲ要求スルノ權利タルニ止マルモノ
 ヲ用フル取引ノ謂ナリ、即チ種類ヲ同クセザル物件ノ交易ニ係ル取引
 ノ謂ナリ、而シテ「交易」トハ必ズ種類ヲ同クスル物件ノ交易ノ謂ナリ、即
 チ貨物ヲ以テ貨物ニ易ヘ、若クハ流通物ヲ以テ流通物ニ易フルガ如キ
 是レナリ、サレバ吾人ハ一國流通物ノ名ヲ以テ示セル他國流通物ノ價
 格ヲ「外國爲換相場」^{スチオレン}ト曰ヒ、五磅ノ手形、若クハ一磅ノ金貨

ヲ以テ、小貨幣ヲ換フルヲ「兩換」ニキス。ト曰ヒ、又畫圖ヲ以テ傳傳ニ換
 へ若クハ書冊ヲ以テ書冊ニ換フルヲ「交易」ト曰フ。若シ交易ノ係ル所貨
 物ト流通物トニ在ルハ、流通物ヲ交付スル者ヲ名ツケテ「貨物ノ買主」
 ト曰ヒ、貨物ヲ交付スル者ヲ名ツケテ「貨物ノ賣主」ト曰フ。ザレバ吾人ハ
 流通物ヲ以テ馬又ハ家ニ換フルヲ名ツケテ之ヲ買フト曰ヒ、陸軍士官
 ノ購隊ヨリ乙ノ購隊ニ轉スルニ至リテハ之ヲ名ツケテ「官職ノ「交易」ト
 曰フ。又、リール」ニ名曲(第五段三節)ニ於テアル「パニ」ガ其手套ヲ反賊エド
 マンドニ投與スルルキエドマンドモ亦自己ノ手套ヲ投與シテ曰「是レ我
 カ「交易」ナリト、是レ同一物ヲ投與スルノ謂ナリ、又其後同段ニ於テエド
 ガルハ其惡弟エドマンドニ謂テ曰「請フ仁慈ヲ「交易」セント、又ハムレツ
 ト」ニ名曲(第五段二節)ニ於テレエルトス曰「余ト赦免ノ「交易」ヲ爲セ、貴キハ

ムレツトヨト

流通物ト貨物トノ取引ハ前ニ説キレガ如ク「賣買」ナリ、此等賣買ノ全額
 ヲ指シテ「融通」ト名ツクルヲ正當トス、是ヲ以テ僅ニ一片ノ貨幣ト雖モ
 其「融通」ニ與リテ力有ルヤ頗ル大ナリトス、蓋シ「融通」ハ貨幣ノ交轉毎ニ
 必ず増加スルモ、流通物ハ毫モ増加スルコト無キナリ、余輩ハ「レキニ
 レ」ニヨシ「通」ナル語ノ、往々極メテ誤妄ナル意義ニ於テ用ヒラル事ニ
 就キ一言セザル可カラズ、世人此ノ語ヲ貨幣及ヒ銀行株券ト同一ノ意
 義ニ用ヒ、又後者ト同一意義トシテ用ヒルヲ殊ニ多シ、乃チ「英倫銀行若
 クハ其他ノ銀行ヨリ發行セル株券ノ員數ヲ指シテ該銀行ノ「融通」ト稱
 スルヲ往々之レ有リ、是レ「余輩」ノ前ニ貨幣ヲ「カレンシ」ト稱スルノ誤
 妄ノ由テ來ル所ナルヲ述ヘシ米國著述家輩ノ著書中殊ニ多ク見ル所
 ナリ、一切ノ常用語中此ノ語ノ用法ノ如キハ最モ不當ナルモノハト

大、融通スル所ノ銀行格券ヲ稱シテ「セルキユレ」シヨント曰フハ、舊水車輪ヲ稱シテ「回轉ト曰フカ如ク、思想ノ錯亂モ亦甚クシカラズヤ、故ニ余輩ハ此ノ書ニ於テ決シテ「融通即チ「セルキユレ」シヨンナル語ヲ以テ一銀行ヨリ發行セル格券ノ額ヲ指示スルニ用ヒザル可レ、蓋シ正當ノ語法ハ、「イン、セルキユレ」シヨン、融通中ナル銀行格券ノ額ト曰フニ在ルヤ明白ナレバナリ、余輩ハ「貨幣」及ビ「融通」ナル語ヲ以テ全ク相異ナルニ物ヲ指示スルニ用フ可レ、即チ前者ヲ以テ流通物ノ本物ヲ指示シ、後者ヲ以テ流通物ノ手ヨリ手ニ轉移スルノ多寡ヲ指示スルニ用フ可レ、夫レ「貨幣」ト「融通」トハ相互ニ何等ノ關係ヲモ有セザル者ナルヤ亦明白ナリ、蓋シ一國ニ巨額ノ「貨幣」ノ存スル有ルモ、若シ其工業微々トシニハ「融通」ハ小ナル可ク、之ニ反シテ「貨幣」ノ額僅少ナルモ、若シ民人勤勉巧妙ナラシニハ「貨幣」ノ手ヨリ手ニ轉移スルコト多クシテ其「融通」ハ大ナル可ケレハナリ

蓋シ流通物ノ用ハ事業ヲシテ活動セシムルニ在リ、果シテ事業ヲ活動スルコトナクシテ全ク無用ニ屬スル者ナルヲ以テ、其功能ハ其現額ニ由テ測度ス可キモノニ非ズシテ、其能ク活動セシムル所ノ事業ノ多寡ニ由テ測度ス可キモノナリ、箱中ニ蓄積スル貨幣ハ自然ニ増加スルコト能ハズ、唯ク潜伏セル功力アルノミ、ニシテ現發セル功力ハアルモノニ非ザルナリ、之ヲ名ツケテ潜伏セル功力若クハ富資ト曰フ可レ、譬ヘハ猶ホ製造場ノ汽機ノ運轉ヲ止メタル者ノゴトシ、汽機ニシテ運轉セズンバ何ノ用カ之アラン、而シテ製造場ノ製出物ハ汽機ノ運轉ノ多寡ニ由テ測度ス可キカ如ク、流通物ノ功能モ亦其運轉ノ多寡即チ余輩ノ所謂「融通」ニ由テ測度ス可キナリ、サレハ流通物ノ功能ヲ測度スルノ標準タル此ノ「融通」ナル者ハ、流通物ノ員數ト其「融通」ノ速力トヲ乘シタル

大、融通スル所ノ銀行格券ヲ稱シテ「レキユレ」シヨセト曰フハ、
 車輪ヲ稱シテ「回轉」ト曰フカ如ク、思想ノ錯亂モ亦甚クシカラズヤ、故ニ
 余輩ハ此ノ書ニ於テ決シテ「融通」即チ「レキユレ」シヨシナル語ヲ以
 テ一銀行ヨリ發行セル格券ノ額ヲ指示スルニ用ヒザル可シ、蓋シ正當
 ノ語法ハ「イン、シルキユレ」トシヨシ、「融通」中ナル銀行格券ノ額ト曰フニ
 在ルヤ明白ナレバナリ、余輩ハ「貨幣」及ビ「融通」ナル語ヲ以テ全ク相異ナ
 ルニ物ヲ指示スルニ用フ可シ、即チ前者ヲ以テ流通物ノ本物ヲ指示シ
 後者ヲ以テ流通物ノ手ヨリ手ニ轉移スルノ多寡ヲ指示スルニ用フ可
 シ、夫レ「貨幣」ト「融通」トハ相互ニ何等ノ關係ヲモ有セザル者ナルヤ亦明
 白ナリ、蓋シ一國ニ巨額ノ「貨幣」ノ存スル有ルモ、若シ其工業微々トラン
 ニハ「融通」ハ小ナル可ク、之ニ反シテ「貨幣」ノ額僅少ナルモ、若シ民人勤勉
 巧妙ナラシニハ「貨幣」ノ手ヨリ手ニ轉移スルヲ多クシテ其「融通」ハ大ナ
 ル可クレハナリ

蓋シ流通物ノ用ハ事業ヲシテ活動セシムルニ在リ、果シテ事業ヲ活動
 スルコトナクシテハ全ク無用ニ屬スル者ナルヲ以テ、其功能ハ其現額ニ
 由テ測度ス可キモノニ非ズシテ、其能ク活動セシムル所ノ事業ノ多寡
 ニ由テ測度ス可キモノナリ、箱中ニ蓄積スル貨幣ハ自然ニ増加スルコ
 ト能ハズ、唯メ「潜伏」セル「功力」アルノミ、ニシテ現發セル「功力」ハアルモノ
 ニ非ザルナリ、之ヲ名ツケテ「潜伏セル功力」若クハ「富資」ト曰フ可シ、譬ヘ
 ハ猶ホ製造場ノ汽機ノ運轉ヲ止メタル者ノゴトシ、汽機ニシテ運轉セ
 ズンバ何ノ用カ之アラシ、而シテ製造場ノ製出物ハ汽機ノ運轉ノ多寡
 ニ由テ測度ス可キカ如ク、流通物ノ功能モ亦其運轉ノ多寡即チ余輩ノ
 所謂「融通」ニ由テ測度ス可キナリ、サレハ流通物ノ功能ヲ測度スルノ標
 準タル此ノ「融通」ナル者ハ、流通物ノ員數ト其「融通」ノ速力トヲ乘シタル

ノ積ナルヲ以テ、何如ナル方法ヲ以テスルモ若シ現存流通物ノ融通ハ速度ヲ増大スルコトヲ得ハ、其流通物ノ功カモ亦大ニ増加ス可ク、若シ又商業ノ繁閑一定ノ度ニ止マリテ變易スルコト無クシバ、余輩ハ流通物ノ融通ノ速度ヲ増大シテ以テ商業ニ必要ナル流通物ノ員數ヲ減少スルコトヲ得ヘキヤ明白ナリ、機關手ノ汽機ノ運轉ノ多寡ヲ名ツケテ汽機ノ職分ト曰フカ如ク、余輩ハ流通物ノ融通ヲ名ツケテ流通物ノ職分ト曰フモ不可ナカル可シ

凡ク其類ノ流通物ヨリ生スル有功成果ノ何タルニ關シテ明晰ナル概念ヲ有スルハ極メテ緊要ナルヲ以テ、余輩ハ尙ホ他ノ證例ヲ引テ以テ之ヲ彰明セシトス、凡ク運轉スル物體ヨリ生スルノ成果ハ、獨リ其重量即チ質量ニ由ルノミナラズ、又其速度ニ由テ以テ之ヲ算定ス可キモノトス、之ヲ稱シテ其運動力ト曰フ、然リ而シテ縱ヒ質量ニ於テハ減少ス

ルコトアルモ、速度ヲ増大シテ以テ成果即チ運動力ノ上ニハ依然トシテ増減無カラシムルコトヲ得ヘシ、例ヘハ若シ重量一百磅ノ物體ニシテ假リニ一ト稱スル速度ヲ以テ運動スルトセンカ、其運動力ハ一百ナル可シ、今若シ其重量ヲ五十磅ニ減少シナガラ速度ヲ倍スルコトヲ得可シトセンカ、其成果即チ運動力ハ尙ホ依然トシテ一百ナル可シ、流通物ノ作用ニ至テモ亦然リ、其功能ハ員數ト、融通ノ速度トノ結合セル成果ニシテ、余輩ノ所謂「融通」ナルモノナリ、若シ從來一百磅ノ貨幣ヲ融通セシメ中途ヨリ前ニ倍スルノ速度ヲ以テ五十磅ノ貨幣ヲ融通セシムルコトヲ得ヘシトセハ其功能即チ融通ハ從來ト同一ナル可シ、サレバ流通物ノ融通ト物體ノ運動力トノ比較ハ甚メ的切ナリト謂フ所以ノ者ナリ

ノ融通ハ「流通物」ノ運動力、即チ職分ナリト謂フ所以ノ者ナリ

流通物ノ功能即チ其事業ヲ活動セシムルノ作用ハ、單ニ其員數ノミニ

關係スル者ニ非ザレハ、一國ニ在ル貨幣即チ金銀ノ分量ニ由テ以テ其國ノ貧富何如ヲ判定セントスルモ豈ニ得可ケンヤ、例ヘバ甲國ハ金銀餘リ有ルモ尙ホ貧困ナルコト有ラン、又乙國ハ甲國ニ比スレバ金銀少キモ尙ホ豊富ナルコト有ラン、西班牙ハ往時金銀ノ多キ歐洲諸國中其右ニ出ルモノ無カリシト雖、金銀ノ國內ニ流入スル愈多キハ從ヒテ愈貧困ニ趨キタリ、アダム、スミス曰「波蘭ヲ除クノ外、西班牙ハ歐洲中至貧ノ國ナリト、之ニ反シテ蘇格蘭ハ金銀貨幣極メテ少キノ國ナレド、其度ニ比スレバ極メテ豊富ナリ、佛國ニ在ル金銀貨ノ分量ハ英國ニ比スレバ甚ギ大ナリトス、然レモ英國ノ豊富ナル佛國ノ能ク及ブ所ニ非ズ、貨幣ノ能ク事業ヲ活動セシムルノ割合ニ至リテハ、英國ハ又迥ニ蘇格蘭ノ上ニ出アルヤ、明證確據ニ徴シテ疑ヲ容レザルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ諸國ノ有形流通物ノ額ノ比較ハ決シテ其國其國ノ貧富ノ懸據ニ非ズ

シテ、却テ利用シ得可キ富資ヲ浪用スルノ懸據ト爲スコヲ得ヘキ者ナルヤ、明白ナリ、若シ貨幣ヲ以テスルノ仕拂ニ代フルニ貨物ト貨物トノ公平ナル交易ヲ以テシタランニハ、之ヲ賣、買ト看做ス可キヤ否ヤノ至難ナル論題ハ、プロカラス及ビサピニナル羅馬法律家ノ有名ナル兩派ノ熱心辯論スル所ト爲リシガ、一百五十年ノ久キヲ經テ纔ニ能ク其局ヲ結ビタリ、即チオウガスマス帝ノ世ニ始マリハドリアン帝ノ世ニ終レリ、兩派各ホ一メルノ詩篇ヲ根據トシテ其意見ヲ主張セシガ、終ニ賣、買ト交易トハ全ク其性質ヲ異ニスルノ行爲ニシテ此ノ場合ハ之ヲ賣、買ト曰フヘカラストノプロカラス派ノ意見勝ヲ得タリ、サオクレシアシ及ビマキシミアンノ二帝此意見ヲ是認シ、且ツ其後ジヤスチニアン帝之ヲ教授書中ニ加ヘタリ、蓋シ之ヲ斷定スルニ至リシ所以ノ理由トセシ所ノ者ハ未ダ以テ完全ト爲スヘカラスト雖、其斷案ニ至テハ正當

ヲ得タサトス、其理由トスル所ニ曰、「二物ノ交易ニ於テハ、果シテ孰レカ賣ラレタルモノナルヤ孰レカ買ラレタル物件ノ價銀トシテ與ヘラレタルモノナルヤハ、決シテ判然タラザルナリ、若シニ物各賣ラレタルモノ、如ク又各他ノ價銀トシテ與ヘラレタルモノ、如シトセバ、是レ全ク事理ニ背ケリト、サレト余輩ハ一層較著ナル差別ノ、賣買ト交易トノ間ニ存スル有ルヲ知レリ、請フ之ヲ述ヘン、夫レ貨物ヲ以テ貨物ニ換フルルハ、是レ有用ノ資質アルヲ顯然タルノ貨物ヲ以テ、有用ノ資質アルヲ顯然タル他ノ貨物ニ換フルナリ、即テ同價物ト認定スヘキ二個ノ物ヲ交易スルナリ、然ルニ流通物ナル者ノ顯然表示スル所ハ、有用ノ資質ニ在ラスシテ、無形ノ資質即チ權利ニ在リ、是ヲ以テ貨物ヲ以テ流通物ニ換フルハ、是レ顯然タル有用ノ資質ヲ以テ、無形ノ權利ニ換フルニ外ナラズ、即チ貨物ヲ與ヘテ之ガ報酬トシテ同價物ヲ得ルノ權利ヲ收ム

ルヲミ、鑑定ノ物件ヲ以テ未定ノ物件ニ換フルノミ、是レ賣買ト交換トノ全ク異ナル所以ナリ、而シテ資質ノ同シカラザルニ箇ノ所作ヲ指示スルニハ、亦相同シカラザル名目ヲ以テスルコトヲ其策ナリトス

○價銀^〇「^〇プラ^〇割引^〇」^〇デ^〇ス^〇カ^〇及^〇ヒ^〇利^〇息^〇「^〇イ^〇ス^〇ト^〇」^〇の釋義

二十四節 一ノ經濟上可量物ト他ノ經濟上可量物トヲ交易スルルハ兩者各他ノ可量物ノ價格ヲ爲スモノト曰フ、然レモ兩箇可量物中ノ一ハ貨幣若クハ信約ナルル^〇ハ、此ノ貨幣若クハ信約ノ額ニ特別ノ名稱ヲ附シテ、之ヲ其他ノ可量物ノ價銀ト曰フ、蓋シ價銀ハ貨幣即チ信約ヲ以テ示セル價格ト同一物ナルヲ、前ノ第十九節ニ説ク所ノ趣旨ニ照シテ明白ナリ、然レモ凡ソ貨物ノ價格ヲ計ルニハ、獨リ貨幣若クハ信約ニ照

レテノ價格ヲ以テシテ、他ノ貨物ニ照レテノ價格ヲ以テセザルト觀將
 ニ在テハ一定不變ノ慣習ナルヲ以テ、價格及ビ價銀ナル語ハ殆ト同一
 ニシテ互ニ換用シ得可キモノト爲レリ、是ヲ以テ凡ソ貨物ノ價銀トハ、
 何時ヲ問ハズ、其貨物ト交換スル貨幣即チ信約ノ分量ノ謂ヒナリト知
 ルヘシ、然レモ學科上ヨリ之ヲ論スレバ、此ノ兩語ノ間ニ差別ノ存スル
 有ルコトヲ忘ル可カラザルヤ亦言ヲ俟タザルナリ
 夫レ然リ貨幣ノ價格ハ之ト交易スル貨物ニ在ルヲ以テ、若干分量ノ貨
 幣ヲ以テ易ヘ得ヘキ貨物ノ分量愈大ナルニ從テ、貨幣ノ價格モ亦愈大
 ナルヤ明白ナリ、若シ貨物ノ分量ハ動カズト見ルルハ、之ニ易ヘテ與フ
 ヘキ貨幣ノ分量愈少キニ從テ、貨幣ノ價格ハ愈大ナリトス、是ニ由テ之
 ヲ觀レバ貨幣ノ價格ハ價銀ト其昇降相反スル者ナルハ、明白ナリ
 然リト雖モ負債又ハ信約ト名ツクル類ノ所有ニ至テハ其價格ヲ計ル

半轉體ノ劣性アリ、英國ニ於テハ一年ヲ期シテ拂フ可キ一百磅ノ金額
 ヲ以テ負債ノ基數ト定メ、負債ノ買賣ハ近世商業ノ至緊至要ナル
 部門ノ一トス、今夫レ一年ヲ期シテ拂フ可キ一百磅ノ負債ハ買賣シ得
 可キ貨物タルヲ猶ホ某量ノ數額ノゴトクナルヲ以テ、其買賣上受授ス
 ル所ノ金額ハ、其負債ノ價銀タルコト何ゾ自餘ノ物件ニ就キテ余輩ノ所
 謂價銀ナル者ト異ナルコトアラシヤ、且ツ又貨幣ノ價格ハ價銀ノ減退
 スルニ從テ増進スルヤ固ヨリ言ヲ俟タザルナリ、蓋シ貨幣ハ利潤ヲ生
 スル者ナルヲ以テ、一年ヲ期シテ拂フ可キノ負債ヲ買フ爲ニ拂フ所ノ
 價銀ハ其負債ノ額ヨリ少カラザルヲ得ザルコト明白ナリ、斯ク負債ノ
 價銀ト負債ノ額トノ間ニ生スル差額ハ、之ヲ名ケテ「割引」^{ディスカント}ト曰フ、
 今此ノ差額ト價銀トニ加ヘタルノ和ハ負債ノ額ニ均シク、且ツ價銀減
 退スルニ從ヒ割引ハ増加スル者ナルヲ明白ナリ、是ヲ以テ割引ニ増加

アルルハ貨幣ノ價格即チ價銀モ亦從テ増加セザルヲ得ズ、今夫レ負債ノ價格ヲ計ルニ當リテ其割引ヲ呼ブ而シテ價銀ヲ呼バザルヲ商業上普通ノ慣習トス、又商業上負債ヲ買フヲ名ケテ負債ヲ割引スルト曰フ、今若シ銀行主一年ヲ期シテ拂フ可キ一百磅ノ負債ヲ九十五磅ニ買ハシ割引ハ五磅ナリ、世ニ銀行主ノ此ノ所爲ヲ稱シテ年五分ノ割合ヲ以テ負債ヲ割引スルト曰フ、若レ負債ノ價銀低落スルトキハ割引昇騰ス、而シテ貨幣ノ價格ノ昇降ハ、價銀ト相反スルヲ以テ割引ト其昇降ヲ同クスルモノナリ

是ニ由テ余輩ハ左ノ定則ヲ得タリ曰、
 貨幣ノ價格ノ昇降ハ、價銀ト相反シ、而シテ割引ト其昇降ヲ同クスルモノナリ

年五分ノ割合ヲ以テ爲換手形ヲ割引スルトハ、一年ヲ期シテ拂フ可キ負

債ノ金額一百磅毎ニ九十五磅ノ割合ヲ以テ負債ノ價銀ヲ與フルノ謂ナリ

然リト雖モ貨幣ノ價格ハ割引ト其昇降ヲ同クストノ言ハ、時有リテ之ヲ誤解スルモノアリ、例ヘバ若シ負債ノ價銀九十六磅ヨリ九十三磅ニ低落シ、從テ割引ハ三磅ヨリ六磅ニ昇騰スルルハ、貨幣ノ價格前ニ倍スト想料スルモノ往々之レ有リ、然レモ是レ全ク謬見ナリ、蓋シ前ニハ九十六磅ノ價ヲ有セシ負債ヲ、今ハ九十三磅ヲ以テ之ヲ賣ルナリ、是ヲ以テ貨幣ノ價格ハ僅ニ九十三ト九十六トノ割合ヲ以テ昇騰セシノミニシテ、倍セシニハ非ザルヤ明白ナリ

若シ人他人ニ貨幣ヲ貸與シ、歲暮ニ到ルヲ待テ利潤ヲ收メシヲ約諾スルルハ、此ノ利潤ヲ名ツケテ「利息」ト曰フ、故ニ一年五分ノ利息ヲ以テ一百磅ノ貸與ヲ行フルハ、其實歲暮ニ到リテ一百五磅ヲ拂フ可キノ負

債ヲ購買スルカ爲ニ一百磅ヲ拂フニ異ナラス、而シテ其五磅ハ則利息ナリ

此ノ營利法ハ、平人中ニ在テハ普通ナリト雖、銀行ニ於テハ決シテ之ヲ用ヒス、銀行主ハ必ズ負債ヲ購買スル時ヲ以テ直ニ約定ノ利潤ヲ除去スルヲ定規トス、即チ銀行主ハ常ニ利潤ヲ先收スルモノナリ、此場合ニ於テハ、利潤ヲ名ツケテ「割引」ト曰フ、例ヘバ銀行主年五分ノ割合ヲ以テ一百磅ノ證券ヲ割引スルモ、其主願ニ九十五磅ヲ交付シ、其五磅ハ利潤トシテ之ヲ留存ス、其實銀行主ニ於テ券面ニ記載セル年月日ノ後一年ヲ期シテ一百磅ヲ拂フ可キ負債ヲ購買スルカ爲ニ九十五磅ヲ拂フニ異ナラス、而シテ負債ノ價銀ト負債ノ金額トノ差額タル五磅ハ即チ「割引」ニシテ銀行主ノ利潤ナリ

此商業ノ方法ハ前者ニ比スレバ一層多利ナルヤ明白ナリ、何トナレバ

前者ニ於テハ實際一百磅ヲ出シテ以テ五磅ノ利潤ヲ得、後者ノ場合ニ於テハ實際九十五磅ヲ出スノミニテ五磅ノ利潤ヲ得レバナリ、況ンヤ又五磅ハ銀行主ノ掌中ニ在ルヲ以テ、歲暮ニ到ルヲ待タズ直ニ商業ノ用ニ充ツルコトヲ得ルニ於テヤ、銀行ノ運轉スル所ノ貨幣巨額ナルモ、此方法ハ其利潤上ニ甚タ較著ナル差異ヲ致セリ、割引ノ割合高キノ時ニ際シテハ殊ニ然リトス

○利息ノ割合ニテハ、イ及ヒ利潤ノ割合ニテハ、 $\frac{\text{利息}}{\text{資本}}$ 、 $\frac{\text{利潤}}{\text{資本}}$ ノ釋義

二十五節 余輩ハ今ヤ將ニ「經濟」ニ於テ無限ノ錯亂ノ原因ト爲リシ要語ノ釋義ヲ論セントス、人皆「利息ノ割合」トハ何ノ謂ナルヤヲ知レリ、若シ人年五分ノ利子ト曰フモ、其意常ニ以爲ラク例ヘバ一年ト云フガ如キ一定ノ時期ノ間、一百磅ノ金額ヲ使用スルガ爲ニ、五磅ヲ與フルノ

爾ヒナリト、吾人ハ何如ナル時期ヲ經テ利息ヲ生スルモノナリヤヲ指
 示スルニ非ザルヨリハ、決シテ利息ノ割合何如ヲ理會スルコト能ハザ
 ルナリ
 然ルニ「利潤ノ割合」ニ釋義ヲ下サントシタル先輩ニ於テ、此ノ要旨ヲ全
 ク不問ニ指キタルハ、輕忽モ亦甚シト謂フ可シ、誰カ圖ラン「經濟學士」中
 一人トシテ能ク時期ハ利潤ノ割合ノ釋義ニ於テ缺ク可カラザルノ一
 元素ナルヲ察セシ者無カルベシトハ、マクロツチハ曰「利潤ノ割合ト
 ハ、一事業ヨリ生出スル利潤ノ額ヲ、此ノ事業ニ用フル資本ト對照シタ
 ルノ割合ナリト」リカルドノ貸銀及ビ利潤ニ係ル主義ヲ視ルニ、徹頭徹
 尾此ノ要旨ノ遺漏ニ起レルノ謬妄甚ダ多シ、又「マルサス」ハ利潤ノ割合
 ヲ解釋シテ以テ凡ソ一ノ資本ヨリ生出スル利潤ノ額ヲ此ノ資本ノ額
 ト對照シタル毎百ノ割合ナリト爲セリ、ミル氏ト雖モ亦此ノ釋義ニ此

ノ誤真有ルコトヲ察セザリキ、其「經濟學」第二卷十五章ニ曰「然ラバ則勞
 力ノ費用ハ數學ノ語ヲ以テ言ハ、^{フレイキニ、フレンシニ}三不定數ノ函數ナリ、三不定數トハ
 何ツヤ、勞力ノ實効、勞力ノ賃銀、勞力者ノ爲ニ眞ノ報酬タル物件ヲ謂フ、
 及ビ此報酬ヲ組織スル物件ヲ產出シ若クハ給資スルノ費用是レナリ、
 資本主ノ負擔ニ屬スル勞力ノ費用ノ増減ハ必ズ三者ノ一ニ由ラザル
 ハ無ク、而シテ他ニ何等ノ之ガ原由タルモノ無キヤ明白ナリ、是ヲ以テ
 此ノ三者ハ亦利潤ノ割合ヲ定ムルノ原由ニシテ、其一ニ因由スルニ非
 ザルヨリハ利潤ノ割合ハ決シテ變動セザルナリト、嗚呼是レ何ノ言ツ
 ヤ、利潤ノ割合ハ利潤ヲ生スル時期ノ長短ニ由テ變動スルヲ無キカ、若
 シ某額ノ資本ヨリ某額ノ利潤生センニハ、其利潤ハ一年ニシテ生スル
 モ、又一日ニシテ生スルモ利潤ノ割合ハ同一ナルカ、經濟學士輩中ニ普
 ク行ハル、所ノ釋義ニ據レバ、例ヘバ一百磅ノ資本ヨリ生スル十磅ノ

利潤ハ一年、一月、一週、若クハ一日ニシテ生スルヲ問ハズ、其割合ハ正ニ同一ナリトセザルヲ得ズ、况ヤミル氏ノ所説ニ據レバ利潤ノ割合ハ決シテ利潤ヲ生スル時期ノ長短ニ由テ變動スルコト有ルヘカラザルナリ此ノ釋義ノ謬妄ニ屬スルハ極メテ顯然ナリ、豈ニ喋々ヲ要センヤ、時期ハ利潤ノ割合ノ釋義ニ於テ缺ク可ラザルノ一元素タルコト甚ダ明白ナリ、時期無クンバ利潤ノ割合ハ實ニ解ス可ラザルモノナルノミ、若シ人有リ余輩ニ告クルニ一商人一百磅ノ資本ヲ以テ十磅ノ利潤ヲ得タルコトヲ以テテストセンニ、余輩之ノミニ由テ其利潤ノ割合何如ヲ推測セントスルハ、恰モ一馬二十里ヲ馳セタリト聞キ、之レノミニ由テ其馬ノ速力ノ割合ヲ斷定セントスルカ如シ、豈ニ得可ケンヤ

實際得ル所ノ利潤ハ至小ナルモ、其割合ハ却テ至大ナルコト往々之レ有リ、若シ商人一回ノ賣買ヲ以テ、毎百ニ五十ノ利潤ヲ得ルトセンカ、是レ

巨大ノ利潤ナル可シ、然レモ若シ其賣買ヲ行フヤ一年一回ニ止マリムランニハ、其財貨ハ急速ニ増殖スル無ク、利潤ノ割合ハ五割ニ過ギザル可シ、然レモ若シ一回ノ賣買ヲ以テ得ル所ノ利潤毎百ニ五ノ割合ニ過ギザルモ、一日ニシテ此ノ利潤ヲ得トセンカ、則利潤ノ割合ハ一年毎百ニ一千五百強トナルヘシ而シテ若シ該商歲旦ヨリ歲暮ニ至ルマテ毎日必ス一回ノ賣買ヲ行フテ以テ此ノ利潤ヲ得タランニハ、實際得ル所ノ利潤ノ割合ハ一百五十割強ナル可シ、是レ現ニ得ル所ノ利潤低キモ其割合ハ却テ高キ所以ナリ、又若シ該商此ノ利潤ノ生スルニ從テ之ヲ資本ニ轉用シタランニハ、其本來ノ資本ニ對スル利潤ノ割合ハ重利ヲ以テ増進シテ益異常ノ等位ニ至ル可シ

利潤回復ノ屢ナルハ、一回ノ利潤ノ巨大ナルニ比スレバ其關係迥ニ重大ナルノ理ハ、經濟上著述者ノ漫然看過スル所ナレモ、ベールコンハ之ヲ

明察シタリ、曰「輕利却テ重責ヲ致ストノ諺語ハ眞ナリ、蓋シ大利ハ其來ルコト罕ナリト雖、小利ハ其來ルコト屢ナレバナリト、此ノ言ヤ近代世人ノ經驗ニ由テ商業上ノ格言ナリト證明スル所ノ小利迅回ナル諺ト其趣旨全ク符合セリ、

利潤ノ割合ノ釋義ニ於テ一言便チ認承セザルコトヲ得ザル此ノ誤謬ヲ改正セバ、利潤ノ事ニ係ル暗昧ノ事實ノ大半ヲ掃除スルコトヲ得ヘシ、例ヘバ若シ利潤一割ニ減少シタル時ト雖、尙ホ一割五分ノ利子ヲ拂フコトヲ得ヘシト云フカ如キハ少シク逆語タルニ似タリ、然レモ是レ全ク事實ニシテ往々吾人ノ遭遇スル所ナリ、其逆語タルニ似タル所以ノ者ハ、只々常話ニ於テ用ヒシ利息ノ割合ノ計算法ト利潤ノ割合ノ計算法トノ異ナルニ由ルノミ、夫レ商賈ノ利息ヲ拂フヤ、之ヲ計算スルニ毎、日ノ割合ヲ以テスルヲ常トス、利潤ノ計算ニ至リテハ時期ニ關セシ

テ、實際得ル所ヲ以テスルヲ常トス、例ヘバ商人一歳一割五分ノ割合ヲ以テ利息ヲ拂フトスルモ、其得ル所ノ利潤ハ恐ラクハ毎週若クハ毎日一割ノ割合ニ當ルヘシ、果シテ毎週一割ナリトセバ、一年ニ五十二割ニ當ルヘク、毎日一割ナリトセバ、年中ノ日曜日及ビ大祭日等ヲ除キテ計算スルモ一年ニ三百十三割ノ割合ニ當ルヘシ、斯ク説キ來レバ此ノ逆語ニ似タルノ觀ハ直ニ消散シ、商業利潤ノ割合低キ時ト雖、高額ノ利息ヲ拂テ尙ホ且ツ贏利アル所以ノ理ハ明白ナラン、倫敦ニ於テ平常二等ノ手形仲買人ハ三箇月後拂ノ手形ヲ取引スルニ於テ其主顧ニ課スルニ毎磅一「シルリング」ノ割合ヲ以テス、是レ其實二割ノ割引、即チ一年二割五分ノ利息ニ當レリ、古代及ビ中世ニ於テハ勿論米國ノ如キハ現時ニ於テモ利息ノ割合ハ一層高額ナリトス、然リト雖、此等ノ割合ハ之ヲ食物ノ販賣ヲ業トスル細商等ガ拂ヘル

利息ノ割合ニ比スレバ誠ニ些々タル者ノミ、此ノ事ハ英國ニ於テ近代ニ至ルマデ普ク行ハレ、又佛國ニ於テハ廢止ノ期蓋シ近キニ在ル可シト雖モ今尙ホ行ハル、利息制限法ノ、全ク謬妄ニ屬スルヲ明示スルノ證據タルコトヲ得可シ、查理王第一世ノ時代ノ著述家ジエラルド、マリチスハ一年四十割ノ利息ヲ以テ借入セル錢貨ヲ資本トシテ倫敦府ニ於テ食物ノ小賣商業ヲ經營セシ者多キコトヲ説ケリ、又佛國ニ於テハツール、エーノ時代ニ利息制限法ノ犯者ヲ罰スルニ最モ恐ル可キ嚴刑ヲ以テスルノ法律ヲ制定センカ、ツール、エーハ其謬妄ニ屬スルヲ證明センガ爲ニ巴勒府ノ子錢家ト市場ニ於テ食物ヲ買ヒ、之ヲ府中ノ諸處ニ於テ零賣スル細商トノ間ニ行ハル、貸借ノ實例ヲ引用シタリ、即チ二三ノ例ヲ以テ、貸借ノ利息ニ其利息ハ每週ニ「ス」フ、銅貨ノ名其價格ノ「ス」ハ、一年十七割三分ノ利息ニ當レリ、巴勒府中食物ノ小賣商業ハ

若此ノ貸借ノ方便、自由ヲ以テ經營セシモノナリ、ツール、エート同然ト雖モ借主ハ此ノ如キ貸借ノ約束ニ就テ決シテ苦情ヲ唱ヘズ、蓋シ此ノ貸借ノ方便無クシバ、彼輩ハ其由テ以テ生活スル所ノ商業ヲ經營スルコトヲ得ザレバナリ、又貸主ハ此ノ如キ高利ヲ貪ルモ、決シテ十分ノ富ヲ致スコト能ハズ、蓋シ其高利ハ資本ヲ危險ニ投スルノ補償ニ過ギザレバナリ、若シ一借主ノ倒産シテ還償スルコト能ハザルニ至ルアレバ、貸主ハ之ガ爲ニ三十ノ借主ヨリ得ル所ノ利潤ヲ悉皆損失スルナリト

十七割三分ノ利息ヲ以テ借入レタル錢貨ヲ資本トシツ、尙ホ商業ヲ行フコトヲ得ル者アリトノ思想ハ、先ツ其手段何如ヲ推究スルニ非ザルヨリハ、少シク奇異ニ過キタルニ似タリ、借主ハ「フランク」ノ借用ノ爲ニ每週ニ「ス」ヲ拂ヒシモ願フニ此ノ場合ニ於テハ借主ハ朝ニ其一

「フランク」ヲ以テ買ヒタル物件ヲ午後ニ至リテ三「フランク」平若クハ其
以上ノ價額ニ賣リシナラン、借主ニシテ若シ毎日一回此ノ手段ヲ行ハ
シ、其得ル所ハ日曜日ヲ除クモ歳尾ニ於テ三千百三十「ス」ニ至ルヘシ、
之ヲ要スルニ借主ハ常ニ六十「ス」ニ過ギザルノ資本ヲ以テ、一年五百
二十一割六分ノ割合ニ當レル三千百三十「ス」ノ利潤ヲ得テ、此ノ利潤
中ヨリ負債ノ爲ニ僅ニ一百七十三「ス」ヲ拂フニ過ギザルナリ

ゴスタブ、ド、ヒュイノード氏ハ前回ノ佛國立法會議ノ某議員ノ演說中
ヨリ一證例ヲ援引シタリ、其事タル前例ニ比スレバ、又一層驚ク可キモ
ノアリ、曰「食物ノ細商ハ毎朝五「フランク」ノ貨幣一片ヲ借リテ食物ヲ買
ヒ、之ヲ賣リテ三若クハ四「フランク」ノ利潤ヲ占メ、夕ニ至リテ五「フラン
ク」ヲ償ヒ、之ニ添フルニ二十五サンテーム、「サンテーム」ハ「フランク」ノ百分ハ「フランク」ノ利息ヲ
以テス、是レ實ニ一百八十割ノ利率ニ當ルト雖、後ノ輩ハ決シテ此ノ

高利率以テ憂ト爲サスト、其實憂フ阿キノ理由無キナリ、何トナレバ彼
ノ輩此ノ五「フランク」ヲ借リテ三「フランク」ノ利潤ヲ得、此ノ利潤中ヨリ
利息トシテ僅ニ一「フランク」ノ四分ノ一ヲ拂フニ過ギザレバナリ、縱ヒ
利息ノ割合ハ一年百八十割ニ十八倍當ルノ大ナルニ至ルモ、利潤ノ割合ハ果
シテ上述ノ如ク毎日三「フランク」ト假定スルハ、一年二千百六十割ニ
當ルヘシ、然ラハ則僅ニ利潤ノ十二分ノ一ニ過ギザルノ利息ハ決シテ
適當ト爲ス可カラザルナリ、然ルニ佛國ノ法律ニ據レバ六分ニ過グル
ノ利息ヲ收ムルヲ罪犯トス、其謬妄モ亦甚シカラズヤ

○「貨幣」に對する抵當「セキウリチ」、及び「兌換抵當」「コンブエリチ」の釋義

二十六節 貨幣ニ對スル抵當及ビ兌換抵當ナル語ハ「經濟」ニ於テ吾人ノ屢見ル所ナリ、余輩ハ今之ヲ説明セザルヲ得ズ
 夫レ「貨幣」ニ對スル「抵當」トハ一定ノ時ヲ以テ一定ノ人ヨリ一定ノ金額ヲ拂フノ約束即チ保證ノ謂ナリ、故ニ必ズ義務者即チ此ノ金額ノ仕拂ヲ負擔スルモノ無カルベカラズ、此ノ如キ抵當ノ様式ニ諸種行リ、銀行「借券」「約束手形」「爲換手形」「大藏省手形」「海軍士官振出手形」及ビ各種ノ負債證券ノ如キ是レナリ
 「兌換抵當」トハ格段ナル一個人ニ於テ仕拂ヲ負擔スルコト無シト雖モ、通常ノ情況ニ際シテハ、公開ノ市場ニ於テ容易ニ之カ購買者ニ逢フコトヲ得可キ抵當ノ謂ナリ、サレバ凡ソ容易ニ賣買スルコトヲ得可キ所有ハ皆之ヲ呼テ「兌換抵當」ト曰フモ可ナリ、「公債」「各種商社ノ「株式」及ヒ「單ニ證券」ヲ受授ニ由テ所有權ヲ轉移セシメ得ヘキ類ノ動産ニ係ル一切ノ證券

類(船運證券及ビ船荷送狀ノ如キ)ハ皆此ノ類ノ所有ニ屬スル者ナリ、船運證券及ビ船荷送狀等ト「信約證券」トノ間ニ存スル本然ノ別異ハ後ノ節ニ於テ之ヲ説明セン、蓋シ「兌換抵當」トハ容易ニ貨幣ニ換ヘ得可キ所有ノ謂ナルヲ以テ、其換ヘ得可キノ便利ノ度ニ至リテ千差萬別アルハ固ヨリ言フ俟タ所ズ、有ニ諸種アル中ニ就キテ所有タルノ精神ニ於テハ本然ノ差別有ルコト無シト雖モ、一切ノ所有中ニ在テ「公債」ハ其最モ換ヘ易キモノニシテ、土地即チ實産ハ其最モ換ヘ難キモノトス、是レ職トシテ其讓與ノ難キニ由ルモノナリ
 貨幣ニ對スル抵當ハ決シテ格段特殊ノ貨幣ヲ表證セズ、必ズ人ノ一身ニ對スル要求ノ權利ナリ、兌換抵當ハ決シテ人ノ一身ニ對スル要求ノ權利ニ非ズ、其二三種ハ必ズ常ニ格段特殊ノ貨物ノ所有ヲ証表スル者ナリ、時トシテハ貨幣ニ對スル抵當ヲ以テ「兌換抵當」ニ易ヘ得ベキコト

有り、是レ科語ニ所謂流轉ノ債ヲ恒定ノ債ト爲スノ手段ナル者ナリ、英國政府ハ往々一個人ノ如ク手形ヲ發出シテ以テ貨幣ヲ募集セリ、而シテ期限ニ至リテ其手形ヲ仕拂フノ義務有ルハ勿論トス、故ニ所謂大藏省手形ナル此等ノ手形ハ他ノ爲換手形ト同ク貨幣ニ對スル抵當ナリ、時トレテ此等ノ手形巨額ニ至ルニ及デ悉皆之ヲ仕拂フハ大藏省ノ爲ニ甚ク不便トス、故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ大藏省ハ其債主等ヲ諭シテ全債ノ償還ヲ要求セズシテ但永久元金ニ對スル利息ノミヲ收メンコトヲ許諾セシム、此ノ事果シテ行ハル、キハ債主ハ本金ヲ政府ニ要求スルノ權利ヲ失ヒ、唯公開ノ市場ニ於テ年金ヲ收ムルノ權利ヲ他人ニ賣與スルコトヲ得ルノミナリ、是ニ於テ貨幣ニ對スル抵當ハ一變シテ兌換抵當ト爲リ、之ヲ稱レテ公債ト曰フ、又此ノ取引ヲ名ケテ流轉ノ債ヲ恒定ノ債ト爲スト曰フ、鐵道會社モ亦、デベンチエールト名クル證

書ヲ發行シテ以テ貨幣ヲ借ルコトヲ得ルナリ、然レモ斯ク借り入レタル巨額ノ貨幣ヲ償還スルハ甚ク不便ナルヲ以テ會社ハ之ヲ株式ト爲シ「公債」ノ如クニ利息ノ仕拂ノミヲ負擔スルナリ

○資本カビの釋義

二十七節 資本ナル語ハ「經濟」ニ於テ至緊至要ナル本然概念ノ一トス、余輩ハ既ニ設定セシ規則ニ照シテ以テ其釋義ヲ構成セザル可カラズ、凡ソ「經濟上可量物」ハ、其何タルヲ問ハズ、兩個別様ノ方法ヲ以テ之ヲ用フルコトヲ得可シ、即チ所有主自己直接ノ娛樂ノ爲ニ躬親ラ之ヲ用フルコトヲ得ヘク、又ハ利潤ヲ生出センガ爲ニ之ヲ用フルコトヲ得可シ、若シ「經濟上可量物」ヲ斯ク生産上ニ用フルルハ、即チ利潤ヲ生出スルニ用フル

ハ、之ヲ名ケテ「資本」ト曰フ、セニオナル曰、凡ソ利潤ヲ生出スル所ノ物件
 ハ其何タルヲ問ハズ、宜ク資本ト名クベシトハ學者ノ翕然同意スル所
 ナリト、確論ナリ、又ステツフエンハ五百年代ノ「大全辭典」ニ此ノ語ヲ解
 釋シテ曰、資本トハ凡ソ利潤又ハ税金ノ源テ出ル所ナリト
 世間ニ絶對ノ資本ト謂フガ如キ者決シテ存在スルコト無キノ理ハ明
 ニ之ヲ體會セザル可カラズ、凡ソ「經濟上可量物」ノ資本ト呼フ可キト否
 トハ其物品ノ性質何如ニ關スルモノニ非ズシテ、之ヲ用フルノ方法、何
 如ニ關スルモノナリ、余輩ハ既ニ「經濟上可量物」ニ三種有ルヲ説キタ
 リ、而シテ各種皆利潤ヲ生出スルニ用フ可キヲ以テ、資本モ亦三種有ル
 ハ固ヨリ言フ俟タズ、今若シ余某領ノ貨幣ヲ有シ、之ヲ以テ自用ニ充ツ
 可キ物件ヲ購買セハ、此ノ貨幣ハ資本ニ非ズ、然レモ何等ノ方法ヲ以テ
 スルニ拘ラズ、若シ利潤ヲ生出スルニ用ヒレバ、此ノ貨幣ハ則資本ト爲

ルナリ、例ヘバ若シ余利潤ヲ定メ、之ヲ貸與シ、若クハ再賣シテ利潤ヲ
 得シガ爲ニ之ヲ以テ公債ヲ購買シ、若クハ狀師又ハ醫師等ノ如キ業務
 ヲ執ルニ錢ク可カラザルノ學識ヲ得シガ爲ニ之ヲ費サバ、此ノ貨幣ハ
 資本ナリ、而シテ利潤ヲ生出センガ爲ニ購買セル物件又ハ貨物モ亦名
 ケテ「資本」ト曰フ、其故ハ之ヲ得ルニハ本ト貨幣ヲ用ヒタリト雖モ、再ビ
 此等ノ物件又ハ貨物ヲ用ヒテ以テ貨幣ヲ買フモノニシテ、此等ノ物件
 又ハ貨物ヲ賣ルニハ、之ヲ買フニ費ヤレタル所ニ比スレハ多少高額ノ
 價ヲ以テスルニ非ザレバ、遂モ利潤有ラザレバナリ
 失レ然リ、凡ソ何等ノ有形物モ悉ク資本ナルヲ得可シ、地主ニ屬スル
 地所、若シ其地主ヨシテ利潤ヲ得セシメバ、則其地主ノ「資本」ナリ、倫敦京
 城ノ大半立テ所ノ廣大無限ノ地面ハ、名門貴族ノ所有ニ屬シ、之ヲシテ
 莫大ノ歳入ヲ收メシム、故ニ此ノ地面ハ此ノ名門貴族ノ「資本」ナリ

又天然物ニシテ資本タルヲ得可キモノ鮮シトセズ若シ人其地面内ニ天然ノ瀑布ヲ有シ之ヲ以テ實用ニ供セスシテ單ニ庭園ノ粧飾ト爲サバ此ノ瀑布ハ「資本」ニ非ズ然レモ若シ之ヲ以テ磨機ヲ運轉スルノ用ニ供セバ此ノ瀑布ハ則「資本」ト爲ルナリ又人有リ疾病ヲ醫治スルノ聲價ヲ得テ來客ヲシテ來集居住スルニ至ラシムルノ温泉ヲ有シ之ガ爲ニ土地ノ價格ヲ貴クシ且ツ自家ニ十分ノ歲入ヲ收メバ此ノ温泉ハ則此ノ人ノ「資本」ナリ

人或ハ曰大氣日光等ハ人ノ獨リ專用スルコト能ハザルモノナルヲ以テ富貴ニ非ズト然レモ風土ハ一國ノ爲ニ「資本」タルノ實ヲ爲スコト往々之レ有リ風土ハ交易ヲ去ルヲ得ザルヤ固ヨリ言ヲ俟タズ然レモ健康ヲ保全スル爲ニ外人ヲ引誘シテ此ニ居住スルニ至ラシメ以テ財貨ヲ收集スルコトアリ若シ其地ニシテ風土ノ健康ニ益スルコト無クンバ

何ゾ外人ノ來住スル有ラシヤサレバ風土ハ「マブリア」リナイラ及ビ自餘ノ諸地ニ於テハ眞ノ「資本」ナリ

又余若シ音樂又ハ演戲ノ才藝ヲ有シ自己及ビ友人ノ娛樂ノ爲ニ之ヲ用フルニ止マラバ此ノ才藝ハ「資本」ニ非ズ然レモ若シ余俳優ヲ本業トシテ戲臺ニ上リ若クハ奏樂シテ以テ錢貨ヲ得バ則此等ノ才藝ハ「資本」ト爲ルナリ牧師、法律師、醫師、陸海軍人、土木師、文官等ノ如キ凡百ノ職業ニ至リテモ亦然リ又若シ余自己ノ娛樂ノ爲ニ余ガ庭園ニ於テ耒耜ヲ執ラバ余ガ勞力ハ「資本」ニ非ズ然レモ若シ余賃銀ヲ得ンガ爲ニ耒耜ヲ執ラバ余ガ勞力ハ則「資本」ト爲ルナリ夫レ今日力役ニ從事スル民類ノ大半ニ取テハ其勞力ハ實ニ無二ノ「資本」ナリ

又工藝上ノ秘訣モ若シ能ク之ヲ隱秘シ利潤ヲ得ンガ爲ニ之ヲ用フルコトヲ得ルノ間ハ其人ノ爲ニ甚々貴重ナル「資本」ナリ

第三種ノ「經濟上可量物」モ亦「資本」ナルヲ得可シ。若シ著述家一書ヲ著シ、其書世ニ行ハルレバ、其版權ハ著述家ノ「資本」ナリ。若シ又著述者之ヲ出版者ニ賣ラバ、其版權ハ出版者ノ「資本」ナリ。若シ人有リ公債ヲ購買セバ、其公債ハ此ノ人ノ「資本」ナリ。公債又ハ商業會社ノ「株式」ヲ賣買スルヲ以テ業トスル一種ノ商買有リ。株式仲買人ト名ツケラル、其常ニ株式ノ本品ヲ備フルハ恰モ他ノ商買ガ有形貨物ノ本品ヲ備フルカ如シ。銀行主ノ業務ハ商業上ノ負債ヲ買フニ在リ。銀行主ハ負債ノ満期前ニ其正額ヨリモ低キ價銀ヲ以テ之ヲ買ヒ、満期ニ到レバ其正額ヲ以テ負債主ニ賣ル者ナリ。此等負債ノ銀行主ニ於ケルハ、正ニ貨物ノ舖主ニ於ケルト同一ニレテ、銀行主ノ「資本」ナリ。而シテ銀行主ハ必ズ常ニ自己ノ信約ヲ以テ之ヲ買フニ因リ、其信約モ亦銀行主ノ「資本」ナリ。

此ノ種ノ「資本」中至緊要ナル部類ノ一ハ、商買ガ「簿記上ノ資本」信約ナリ。

リヲ購買カヒレテ用フル時、在リトス。商人ハ貨物ヲ買フニ現銀ヲ以テセズシテ、仕拂ノ約束ヲ以テス。此等ノ仕拂ノ約束、即チ仕拂方ヲ要求ス可キ權利ハ、商業上流通シテ貨幣ノ功用ヲ有シ、且ツ自ラ一種特別ノ盛大ナル商業ニ於テ賣買スル貨物ヲ爲スモノナリ。

二十八節 「資本」ヲ増殖スルノ方法ニシテ、本來全ク相異ナル者二有リ、第一、分量ノ直接現實ノ増殖ヲ以テスル者、即チ家畜、穀類、及ビ一切ノ地産ノ増殖スルガ如キ是レナリ。

第二、交易ヲ以テスル者、即チ一地方ニ於テ低價ナル某物件ヲ以テ高價ナル某物件ニ換フルガ如キ是レナリ。今夫レ貨幣ハ利潤ヲ生出スルモノナリ、是ヲ以テ其資本ト爲ルハ第二ノ方法ニ在ルセ明白ナリ。余輩ハ穀類ノ種子ヲ播クガゴトク土地ニ「ソバレイ」^英貨^金ノ種子ヲ播カズ、又「ソバレイ」ハ半「ソバレイ」^英貨^金ノ收穫ヲモ盡出セザルナリ。然レモ貨幣

ハ貨物ト交易シテ以テ資本ト爲リ、而シテ此ノ貨物ハ之ニ費ス所ヨリ
 多少大ナル價額ヲ以テ再ビ之ヲ賣ルコト、即チ交易スルヲ得可シ、又
 凡ツ貨物ヲ買ヒ且ツ利潤ヲ得シガ爲ニ貨幣ニ代用セラル、「經濟上可
 量物」ハ、其何タルヲ問ハズ、貨幣ト一般ニ資本ナルヲセニオルノ言ノ如
 ク乘經濟學士ノ翕然同意スル所ト爲リシ釋義ニ徵シテ明白ナリ
 スミスハ「富國論」第二卷五章ニ論シテ曰「資本ハ四個別様ノ方法ヲ以テ
 之ヲ用フルコトヲ得可シ、第一ハ社會ノ使用及ビ消費ノ爲ニ年々需要
 スル所ノ原産ヲ得ルニ用ヒ、第二ハ此ノ原産ヲ製造調理シテ即時ノ使
 用及ビ消費ニ適セシムルニ用ヒ、第三ハ原産又ハ既製産ヲ充足ノ地ヨ
 リ飲乏ノ地ニ運輸スルニ用ヒ、第四ハ原産又ハ既製産ノ一部分ヲ細割
 シテ需要者臨時ノ需要ニ適スルニ用フルナリト、蓋シ後ノ二法ハ精神
 同クシテ其ニ外商、賣商及ビ零賣商ノ業務、即チ貿易ノ全體ヲ包含ス

ルヤ明白ナリ、是ヲ以テスミスハ資本ヲ生産上ニ用フルニ三個別様ノ
 方法、即チ農業、製造、及ビ商業ノ三者有ルヲ説キ、ルモノナリト謂フ
 モ可ナリ、而シテ余輩ハ此ノ三者ニ加フルニスミス自家モ後ニ至リテ
 認容セシガ如ク狀師、醫師等ノ業務ヲ執ルニ缺ク可カラザル學識ヲ得
 ルニ費ヤス所ノ貨幣ヲ以テセザル可カラズ、故ニ生産ナル語ノ經濟上
 ノ釋義何如ハ未ダ之ヲ考究スルニ及バサルモ、下文ニ至リテ之ヲ論ズ
 余輩ハ直ニスミスノ交易、若クハ賣、買ヲ以テ生産ノ一種ニ算入セシ
 ヲ知ルナリ、ミル氏ハ「經濟論」第一卷四章四節ニ論シテ曰ク「凡ソ他ノ
 物件ト交易スルヲ得ヘキ物件ハ、其何タルヲ問ハズ、貨幣ト同等ニ生
 産ヲ助クルヲ得ルナリト、又其第三卷十二章一節ニ曰「銀行楮券、爲換
 手形及ビ振出手形ハ貨幣ノ如ク融通シテ貨幣ノ一切ノ功用ヲ爲スト」
 貨幣ハ再ヒ販賣シテ利潤ヲ得ンガ爲ニ之ヲ用テ物件ヲ購買スルニ於

テ生産資本ト爲ル者ナリ、又若シ人有リ其信約即チ將來ノ某時ヲ以テ其仕拂ヲ爲ス可キノ約束ヲ用テ、物件ヲ買フコトヲ得テ、之ヲ其原價ヨリモ高價ニ販賣シ、負債ヲ拂ヒタルノ後、尙ホ多少ノ利潤ヲ得タリトセバ、其信約ノ此ノ人ノ爲ニ資本ナルハ遂モ貨幣ト異ナラザルヤ甚ダ明白ナリ

余輩試ニ甚ダ簡易ナル證例ヲ示サン、一ノ裁縫工其主顧ノ爲ニ衣服ヲ調製ストセンカ、裁縫工ハ、現金十磅ヲ裁縫商ニ拂ヒ、而シテ衣服ヲ調製スル後之ヲ十五磅ニ賣ラバ、是レ自己ノ貨幣ヲ資本ニ用ヒシモノシテ、此ノ事業ノ始ニ於テハ十磅ヲ有シ、終ニ於テハ十五磅ヲ有ス、之ヲ要スルハ裁縫工ハ五磅ノ利潤ヲ得タルモノナリ
若シ裁縫工遂モ裁縫ヲ買フ可キ貨幣ヲ有スルコト無シトセンカ、則信約ヲ以テ之ヲ買フニ非ザルヨリハ到底衣服ヲ調製スルコト能ハズ、又何

等ノ利潤ヲモ占ムルコト能ハザルナリ

然レトモ、若シ裁縫商ニ於テ裁縫工ノ正直ニシテ仕拂ヲ爲レ得可キコトヲ信シ、三個月ノ後貨幣ニ仕拂フヘシトノ裁縫工ノ約束ト交易レテ裁縫商ハ保險料トシテ即金ノ價銀ヨリハ稍、高キ價銀ヲ裁縫工ニ課ス可キコト勿論ナリ、即チ三個月ノ後十一磅ヲ仕拂フヘシトノ裁縫工ノ約束ト交易レテ其裁縫商ハ仕拂ヒタルコト異ナルコト無シ、其裁縫商ハ去テ裁縫工ノ手ニ歸シ、裁縫商ガ裁縫ト交易レテ收ムル所ノ者ハ三個月ノ後十一磅ヲ要求スルノ「權利」即チ「所有」ナリ、此ノ所有ヲ名ケテ「信約」又ハ「負債」ト曰フ

裁縫工ハ三個月ノ後ニ仕拂フ可キ十一磅ノ債ヲ其身ニ負フテ以テ裁

ヲ買ヒタルニ因リ、前ノ如ク衣服ヲ製シテ其主顧ヨリ十五磅ヲ收メ、三個月ノ終ニ及ビ此ノ金額ノ中ヨリ十一磅ヲ絨商ニ仕拂ヒテ自家ニハ四磅ノ利潤ヲ餘ス可キヤ勿論ナリ

夫レ裁縫工ハ現金ノ取引ヲ以テスレバ、終ニ五磅ノ所有ヲ増シ、信約上ノ取引ヲ以テスレバ四磅ノ所有ヲ増スモノナレハ、裁縫工ノ信約ヲ以テスルハ現金ヲ以テスルノ利潤ノ大ナルニ如カザルヤ固ヨリ言ヲ俟タズ、而モ尙ホ裁縫工ハ其信約ヲ以テ利潤ヲ得タリ、信約無クンバ彼レ焉ゾ能ク之ヲ得可ケンヤ、此ノ解釋ニ據テ其信約ハ裁縫工ノ爲ニ資本ニシテ、正ニ現金ト一樣ニ貨物ノ融通及ビ勢力ノ使役ヲ致セシ者ナルコトヲ知ルヘシ、是ニ由テ之ヲ觀レバ信約ハ正ニ貨幣ト同一方法同一意義ヲ以テ生産資本ナルヤ明白ナリ

信約ハ資本ナリトノ教理ハ、近年識者ノ力辯非斥スル所ト爲レリト雖

モ、今此ノ處ニ於テハ姑ク此ノ簡易ナル證例ヲ以テ之ヲ説明スルノ用ニ當テザル可カラズ、信約ノ制ハ殆ド近世一切ノ商業ノ由テ以テ經理セラル、所ノ方法ナルヲ以テ、後節ニ於テ甚ク詳密ナル考究解説ヲ陳ス可シ、人ノ正直ノ美德ニ由テ公衆ニ得ル所ノ信用ハ、之ヲ「德義上ノ資本」ト名クルモ可ナリ、然レモ此ノ資本ハ其人ニ於テ之ヲ商業上ノ取引ニ用ヒ、之ニ基ク仕拂ノ約束ヲ以テ購買ヲ施行スルニ非ザルヨリハ「經濟」ノ域内ニ屬セザルナリ、此ノ資本斯ク商業上ニ使用セラル、ニ及ブハ確實ナル「權利」即チ「所有」ト爲リテ、猶ホ「有形所有」ノ一トク賣買スルコトヲ得可キ一種ノ「無體所有」ヲナスモノナリ

是ニ於テカ余輩ハ「資本」ナル語ノ普關釋義ヲ得タリ、資本トハ凡ソ「利潤」ヲ得ンガ爲ニ用ヒル所ノ「經濟上可量物」ナリト

今ヤ既ニ「資本」ナル語ニ就キ、簡明該策ニシテ且ツ余輩ノ設定セシ規則

ニ銘ヘル此ノ普爾概念ヲ得タルヲ以テ、余輩ハ實ニ是テ本論ノ主意ヲ
闡明スヘキナレトモ、不幸ニシテ不合理的ノ制限アルカ爲ニ狹窄ニ失
スル釋義ノ行ハル、有リテ、頗ル錯亂誤謬ヲ致セシヲ以テ、暫ク論鋒ヲ
轉シテ此ノ錯亂ヲ排除セザルヲ得ズ

二十九節「資本」ナル語ハ、利子ヲ定メテ貸與スル本金額ヲ指示スル希臘
語「ケバレイウ」ヨリ來リテ、今日ニ傳ハレル者ナリ

ナレバ「プロット」ハ立法論第五篇七百四十二章ニ論シテ曰「利息若クハ
本金額ヲ貸主ニ還ササル事ト、又其第二十二篇二十八章ニ曰「余ハ此ノ自
由ヲ巨額ヲ以テ購ヒタリト。又スイヤヌハ曰「貨幣ナル資本」ト
余輩ハ希臘ノ「ケバレイウ」ナル語ヲ比喻上ニ用ヒテ以テ廣ク事物ノ本
源ヲ指示スル類ノ文字ヲ看シテ無シ、然レ「希臘ニ於テ「カプト」ナル語

ハ常ニ獨リ利子ヲ得ンガ爲ニ貸與セル金額ト云フ意義ニ用ヒル是ミ
ナラズ、又事物ノ由テ來ル所ノ本原ト云フ意義ニ用ヒタルモノナリ、
サレバ「プロット」第六篇十五章ニ曰「本金額中ヨリ利子トシテ計算スル額
ヲ除去セヨ」ト

又其第六篇三十六章ニ曰「彼等ハ負債ニ係ル一ノ法令ヲ頒布シ、以テ凡
ソ利子トシテ計算スル額ハ本金額中ヨリ除去ス可キモノト定メタリキ」
ト

又ホレ「ス」ノ譏諷第一篇第二章十四節ニ曰「彼レ其本金額ニ對シ、通常ハ
利息相場ノ五倍ヲ浚リ取レリ」ト

此等ノ文字ニ於テハ「カプト」ナル語ヲ、利息ヲ定メテ貸與スル金額ト云
フ意義ニ用ヒタルモノナリ、然レ且又之ヲ事物ノ何タルニ拘ハラズ、其
本原ト云フ意義ニ用ヒタルコト往々之レ有リ、コラメラハ之ヲ廣ク資

本ノ意義ニ用ヒタリキ、其第十一篇一章二十八節ニ曰「失ヒタル資本カ
損失ヲ挽回センガ爲メト」
上世ノ羅甸文ニ於テハ余輩「カピタル」ナル語ノ此ノ義意ニ用ヒラレレ
ヲ看ズ、然レ^ズ此ノ語ハ中世ノ羅甸文ニ於テ此ノ意義ニ用ヒタリ
爾後星移リ物換ルニ從テ、此ノ「カブイメレ」ヲ短縮シテ「カブ」ト爲シ、
特ニ家畜類ヲ指示スルニ用ヒタリキ、他ナシ家畜類ハ首要ナル富資ナ
リシニ因レリ、家畜類ヲ指示スルニ用ヒル「カツトル」及ビ物件ヲ指示ス
ルニ用ヒル「チャットル」ス「ナル英語ハ皆此ノ語ヨリ轉訛シ來レルナリ」
又以太利語及ビ佛蘭西語ニ於テ「カピタル」ナル語ハ商業ニ投入セル（即
チ利潤ヲ得ルノ用ニ供スル）金額ヲ指示スルニ用ヒラレタリキ、夫レ「カ
ピタル」ヲ以テ利息ヲ得ンガ爲ニ貸與スル金額ノ謂ヒト爲スハ普關ノ
觀念ヲ特別ノ用ニ供スルニ外ナラザルナリ、而レテ若シ余輩此ノ觀念

ヲ概括セント欲セバ「カピタル」トハ凡ソ利潤ヲ得ンガ爲ニ用ヒル「經濟
上可量物」ナリ、即チ利潤ノ由テ來ル所ノ本源ナリト謂フコトヲ得ルナ
リ
「經濟學士輩」ノ始メテ「カピタル」ナル語ヲ用フルニ當テハ、利割ヲ定メテ
貸與スル金額ヲ指示スルニ用ヒシカ、爾後ツールゴ―ハ一層談義ナル
意義ヲ以テ之ニ與ヘタリキ、其著ス所ノ「財貨之造成分配論」第五十九節
ニ曰「何人ヲ論セズ其土地ヨリ得ル所ノ利益、若クハ其勞力又ハ勤工ヨ
リ得ル所ノ賃銀ヲ以テ、毎歲其費ス所ヲ償フテ餘リ有ラバ、之ヲ蓄積ス
ルヲ得可シ、斯ク蓄積セル價額ハ、則余輩ノ所謂「カピタル」ナルモノナリ」
ト、後ツールゴ―ハ貨幣ヨリ成立スル所ノ此ノ「カピタル」ヲ土地ニ係ル
所有權ノ如キ物件ニ投入スルヲ得ル所以ノ理ヲ示明セリ、同書第五十
九節ニ曰「此ノ價格即チ此ノ「カピタル」ノ金塊ヨリ成立スルト、他ノ物件

ヨリ成立スルトハ、毫モ異ナル所無キナリ、何トナレバ、各種ノ價格ハ貨幣ヲ表スルト同様ニ貨幣モ亦各種ノ價格ヲ表スレバナリト、是ニ於テソールゴ一ハ始テ「カピタル」ハ既往ノ勞力ノ累積スルノ結果ニシテ、主トシテ貨幣タリ又田圃若クハ商品等ノ如キ他ノ物件タリトノ意見ヲ説キタリ、同書第百節ニ曰「貨幣ハ之ヲ現存資本ノ全額ニ比スレバ殆ド無キガ如キ者ナリト雖モ資本造成ノ事ニ於テハ頗ル與リテ力有ル者ナルノ理ハ余輩既ニ之ヲ明ニシタリ、實ニ一切ノ儲蓄ハ殆ト貨幣ニ非ザルハ無シ、入息トシテ所有主ニ拂ハル、モノモ貨幣ナリ、本銀及ビ利潤トシテ各種ノ起業者ニ復歸スルモノモ亦貨幣ナリ、是ヲ以テ所有主及ビ起業者ノ儲蓄スル所ノモノハ貨幣ニシテ、其資本ハ毎歲貨幣ヲ以テ増殖ス、然レモ起業者ハ決シテ之ヲ別事ニ使用セズ、直ニ之ヲ其事業ノ運轉ニ必要ナル他ノ物件ニ變換スルノミ、故ニ此ノ貨幣ハ世間ノ融

通上ニ復歸ス、而シテ資本ノ最大部分ハ至ク別種ノ物件ヨリ成立スルナリト

斯ノ如ク「資本」ナル語ノ意義ハ稍、該兼ヲ加ヘテ凡ソ利潤ヲ生出スル各種ノ物件ヲ指示スルニ至リシモ、尙ホ既往ノ勞力ノ結果ナリトノ制限ヲ脱却セザリキ、アダム、スミスハ「富國論」第二卷一章ニ論レテ曰「若シ人所有ノ資金僅少ニシテ數日若クハ數週間其身ヲ養フニ過ギザルハ、之ニ由テ利益ヲ得ンコトヲ欲スルコト罕ナリ、此ノ如キ者ハ成ル可ク節用シテ之ヲ消費シ、而シテ未ダ悉皆之ヲ消費セザルノ前ニ其勞力ヲ盡シテ之ニ代ル可キ物件ヲ得ンコトヲ圖ルハ、此ノ場合ニ方テハ、其利益ハ獨リ其勞力ヨリ生出スレバナリ、是レ乃チ諸國ニ於テ力役ニ従事スル貧民ノ情況ナリ」

「然レモ人若シ數月間若クハ數年間其身ヲ養フニ足ル資金ヲ所有スル

其ハ利益ノ收入アルニ至ルマデ其身ヲ養フ可キ部分ヲ存留シテ、資金ノ過半部分ヨリ利益ヲ生出セシメンコトヲ圖ルコト自然ノ人情ナリ、是ヲ以テ其資金ノ全額ヲ分チテ二部分ト爲シ、利益ヲ生出セシムルノ用ニ供スル所ノ部分ヲ名ケテ「資本」ト曰フ、他ノ一ハ則チ目下消費ノ用ニ充ル所ノ部分ニシテ、或ハ(第一ニハ)其資金ノ全額中此ノ用ノ爲ニ存留スル部分ヨリ成立シ、或ハ(第二ニハ)出處ノ何タルヲ問ハズ漸次入ル所ノ利益ヨリ成立シ、或ハ(第三ニハ)往年ニ於テ前ノ兩者ノ一ヲ以テ購買セシ衣服家具等ノ如キ未タ全ク消費ニ至ラザル物件ヨリ成立スルナリト

是ニ由テ之ヲ觀レバ、資本ヲ以テ特殊ノ方法ニ用ヒル「經濟上可量物」ナリト爲スヤ明白ナリ、又其論旨ハ往時ノ蓄積ヲ以テ缺ク可カラザル者ナリト爲スノ意ヲ包含スルヤ、疑ヲ容レザルナリ

然リト雖、資本ハ商賈ガ由テ以テ利潤ヲ生出セシムルコトヲ得ル所ノ者ハ其資金ノ外ニモ亦之レ有リトノ明白ナル事實ヲ感覺セザルヲ得ザリヤナリ、即チ其「富國論」第一卷十章ニ曰「商業ハ資金ノ増殖スルニ從テ之ヲ擴張スルコトヲ得可シ、而シテ節儉殷富ナル人ノ「信約」ノ増加スルハ、其資金ノ増加スルニ比スレバ更ニ速カナリトス、其商業ハ本錢信約兩者ノ多寡ニ準シテ擴張シ、而シテ其利潤ノ多寡ハ其商業ノ廣狹ニ準シ、又其毎歳ノ蓄積ハ其利潤ノ多寡ニ準スルナリト、スミスハ「信約」ノ資金ト一樣ニ利潤ノ一源ナルコトヲ察スルヤ斯ノ如ク明瞭ナリ、而シテ余輩ガ下文ニ示ス所ノ如クスミスハ各種ノ證券類ヲ流轉資本ノ部下ニ編入シ、且ツ人ノ智識才藝モ人ヲシテ利潤ヲ得シムルノ故ヲ以テ亦資本中ニ算入シタリ

又セ、セイハ著述ノ諸處ニ於テ資本ヲ組織スル種々ノ物件ヲ放棄シ

タル後資本中ニ種々ノ學術ヲ包含セシメ且ツ終ニ生産事業ニ用ヒタル、各種ノ物件ヲ包含セシメタリ、其經濟論第一篇第八章ニ曰、是レ即チ余ガ物件ニ存スル價格ハ、其價格ノ存スル所ノ物件ノ何タルヲ問ハズ、生産事業ニ用ヒラル、ノ時ヨリ、之ヲ名ケテ「資本」ト曰フヘシトスル所以ナリト

英國著述家ハ大抵既往ノ勞力ノ結果ト云フ制限ヲ以テ「資本」ノ釋義中ニ加ヘタリ、リカルドハ其經濟及租稅之理第十六頁ニ曰「アダム、スミスノ論スル所ノ如キ上古草昧ノ世ニ在テモ、尙ホ且ツ「資本」ハ恐ラクハ蠶人ノ自ラ造作蓄積スル所ナラント雖モ、蠶人ヲシテ野獸ヲ殺スコトヲ得シムルニ必要ナリシナル可シト、然レモ此ノ「資本」ナル語ノ解説ハ、其第八十九頁ニ至リテ余輩始メテ之ヲ見ルコトヲ得タリ、資本トハ一國ノ富資ソ中ニ在テ生産ノ爲ニ用ヒ且ツ勞力ヲ施行スルニ缺ク可カラザ

ル食料、衣服、原質等ヨリ成立スル所ノ部分ナリト、然レモリカルドハ富資又ハ生産ナル語ヲ以テ指示スル所ノ意義ヲ明言セザルヲ以テ余輩ハ遂ニ其論旨何如ヲ窺フコトヲ得ザルナリ

セニオルハ其經濟論第五十九頁ニ曰「資本」ナル語ハ種々ノ意義ニ用フレバ、終ニ人ヲシテ其果シテ一定ノ意義有ルヤ否ヤヲ疑ハシムルニ至レリ、然レモ余輩以爲ラク世俗普通ノ意義ニ於テモ、又經濟學士輩ガ故チラ一家ノ釋義ニ拘泥セス知ラス、此ノ事ニ附テ論スル時ニ在テモ此ノ語ハ人カノ結果ニシテ富貴ハ生産又ハ分配ニ用フル富資ハ一部ヲ指示スル者ナリト、余輩ガ人カノ結果ト言フハ、所謂自然効力物ト稱スル類ノ生産ノ具(學科上ノ意義ニ於テ所謂利潤ナルモノヲ生出セズ惟ダ税金ヲ生出スル者)ヲ除カンガ爲メナリト

然リト雖モ「資本」ノ此ノ釋義ハ余輩ノ前ニ引用セシ所ニ就テモ見ルヘ

事如クモニヤルガ他ノ事ニ於テ明言セシ所ト融合セザルヲ即チ凡
 ツ利潤ヲ生出スル所ノ物件ハ其何ハルヲ問ハズ宜ク「資本」ト名ツクベ
 レトハ經濟學士輩ノ翕然同意スル所ナリトノ言ト融合セザルナリ
 小ミル氏ハ其經濟論第一卷四章ニ曰「勞力及ヒ自然ノ効力物ヲ以テ成
 本所ノ本原普通ノ生産上ノ必要物ノ外ニ他ノ必要物有リ之レ無クン
 バ止古ノ租野ニシテ且ツ狭少ナル生産事業ヲ除クノ外決シテ何等ノ
 生産事業ヲモ行フ可カラザル者ナリトス此ノ理ハ上章既ニ之ヲ明コ
 シタリ他ノ必要物トハ何ツヤ即チ往時ノ勞力ノ產物中ヨリ預メ蓄積
 シタル財本是レナリ斯ク勞力產物中ヨリ蓄積シタル資金ヲ名ツケテ
 「資本」ト曰フ生産上資本ノ功用何如ヲ通曉スルハ極メテ緊要トス益シ
 余輩ノ論旨ヲ妨害スル所ノ膠見誤説ハ此ノ要旨ヲ解スルノ不完ニシ
 テ且ツ錯雜ナルニ起レルモノ多キニ居レバナリ」

「資本」トハ全ク此ノ問題ヲ講究スルニ慣レザル者ノ如キハ貨幣ト同一
 意義ノ者ナリト看做セリ此ノ見解ノ謬妄ナルヲ證明センニハ余輩ノ
 緒言ニ説ク所ヲ反復シテ足ランノミ貨幣ヲ以テ「資本」ト同一意義ト爲
 スハ何ゾ貨幣ヲ以テ富資ト同一意義ト爲スニ異ナランヤ貨幣ハ毫モ
 生産ヲ助ケザルヲ以テ自ラ資本ノ功用ノ一分ヲモ爲スコト能ハズ此
 ノ功用ヲ爲サンニハ先ツ貨幣ヲ以テ他ノ物件ニ換ヘザルヲ得ズ而シ
 テ凡ツ何物ヲ問ハズ他ノ物件ト交易スルヲ得キ物件ハ其生産ニ
 與リテ力有ルヲ之ヲ交易ニ供シ得キノ度ニ比例スルモノトス資本
 ノ生産ノ爲ニ爲ス所ハ其事業ニ必要ナル庇祐器具及ヒ物料ヲ供給シ
 且ツ就業中其勞力者ヲ保養扶持スルニ在リ是レ皆現時ノ勞力ニ於テ
 既往ノ勞力及ビ其產物ニ仰ク所ノ幫助ナリ凡ツ此ノ用ニ供セラル、
 物件即チ此等種々ノ要務ヲ以テ生産勞力ヲ助クルノ用ニ供セラル、

物件ハ其何タルヲ問ハズ悉ク「資本」ナリ」下
 「然ラバ則「資本」ナルト「資本」ナラザルトノ區別ハ、貨物ノ種類ニ在ルニ非
 ズシテ唯タ財主ノ心意ニ在ルナリ、即チ財主ノ之ヲ甲ノ用ニ供セシヨ
 リ、寧ロ乙ノ用ニ供セント欲スルノ志念ニ在ルナリ、而シテ一切ノ所有
 ハ縱ヒ勞力者ノ用ニ適セザルモ、該所有若クハ之ヲ以テ收メラル可キ
 價格ニシテ果シテ更ニ生産事業ヲ起スノ用ニ供セラルニ當テハ則「資
 本」ノ一部分ト爲ルナリト」
 サテミル氏ノ「資本」トハ特別ノ物件ニ非ズ、凡ソ何等ノ物件ヲ問ハズ、其
 「資本」ナルト然ラザルトハ、全ク之ヲ用フルノ方法、何如ニ關スト云フニ
 至リテハ、全ク余輩ト意見ヲ同クセリ、而シテミル氏ハ又何物ヲ問ハズ、
 交易シ得可キ物件及ヒ特ニ生産ノ用ニ供スル一切ノ財産即チ所有ハ
 資本タルヲ得可キヲ説ケリ、氏既ニ此ノ事ヲ許容セリ、而シテ此ノ許

容ハ余輩ノ下文ニ説ク所ノ如ク極メテ緊要ナリトス
 自餘ノ著述家ノ所説ニ至テハ上ニ陳述スル所ト異ナルコト無キヲ以
 テ、之ヲ列舉スルコトヲ要セズ、之ヲ概スルニ、何物ヲ論セス自然ニシテ
 資本ナルコト無ク、其資本ナルト然ラザルトハ、全ク使用ノ方法何如ニ關
 ストノ理ハ、衆著述家ノ認許スル所ナリト謂フコトヲ得ルナリ
 前説ハ之ヲ以テ資本ノ一般ノ釋義トシテハ極メテ正當ナル者ナリ然
 ルニ奈何セン衆著述家ハ皆此ノ釋義ヲ羈束スルニ資本ハ既往ノ勞力
 ノ結果ナリトノ制限ヲ以テセリ、サレバ余輩以爲ラク此ノ輩ノ釋義ノ
 精神ヲ明言セバ左ノ如クナル可シ曰
 資本トハ、既往ノ勞力ヲ以テ蓄積シテ、特別ノ方法ニ用フル富資ナリ
 此ノ釋義ハ概念ノ構成法ニ就キテ余輩ノ設定セシ第一ノ元則ニ背ケ
 リ、此ノ釋義ハ普關通通ナラズシテ制限アリ、何トナレバ此ノ釋義ハ全

體ノ富資ヲ指示セズシテ、唯々既往ノ人力ノ結果タル富資ルミヲ指示スルニ止マレバナリ

此ノ釋義ノ當否何如ヲ斷定セント欲セバ、此ノ制限ハ果シテ本然ニシテ缺ク可カラザルモノナルヤ、若クハ偶然ニシテ棄却シ得可キモノナルヤヲ觀察セサル可カラス

夫レ現存資本中ノ幾部分ハ人力ノ結果ナルヤ固ヨリ言フ俟ズト雖、人類ノ占有セシ初ノ資本ハ人力ノ結果ニ非サリシヤ。甚ダ明白ナリ試ム之ヲ陳セン

人ノ始メテ地球上ニ現出セシ時ニ當テヤ、其生活ニ必要ナル物件ハ、既ニ備具セシテ決シテ疑ヲ容レズ、是レ人々皆同意セザルヲ得ザル所ノ斷定ナリ、夫ノ熱心シテ書「創世記」第一篇ノ正解ニ拘泥スル者、又地質學士ニシテ全ク法教ヲ信セザル者モ、何如ナル方法ヲ以テ、又何如ナル

時ヲ以テ人ノ地球上ニ現出セシヤヲ論セズ、其始メテ現出セシ時既ニ其用ノ爲ニ菓實、穀類、蓄類、及ヒ魚類ノ備ヘ有リタリト云フニ至テハ、全ク所見ヲ同クセリ、誰カ敢テ太初ノ蓄類、太初ノ菓實、太初ノ穀類ハ人力ノ結果ナリシト斷言スルコトヲ得ンヤ

サレバ人類ハ此等物件ノ一部分ヲ以テ目下ノ用ニ充テ、自餘ノ部分ヲ將來ノ繁殖生産ノ爲ニ保存貯蓄シテ直ニ「資本」ト爲セシモノナリ、此ハ資本ハ豈ニ人力ノ結果ナランヤ、且ツ又蓄類ノ如キハ、之ヲ專有シ、之ヲ看護シ、又以テ繁殖ノ用ニ備フルヲ得可シ、故ニ資本ノ一種ナリ、現ニ「カツトル」類ナル語ハ、「カピタル」ナル語ヨリ轉訛シ來レル者ナリ、然レハ畜類ヲ指シテ蓄積セル人力ノ結果ナリト言フハ、余輩ヲ以テ之ヲ視レバ言詞濫用ノ最モ甚シキ者ナルガ如シ

結菓木ニ至テモ亦同一ノ論ヲ以テ之ヲ推ス可シ、結菓木ハ資本ナリ、然

レ用、人力ノ結果ト名ツクルハ決シテ正當ナラズ、穀類ニ至リテモ亦然リ、之ガ爲ニ人力ヲ用フルノ多キハ、結集木ノ比ニ非スト雖、之ヲ人力ノ結果ト名ツクルハ、余輩ヲ以テ之ヲ視レバ、尙ホ用語ノ法其當ヲ得ザルモノ、如シ、人實ニ能ク禾ヲ種ヘ水ヲ引クコトヲ得可シ、然レ、穀ヲ生セシムルモノハ豈ニ人ナラシヤ、ホ—ル能ク禾ヲ種ヘアボルロス能ク水ヲ引ク可シ、然レ、穀ヲ生セシムルモノハ天帝ナリ

今夫レ資本中蓄積セル人力ノ結果ナルモノ少ナカラサルハ疑ヲ容レズ、然レ、原始資本ノ全体及ビ現存資本ノ一大部分ハ人力ノ結果ニ非ザルコト右ニ論セシカ如クナレハ、既往人力ノ蓄積ナル制限ハ、是レ資本ナル者ノ必、有性ニ非ズシテ、唯々其偶、有性ナルヲ知ルヘシ、故ニ之ヲ其普關釋義中ヨリ排除セザルヲ得ザルノ理ハ亦甚ダ明白ナリ、凡ソ概念及ビ元律ヲ構成スルニ於テ、其中ニ包含シ得可キノ事實多クナルモ、

苟モ一ノ其中ニ包含シ得可カラザル事實アルハ、其概念及ビ元律ハ不完全ナルヲ以テ、之ヲ廢シテ、更ニ該兼ナル概念及ビ元律ヲ構成セザル可カラサルハ是レ歸納論理學上ノ一大定則ニシテ、以上論スル所ノ如キハ、以テ此ノ大定則ヲ證明スルノ一例トナス可キモノナリ

資本ノ釋義ニ、既往人力ノ產物ナル制限ヲ加列スルハ、是レ資本ヲ得タルノ手段何如ノ解説ヲ下スニ過ギズ、此ノ理甚ダ明白ナリ、又普通ノ著述家ハ只々資本ト看做スヘキ物件ハ何々ナルヤヲ説テ以テ自ラ足レリトセリ、サレド余輩ノ要スル所ノ者ハ如何シテ資本ヲ得ルヤノ解説ニ非ズ、又資本タルヘキ物件ハ何々ナルヤノ枚舉ニ非ズ、唯々「資本」トハ何ゾヤノ概念即チ釋義ヲ要スルナリ

是ヲ以テ余輩ハ既定スラク、今ヤ「資本」ノ釋義ヲシテ之ヲ羈束スルノ制限ヲ脱却セシメザル可カラズ、斯ル制限ハ到底排除セザルヲ得ザルハ、

阻碍ナリト、是ニ於テカ余輩ハ凡ソ「資本」トハ何物ヲ問ハズ「利潤」ヲ得シ
 ガ爲ニ用ヒタル「經濟上可量物」ナリトノ普關概念ヲ得タリ
 「資本」ナル語ヲ明解スルハ「經濟」ノ全体ヲ正當ニ理會スルカ爲ニ至緊至
 要ノ事ニシテ、此ノ理學ニ係ル錯亂誤解ハ此ノ謬妄ナル制限ニ起レル
 モノ甚タ多キニ居ルヲ知ル可シ、小ミル氏ハ何物ヲ論セス、交易シ得
 可キ物件ハ貨幣ト一様ニ資本タルコトヲ得ヘキモノナルヲ説キ、且
 ツ諸章ニ於テ銀行楮券モ資本タルコトヲ得ヘキモノナルヲ説ケリ、
 サレバ試ニ問ハン、銀行楮券又ハ信約(銀行楮券ハ信約ノ一表式ナリ)ハ
 如何シテ之ヲ既往人力ノ蓄積ト稱ス可キヤト、交易シ得可ク且ツ利潤
 ヲ生出ス可キ物件ニシテ、決シテ既往人力ノ結果ニ非サルモノ夥多キ
 ヲ奈何セン

○「資本」に係るミル氏の四原則の考查

三十節 余輩ハ既ニ資本ノ普關概念ヲ得タルヲ以テ直ニ進ンテ資本
 ノ理ヲ説明セント欲スレトモ、ミル氏ノ「經濟論」第一卷五章ニ資本ニ係
 ル四原則ト稱スルモノヲ定制セシヲ以テ、先ツ此處ニ之ヲ考查セザル
 ヲ得ザルナリ
 其四原則ハ左ノ如シ

第一 「資本」ハ事業ヲ制限スル事

第二 「資本」ハ悉皆儲蓄ノ結果ナル事

第三 「資本」ハ儲蓄ノ結果ナリト雖モ、悉皆消費、即チ滅却セラレ、事

第四 「生産勞力」ヲ維持シ且之ヲ使用スル者ハ其勞力ヲ施行スルニ
 費セル資本ニシテ、勞力ノ產物既ニ成ルノ後之ヲ購買スル者
 ノ需要ニ非ザル事(即チ貨物ニ對スル需要ハ勞力ニ對スル需

要ニ非ザル事

資本ハ工業ヲ制限ストノミル氏ノ第一原則ハ元トスミスニ出テシモ
 ノナリ、其富國論第四卷第二章ニ曰「社會全體ノ事業ハ決シテ其社會ノ
 維持シ得ル所ニ超過スルコトヲ得ザルナリ、今人アリ其常ニ僱使スルコ
 トヲ得ヘキ勞力者ノ員數ハ其資本ノ大小ニ準セザルヲ得ザルガ如ク、一
 大社會ノ各員ノ常ニ僱使スルコトヲ得可キ勞力者ノ員數モ亦其社會ノ
 資本ノ大小ニ準セザルヲ得ズ、決シテ此ノ割合ヲ超過スルコト無ナキ
 モノナリ、商業上何如ナル法則ヲ設クルモ、凡ソ一社會ノ事業ノ多寡ハ、
 其資本ノ以テ維持スルニ足ル所ヲ超過スルコトヲ事ザルナリト、余輩
 ハ此ニ一言ス可キモノ有リ曰、スミスハ余輩ノ前ニ示セシガ如ク、商業
 ハ商人ノ資金及ビ一切ハ信約ニ準シテ之ヲ擴張スルコトヲ得可キ者ナ
 リト明言シ、且ツ證券類ヲ資本ノ部下ニ加列セリト、夫レ近代ニ至テハ

明言シ、且ツ證券類ヲ資本ノ部下ニ加列セリト、夫レ近代ニ至テハ

世上ノ事業ノ二十分ノ十九、否ナ一層事實ニ近カラント欲セバ、恐クハ
 其百分ノ九十九ハ、信約ニ由テ經營セラル、モノナラスヤ、夫レ然リ信
 約モ資本ナリト認定スレハ則可ナリ、若シ然ラザレバ此ノ原則ハ全ク
 謬妄ニ屬セン

資本ハ悉皆儲蓄ノ結果ナリト云フ第二原則ニ至テハ、余輩既ニ之ヲ辯
 駁シタリ、儲蓄ノ結果タル資本ハ、資本總体中ノ一部分ナルノミ、十分ニ
 證明セシ如ク近代商業ノ大半ハ各經濟學士(ミル氏モ其一ニ居ル)ノ、資
 本ナリト明言スル所タル信約ニ由テ經營セラル、サレト信約ハ如何シ
 テ儲蓄ノ結果タルコトヲ得ンヤ、其他資本ニシテ儲蓄ノ結果ニ非サル自
 餘ノ物件ノ如キハ、枚舉ニ遑アラズ、是ヲ以テ此ノ原則ハ獨リ原則トス
 ルニ足シザルノミナラズ、又全ク謬妄ニ屬スルモノナリ

「資本」ハ儲蓄ノ結果ナリト雖モ悉皆消費(即チ滅却)セラルトノ第三原則

ハ謬妄ヲ極メタル前則ニ比スレハ更ニ謬妄ノ甚シキモノトス
 ベットフォールド侯及ピウエストミンストル侯ハ倫敦京城ノ立ツ所ノ
 廣大ナル土地ノ所有主ニシテ、此ノ土地極メテ巨額ノ歲入ヲ生ス、故ニ
 此ノ土地ハ兩侯ノ資本ナリ、然レトモ此ノ土地ハ如何シテ消費セラル
 、ヤ **呼** **改** **リ** **マ** **ス** **シ** **セ** **ル** **ニ** **テ** **ハ** **ナ** **リ** **ト** **ス** **ニ** **テ** **ハ** **ナ** **リ** **ト** **ス**
 英國及ヒ蘇格蘭ノ盛大ナル合本銀行ハ現ニ其信約ニ由テ營業セリ、凡
 ツ各國ノ經濟上著述家ニシテ、其自ラ講ク所ヲ自ラ了解スルモノハ、皆
 銀行ノ信約ハ其由テ以テ購買ヲ行ヒ、利潤ヲ得ル所ノ要具タルヲ以テ
 銀行ノ資本ナルノ理ヲ了解明言セザルハ無シ、然レトモ其信約ハ如何
 シテ消費セラル、ヤ
 一大家有リ、一書ヲ著述センニ、其版權ハ勞力ノ結果ニシテ、其人ノ資本
 ナリ、或ハ著者又之ヲ出版者ニ賣與ストセンカ、其版權ハ則此ノ出版者

ノ資本ナリ、サテ此ノ版權ハ或ハ立法院ノ決議ニ依テ滅却セラレ、コ
 コソアルヘケレ、其他ハ如何シテ消費セラル、ヤ
 人有リ、其精工ヲ以テ營業上ノ秘訣ヲ發見シ、之レカ爲ニ大ナル利潤ヲ
 收ムトセハ、此ノ秘訣ハ其仲間ノ入金タリ且ツ資本タリ、然レトモ此ノ
 秘訣ハ如何シテ消費セラル、ヤ
 商人アリ、主願ヲ買フ、是レ其人ノ資本ナリ、然レトモ此ノ主願ハ如何シ
 テ消費セラル、ヤ
 倫敦ニ於ケル街道横過ノ貸銀ヲ收ムル權利ハ、恰モ土地ト同ク貴重ナ
 ル所有ニシテ、以テ賣買ス可ク、以テ子孫ニ傳フ可ク、以テ嫁資ト爲ス可
 クシテ、毫モ土地ニ係ル所領ト異ナラザルナリ、然レトモ此ノ權利ハ如
 何シテ儲蓄ノ結果ナルヤ、如何シテ消費セラル、ヤ
 土地ノ所有主其土地ニ温泉ヲ發見センニ、此ノ温泉諸病ヲ治スルノ効

有リ、衆人來集シテ、家屋ノ需要頻リニ起リ、其所有主ヲシテ巨額ノ歳入ヲ得シム、故ニ資本ナリ、サレト是レ儲蓄ノ結果ナルヤ、温泉ハ永久湧出スルモノナリ、如何シテ消費セラル、ヤ

「船渠會社」運河會社、又ハ「鐵道會社」ハ株主ヨリ株金ヲ收集ス、是レ其資本ナリ、會社ハ船渠又ハ運河ノ開鑿若クハ鐵道ノ築造ニ此ノ資本ヲ費用セン、然ルトキハ此ノ船渠、運河、又ハ鐵道其資本ト爲ル、之ヲ維持修繕スルニ多少ノ金額ヲ要ス可キハ固ヨリ疑ヲ容レズ、然レ其船渠、運河、又ハ鐵道ハ如何シテ消費セラル、ヤ

資本ハ悉皆消費セラルトハ資本ニ係ル一原則ナリト言フノ全ク謬妄ニ屬スルヲ證明センガ爲ニ、若シ必要ナランニハ、余輩ハ尙ホ許多ノ證例ヲ提出スルコトヲ得可シ、然レ此上文ノ數例ハ以テ此原則ノ僅々一小部ノ資本ニ就テ言フ可クシテ、一切ノ資本ニ關シテ類ム可カラザルコトヲ證明スルニ足ラン

トヲ證明スルニ足ラン

資本ニ係ルミル氏ノ第四原則ハ、其經濟論第一卷五章九節ニ之ヲ説ケリ、曰、余輩ハ今資本ニ係ル第四原則即チ前ノ三原則ニ比スレバ一層屢、吾人ノ忽忘シ誤認スル所ト爲レルモノニ論及セン、抑、生産勞力ヲ維持シ且ツ之ヲ使用スル者ハ、此ノ勞力ヲ施行スルニ費セル資本ニシテ、勞力ノ生産既ニ成ルノ後之ヲ購買スル者ノ需要ニ非ザルナリ、即チ貨物ニ對スル需要ハ勞力ニ對スル需要ニ非ザルナリト、蓋シ余輩ヲ以テ之ヲ視レバ此ノ論題ヨリ起ル可キ議論ハ勞力ノ報酬ノ條ニ屬シテ適當ナルニ似タリ、故ニ賃銀ノ章ニ到ルヲ待テ之ヲ考查セントス

○「固定資本」(Fixed Capital) 及「流轉資本」(Circulating Capital) の釋義

三十一節 上ニ説ク所ニ由テ之ヲ考フレバ、資本ノ真正ノ釋義ハ、凡ソ

何物ヲ問ハズ利潤ヲ得ンガ爲ニ用フル經濟上可量物ナリト云フニ在
リ然レモ利潤ヲ生出スルカ爲ニ資本ヲ用フルニ兩個異様ノ方法有リ、
或ハ資本依然トシテ所有主ノ手ニ止マルコト有リ、然ルモハ通常之ヲ名
ツケテ「固定資本」ト曰フ、或ハ所有主一旦資本ヲ捨テ後又該資本ト利潤
ト共ニ其手ニ復スルコト有リ、此ノ場合ニ於テハ之ヲ名ツケテ「融通資本」
又ハ「流轉資本」ト曰フ

スミスハ其富國論第二卷十一章ニ於テ四種ノ固定資本ヲ舉示セリ、
(第一)ハ工業ニ必要ナル機械及ビ器具、(第二)ハ各種ノ事業ニ用フル家屋、
(第三)ハ農場ニ屬スル家屋、塙、溝渠等、(第四)ハ社會ノ各員ノ學ビ得タル
有用ノ才能是レナリ

スミス又四種ノ流轉資本ヲ舉示セリ、(第一)ハ下ノ三種ノ物件ヲ融通セ
シメテ之ヲ其消費者ニ分配スル所以ノ具タル貨幣、(第二)ハ諸商賈ノ貯

藏スル貨物、(第三)ハ諸工人ノ手ニ在ル未加工物料、(第四)ハ此等物料ノ完
工シテ賣買ニ適スルニ至レルモノ是レナリ

スミスノ舉示スル所ハ完全ヲ去ルコト甚タ遠キヤ明白ナリ、何トナレ
バ、氏ノ舉示ニ漏レタル所有ニシテ尙ホ資本タルモノ、其種類尠ナカラ
ザレバナリ、然レモスミスハ流轉資本ノ條下ニ貨幣ヲ加列セリ、而シテ
彼カ所謂貨幣ナル語中ニハ常ニ各種ノ證券ヲ包含セシム、但シ「ペーパ
ー」モ「紙幣」ト「ベーパー」カ「レンシ」證券類密ニハトノ間ニ差別ヲ生シ
タルハスミス以後ノ事ニシテ、スミスノ常ニ以テ流轉資本ト爲ス所ノ

貨幣又ハ融通ノ車輪ナル語中ニハ各種ノ證券ヲモ包含セシメタリ、サ
テ此ノ證券ナルモノハ「信約」ニ外ナラス、是ニ於テカ余輩ハスミスハ明
ニ信約ヲ以テ資本ノ條下ニ加列スルモノナルコトヲ知レリ
若シ一回ノ取引ヲ以テ賠還ヲ得ンニハ、其賠還ハ原品ヲ償フニ必要ナ

ル金額及ヒ欲望スル所ノ利潤ヲ包含セザル可カラザルヤ明白ナリ、然レモ若シ一定ノ時間、例ヘバ一年間數次ニ分割シテ賠償ヲ得ンニハ、每次ノ賠償ハ、一分ハ以テ其間ノ原品ノ損壞ヲ償ヒ、一分ハ以テ財主ノ餘利即チ利潤トナル可キ金額ヨリ成立シ、以テ該時期ノ終リニ至リ原品ノ全ク盡ルニ及テ、此等毎次ノ賠償ノ總額原品ヲ償フニ足リ、且ツ其利潤ヲ包含セザル可カラズ

一物品ノ固定資本若クハ流轉資本ノ名ヲ以テ呼バル、所以ノモノハ、其之ヲ生産スルノ主意何如ニ在テ、物品ノ種類何如ニ在ラズ、此ノ理ハ宜ク之ヲ吾人ノ心理ニ瞭然メラシムベキナリ、同一物品ト雖モ之ヲ生産シ、若クハ之ヲ生産スルニ於テ目的トスル所ノ者ヲ異ニスル人々ノ手ニ轉移スルニ從テ、其名ヲ異ニスルコト有リ、即チ同一物品ト雖モ若シ其第一ノ所有主ハ之ヲ賣ランガ爲ニ生産シ、其第二ノ所有主ハ之ヲ用

ヒテ以テ入金ヲ得ンガ爲ニ購買セバ、則第一所有主ノ手ニ在テハ流轉資本ニシテ、第二所有主ノ手ニ在テハ固定資本ナリトス

此ノ差別ハ又次ノ如ク説クコトヲ得ヘシ、即チ若シ物品ノ全價銀ヲ其國當時ノ入息中ヨリ一時ニ拂フトキハ、該物品ハ流轉資本ナリ、然レモ若シ唯々之ヲ用ヒテ以テ利息若クハ歳入ヲ得ルニ止マラバ、該物品ハ固定資本ナリ、世人往々此ノ差別ヲ漫然看過シ、固定資本ナル語ヲ以テ某種ノ物品ヲ指示スルニ用ヒ、流轉資本ナル語ヲ以テ別種ノ物品ヲ指示スルニ用フ、例ヘバ、家屋、土地、機械、鐵道、及ビ船舶ハ往々固定資本ト名ケラル、然レモ是レ極メテ誤レリ、若シ人有リ直ニ賣與スルノ目的ヲ以テ家屋ヲ建築スルニ其資本ヲ用フルトキハ、此ノ家屋ハ該人ノ手ニ在テハ流轉資本ナリ、何トナレバ、其價銀ハ一時ニ授受スルコトナレバナリ、然レモ若シ別ニ人有リ此ノ家屋ヲ他人ニ貸シテ、其資本ヨリ入金ノミ

ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ購買セバ、此ノ家屋ハ該人ノ手ニ在テハ則固
 定資本トナルナリ、又初メヨリ再賣シテ利潤ヲ得ンコトヲ圖リテ土地
 ヲ買フモノ世間其人少シトセズ、土地ト雖此ノ如キ投機者ノ手ニ在
 テハ流轉資本タルナリ、然レモ若シ此ノ土地ヲ小作人ニ貸與シ若クハ
 自ラ之ヲ耕シ以テ歲入ノミヲ得ント欲シテ之ヲ購買スルモアラバ、此
 ノ土地ハ該人ノ爲ニハ固定資本タルナリ、機械ニ至リテモ亦然リ、貨物
 製造者ニ賣ランガ爲ニ之ヲ製作スル機械製作者ノ爲ニハ流轉資本タ
 リ、然レモ之ヲ運用シテ生産ヲ増殖シ、以テ利潤ノミヲ得ンガ爲ニ之ヲ
 購買スル貨物製造者ノ手ニ在テハ、固定資本タルナリ、是ヲ以テ一切ノ
 物件ハ、其種類ノ何タルヲ問ハズ、之ガ販賣ヲ業トスル人、即チ務メテ速
 ニ之ヲ賣却センガ爲ニ之ヲ生産シ若クハ購買スル人ノ手ニ在テハ、流
 轉資本ニシテ、之ヲ使用シテ以テ利潤ヲ得ル人ノ手ニ轉移スルニ及ブ

ハ忽チ固定資本トナルナリト概言スルコトヲ得ヘシ
 右ニ説ク所ノ類ノ物件ハ、概シテ皆結局固定資本ト爲スノ目的ヲ以テ
 生産スル者タルヤ固ヨリ言フ俟タズ、然レモ其之ヲ生産スル所以ノ事
 情異ナルニ從テ、固定資本ナルト然ラザルトノ別アリ、此ノ理ハ余輩ノ
 既ニ明示シタル所ナリ、苟モ預メ其事情何如ヲ知ルニ非ザルヨリハ、此
 等ノ物件ニ下スニ孰レノ名ヲ以テス可キヤヲ斷定シ難キナリ、サテ又
 家具及ヒ衣服ノ如キニ至テハ、概シテ之ヲ言ヘハ、直ニ販賣センガ爲ニ
 製作スル者ナルヲ以テ、概シテ流轉資本ト名ク可シ、然レモ若シ人有リ
 貸與シテ以テ借貸ヲ得ンガ爲ニ之ヲ製作シタランニハ、此ノ人ノ手ニ
 在ラハ固定資本ナル可シ、例ヘバ通常裁縫工ノ衣服ヲ製作スルハ、大抵
 之ヲ其(主顧)ニ賣ランガ爲ナレバ、此等ノ衣服ハ裁縫工ノ爲ニハ流轉資
 本ナリ、然レモ冠婚葬祭ノ正衣禮服ヲ貸貸スルナサンノ手ニ在リテハ、

衣服モ亦固定資本タルコト、恰モ家屋又ハ磨舎ト一般ナリ、若シ又匠人ニ
レテ貸與シテ以テ借賃ヲ得ンガ爲ニ家具ヲ製作スルコトアレハ此等ノ
家具モ亦固定資本タルコト、毫モ鐵道ト異ナラザルナリ
是ニ由テ之ヲ觀レバ、凡ソ何等ノ物件ヲ問ハズ必ズ先ツ其所有主ノ之
ヲ使用スルノ目的何如ヲ知ルニ非ザルヨリハ、之ニ下スニ流轉資本又
ハ固定資本ノ名ヲ以テスルノ不當ナルヤ知ル可キノミ、又凡ソ物件ニ
シテ只タ固定資本又ハ流轉資本ノ一方ニ用フルコトヲ得ルノミニシテ
其他ニ用フルコトヲ得ザル者ニ非ザルヨリハ、之ヲ呼ブニ孰レノ名ヲ以
テスルモ正當ナラザルナリ、恒久固定資本ノ名ヲ下タスコトヲ得可キ類
ノ物件ハ甚タ僅々タルノミ、即チ一個人ノ學識才藝能力是レナリ、又此
ノ名ヲ下スニ於テ其實ヲ誤マルコト極メテ少ナカル可キ類ノ物件ハ鐵
道、運河、船渠及ビ農業上ノ改良物肥料水理等ヲイフ等はレナリ、鐵道等ノ如キ物

件ニ至テハ始メヨリ賣與ノ目的ヲ以テ之ヲ築造スルコトハ甚タ罕ナ
リ、サレド萬一鐵道等ニシテ果シテ此ノ如キ目的ヲ以テ築造セラル、
コトアラシニハ、此ノ如キ目的ヲ有スル人又ハ會社ノ手ニ在テハ流轉資
本ト名ケザルヲ得ザル可シ、故ニ恒久固定資本タルノ物件トテハ決シ
テ之レ有ラズト斷言スルモ過言ニ非サル可キナリ、又恒久流轉資本タ
ルノ物件トテモ決シテ之レ有ラザルナリ、資本ヲ用フルノ方法ヨシテ
殆ト恒久流轉資本タル可キ者ハ勞力ノ賃銀是レナリ、我カ英國ニ在テ
通常ノ場合ニ於テハ勞力ノ賃銀ハ大抵流轉資本ナリ、然レモ賣奴ノ行
ハル、國々ニ於テハ事實之ニ反對シテ、奴隸ハ固定資本ナリ、我カ英國
ニ於テモ時トシテ恰モ有限奴隸ニ類スル一種ノ服役法ヲ約スル場合
ノ如キハ則之ニ類似セリ、例ヘバ時トシテ一定ノ期限中他人ニ備ハレ、
之ヲシテ時々其人ヲ他ニ貸貸シテ、錢貨ヲ收ムルヲ得シムルコト有リ、

極メテ卓絶ナル唱歌者及ビ樂師ニシテ一定ノ期限内中雇使セラレシ
 ヲ約シ該期限内中雇主ヲシテ恰モ器置ノ如ク時々其身ヲ賃貸スルノ權
 利ヲ得シムルガ如キハ、決シテ異常ノ事ニ非ザルナリ
 自家ノ資本ノ利潤ノミヲ以テ活計ヲ立ツル財主ノタメニハ、此ノ利潤
 ヲ收ムルニ一次ヲ以テスルモ、又數次ヲ以テスルモ、其得失上ニ於テ更
 ニ異ナル所無キ事アラン、何トナレハ其結果ハ此ノ如キ財主ノ爲ニハ
 到底常ニ同一ナラザルヲ得ザレバナリ、然レトモ日々ノ勞力ヲ以テ活
 計ヲ立ツル類ノ人民即チ工人ノ爲ニハ、資本使用法ノ差同ハ甚々重大
 ノ關係有ルモノトス、今一船ノ造營者、即時ニ之ヲ賣ラント欲シテ之ガ
 全價銀ヲ一時ニ收ムルヲ得バ、則此ノ價銀ヲ別船ノ造營ニ用フ可シ
 而シテ其全額中ヨリ自家ノ扶持ニ要スル所ノ部分ヲ除去シテ、餘ハ船
 匠ノ賃銀ヲ拂ヒ、且ツ新船ニ要スル所ノ材料ノ價銀ヲ其生産者ニ拂フ

ニ用フ可シ、此ノ場合ニ於テハ、該船ハ流轉資本ナリ、然レモ若シ該船ノ
 造營者之ヲ賃與シテ定期ノ借貸ヲ收メント欲セバ、則此ノ借貸ノ中、該
 船ノ損壞ヲ償フニ當レル部分ノミヲ新船ノ造營ニ用ヒルニ止マル可
 シ、故ニ若シ船舶造營者ニシテ俄ニ本業ノ性質ヲ變更シ、突然其流轉資
 本ヲ變シテ固定資本ト爲スカ如キコアラバ、工夫ノ勞力ヲ買フノ用ニ
 供スルノ資金忽チ大ニ減却シ、必ズ此ノ造營者ニ依テ以テ活計ヲ立ツ
 ル者ノ間ニ一大患難ヲ起ス可シ、此ノ輩或ハ他ノ職業ヲ求メテ終ニハ
 以前ノ地位ニ復スルヲ得ン、然レモ苟モ許多ノ人夫常ニ一定ノ事業ヲ
 得テ之ニ慣熟セル場合ニ於テハ、其事業ノ組織ヲ攪亂スルノ急變ハ、影
 響スル所小ナリトスルモ尙ホ必ズ一時ノ患難ヲ起ス可キヲ甚々明白
 ナリ、人或ハ曰ハン右ノ如キ場合ニ於テハ船舶購買者ノ資本ハ造營者
 ノ手ニ落チテ之ヲ他ノ事業ヲ起スニ用フルナル可シ、故ニ全社會ニ取

テハ其結果同一ナル可シト、然レモ許多人民ノ依頼スル所タル事業ノ組織ヲ顛覆セバ、從テ許多ノ患難起ラザルヲ得サルハ自然ノ理ナリ、然ラバ則流轉資本ヲ固定資本ニ變スルニハ、深密ノ戒慎ヲ加ヘ、且ツ其額ヲ制限シ、以テ許多ノ人民ノ利益ヲ害スルコト無カラシメンコトヲ要スルヤ明白ナリ、又若シ全社會中ノ許多ノ人民卒然其意思ヲ轉シ、流轉資本ノ巨大ナル額ヲ變シテ固定資本ト爲スコト流行スルアレバ其影響ハ小ナリトスルモ尙ホ一時ノ患難ノ之ニ伴フ可キハ必然ナリ

三十二節 今一物件ノ所有主之ヲ他人ニ賣ラバ、其價銀ハ此ノ物件ヲ償フニ足りテ、且ツ利潤ヲ包含ス可ク、若シ又所有主之ヲ他人ニ貸與セハ、其借賃ハ該物件ノ損壞ヲ償フ可キ部分ト、必要ノ利潤タル可キ部分トヨリ成立ス可キノ理ハ、余輩既ニ之ヲ示シタリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、

物件愈、永久不朽ナルニ從テ、其借賃ハ其價銀ニ比スレバ愈、低クカラザルヲ得ズ、蓋シ利潤ノ割合ハ同一ナリト假定スルヲ以テ此ノ物件ノ損壞ノ小少ナルニ從ヒテ其損壞ヲ償ハンガ爲ニ收入ス可キ利潤ノ額モ小少ニシテ足ル可ケレバナリ、之ニ反シテ若シ該物件ニシテ敗壞ス可キ性質ノモノナランニハ、其借賃ハ其價銀ニ比スレバ貴カラサルヲ得ス、蓋シ其損壞大ナル可ケレバナリ、卑近ノ證例以テ此ノ事實ヲ證明スルニ足ラン、他所ノ租銀ハ其價銀ニ比スレバ甚タ低クシテ、通常三分乃至四分ニ過ギズ、其理由一ニ止マラズト雖モ、職トシテ損壞ノ甚タ小ナルニ由ルナリ、家屋ノ借賃ハ其價銀ニ比スレバ甚タ貴クシテ、通常七分五厘乃至八分トス、是レ損壞ノ大ナルニ由ルナリ、家具ノ借賃ハ更ニ貴クシテ、通常一割五分乃至二割トス、是レ損壞ノ一層大ナルニ由ルナリ、自餘ノ物件ニ至リテモ損壞ノ愈、大ナルニ從テ借賃モ亦愈、大ナラザル

ヲ得ズ、凡ソ物件ノ借賃ノ其價銀ニ比例セザルハ是レガ爲メナリ、此等ノ旨趣ニ就キ頗ル緊要ノ論題有リ、下文ニ於テ之ヲ考究セントス

○生産^{シヨロダク}及^ヒ消費^{コシヨサン}の釋義

三十三節 「生産及ヒ消費」ノ兩語ハ「經濟」ニ屬スル本然概念ノ首要ナル者ノ中ノ二ニシテ、常ニ相配合シテ用フルモノタリ、世ノ論者ハ曰「消費」ハ一切ノ生産ノ目的ナリト、然レモ其實不幸ニシテ兩語ノ意義未タ一定セズ、從テ消費ハ一切生産ノ目的ナリトハ何ノ謂ナルヤニ見解ヲ下スヲ難シ、而シテ兩語ハ往々余輩ノ斷然認容スルヲ得サルノ意義ヲ以テ用ヒラル、ナリ

サテ「理物學派」ハ「生産」ナル語ヲ以テ各種ノ産物ヲ收穫シ、且ツ土地ヨリ

之ヲ貿易ニ致スノ手段ヲ指示セシコト、余輩ノ既ニ説キタル所ナリ、而シテ産物トハ「理物學派」ノ「分配」ト名ケシ所ノ種々ノ手段ヲ經過スル後、使用又ハ娛樂ノ爲ニスル最後購買者ノ手ニ歸着スルモノナリ、此ノ最後購買者ヲ「理物學派」ハ名ツケテ「購買消費者」ト曰ヒタリ

然レモ「理物學派」ハ一切ノ産物必ス竟ニ他ノ産物ト交易セラレザル無シトノ理ヲ主張セシヲ以テ、凡ソ一産物ノ購買消費者ハ、之ト交易ス可キ自家ノ産物ヲ有セザル可カラズト説キ、此ノ産物ト産物トノ交易ノ始終ヲ名ツケテ「貿易」又ハ「交易」ト曰ヒタリ

「理物學派」ハ以爲ラク貨幣ハ只タ賣買ノ間ニ介立スルノ抵當タルニ過ギザルヲ以テ、産物ノ交易ヲシテ便利ナラシムルノ外ハ何等ノ用無シト、又曰貨幣ノ媒介ヲ以テスル貿易ハ完全ナラズ、完全ナル交易ニ於テハ彼我雙方ニ於テ物件ヲ消費ス、物件ハ人々ノ娛樂セント欲スル所ノ

モノナリ、賣買ニ於テハ買主獨リ其目的ヲ果スノミ、賣主ハ未タ其目的ヲ果サズ、其收ムル所ノ貨幣ハ享用ニ適シタルノ美物ニ非ズ、賣主ハ更ニ轉シテ買主トナラザルヲ得ズ、交易ハ直行シテ其目的トスル所ノ消費ヲ果セリ、然レモ貨幣ノ媒介ヲ須テル契約ハ結了セル者ニ非ズ、完全ナル者ニ非ズ、何トナレバ賣主ハ更ニ轉シテ買主トナラザルヲ得ザレバナリ、サレバ契約ハ四目及ビ三契約者ヲ須テ始メテ完全ニ至ルヲ得ル者ナリト

又曰「消費ハ生産ノ標的ナリ、何トナレバ産物ニシテ餘リテ消費セラレザルモノハ無價ノ贅物トナレバナリト」

是ニ由テ之ヲ觀レバ「理物學派」ガ「生産」及ビ「消費」ナル語、並ニ「交易」又ハ「貿易」ナル語ヲ以テ指示スル所ノ意義ハ明白ナリ、貿易トハ産物ノ生産ノ地ヨリ消費ノ地ニ至ルノ全路即チ第一賣主ヨリ最後購買消費者ニ至

ルノ全路ノ謂ナリ

「理物學派」ハ以爲ラク、農業ニ係ル勞力ヲ除クノ外、一切ノ勞力ハ富資ヲ生産セス、何トナレバ此等ノ勞力ハ有形産物ヲ増殖セザレバナリ、勞力又ハ貿易ハ邦國ヲ富裕ニセザルナリト

然レモ以太利ニ於テハベツカリア(千七百六十九年)及ビプエルリ(千七百七十二年)、又英國ニ於テハスミス(千七百七十六年)、又佛國ニ於テハコ
ンチヤーク(千七百七十六年)各、其主義ヲ唱ヘテ以テ製造及ビ貿易ハ富資ヲ生産スルモノニ非ズトノ主義ヲ嚴擧シタリ

夫レ從來世ニ用フル「生産」及ビ「消費」ナル名目ハ、種々ノ觀念ヲ包含スルノ雜語ナルヤ明白ナリ、是ヲ以テ余輩ハ「普關概念」ノ構成法ニ就キテ設完シタル元則ニ照シテ此ノ兩語ノ各、表スル所ノ單一普關ノ概念ヲ考究セザル可カラス

○「生産」の意義の考査

スミス曰ク「資本」ハ四個異様ノ方法ヲ以テ之ヲ生産上ニ用フルヲ得可シ、而シテ此等ノ事業ニ從フモノハ皆生産勞力者ナリト、然レモスミスハ資本ヲ生産上ニ用フルノ諸法及ビ其生産勞力者ト名クル者ノ諸類ヲ舉示シガナラ、^{プロダクション}「生産」トハ何ノ謂ナルヤノ釋義ヲ掲ケザリシハ惜ムヘキナリ、余輩ハ下文ニ於テスミスガ「生産勞力」ノ事ニ就キテ自家撞着ヲ免レザリシヲ示ス可シ

セ、ビ、セイハスミス及ビコンジャークガ生産勞力ナル語ニ下セル該兼ナル意義ヲ取り、而シテ生産ナル語ノ本原ノ釋義ヲ擴ムルノ必要ナルヲ見ル有リ曰「人ハ物体ヲ創造スルノ能力ナシ、世界ヲ組織スル物体ノ質量ハ之ヲ増減シ難シ、但シ人ノ能クスル所ハ此等ノ物質ヲシテ某ノ

目的ニ適スル所ノ形體ニ變セシムルニ在ルノミ、故ニ世ニ物質ノ創造無クシテ利用ノ創造有リ、而シテ此ノ利用ハ物ニ價格ヲ與フル者ナルヲ以テ、世ニ富資ノ生産ナル者有ルナリ」

是レ「政治經濟學」及ビ此ノ書ニ曰フ「生産」ノ意義ナリ、「生産」トハ物質ノ創造ニ非ズシテ利用ノ創造ナリ、生産ハ產物ノ長短大小若クハ輕重ヲ以テ之ヲ量ルヲ得ズ、然レモ創造シタル所ノ利用ヲ以テ之ヲ量ルヲ得可シ、サレバ利用ノ創造、即チ増加アル處ニ於テハ、實ニ富資ノ「生産」有ルナリト

セイハ又スミスト同ク生産勞力者ナリトシテ農工商ノ種類ヲ枚舉シ且ツ曰貿易上ノ業務ハ產物ヲ甲地ヨリ乙地ニ運搬シテ其價銀ヲ昇騰スルヲ以テ、生産ヲ助成スト

又曰「生産」ハ物件ノ價格ヲシテ人ノ認許スル所タラシムルノ効アル者

トス、此ノ價格ハ其物件ヲシテ自餘ノ同價ノ物件ニ換得ベカラシムル者ナリ、而シテ貿易上ノ生産トハ既ニ成立セル産物ヲ消費者ニ運搬即チ分配スルニ因テ生ス可キ價格ヲ創造スルノ謂ナリト

又曰吾人ハ虚無ヨリ物質ノ一分子ヲタモ生ズルヲ得ズ、而シテ又其分子ヲ虚無ニ歸スルヲ得ズ、然レモ本來ハ價格ヲ備ヘザリシ物質ヲシテ價格ヲ得テ富資トナラシムル所以ノ性質ヲ虚無ヨリ産出スルヲ得可シ「政治經濟學」ニ所謂「生産」トハ則之ヲ言フナリ、是レ人間ノ靈妙力ノ存スル所ニシテ斯ノ如ク價格ヲ與ヘタル物件ハ之ヲ名ツケテ「産物」ト曰フ

「吾人ハ物質ヲ創造スルヲ得ザルヲ以テ、産物ヲ作ル工業ノ作用ハ己ムコトヲ得ズ既成物ノ細分子ヲ分合運送スルノ一事ニ限ラザルヲ得ズ、此レ只タ物質ノ形状ヲ變更スルノミ、然リ而シテ此ノ作用ハ形状ノ

變更ヲ來タスニ由リ其物質ヲシテ人ノ用ニ適スル者タラシムルナリト

此ノ論ヤ物質及ビ有形産物ニ關シテハ其當ヲ得タル疑ナシ、然レモ世ノ産物中ニハ無形ナル者ノ存スルアルヲ奈何センヤ、セ、ビ、セイ自ラ無形産物ヲ以テ經濟上可量物ノ全体ヲ組成スル部分ノ一ナリト爲シ、恰モ有形産物ヲ論スルカ如ク無形産物モ富資及ヒ資本ナリトシテ論セシニ非スヤ、セイ曰ハズヤ教師ノ學問及ビ才能ハ歳入ヲ與フルノ資本ナリト、サレト學問及ヒ才能ハ如何シテ物質ノ分子ヨリ造成セラル、ヤ、此等ハ只タ純然タル思想ノ産物ナリ、然レモ若シ此等産物ノ要求アルニ臨テ之ヲ備フル人アラバ、其人ハ猶ホ有形産物ノ生産者ニ均キ生産者タルヤ明白ナリ

セイハ又各種ノ貿易上ノ「義務」及ビ「版權」等ノ如キ「權利」ノ富資タルヲ

認許セリ、然レ此等ノ權利ハ何如シテ物質ノ分子ヨリ造成セラル、
 ヤ
 ミル氏曰「富資」ノ生産、即チ土地ノ實質中ヨリ人類ノ生計及ヒ娛樂ノ要
 具ヲ抽出スル事ト、而シテ氏ハ其著書ノ第一卷ニ專ラ「生産」ノ事ヲ論ス
 ト雖、別ニ「生産」ナル語ノ釋義ヲ下スコナシ、而シテ著書ノ此ノ卷ニ氏
 自ラ生産者ナルベシト思考スル勞力者ノ種類ヲ列記セリ、然レトモ亦
 其著書ノ次ノ部分ニ於テハ、貿易ニ於ケル運輸モ亦生産ノ一種ナル事
 ヲ許容セリ、曰「生産」ニ於ケル進歩、此ノ最後ノ言辭ヲ其最モ廣濶ナル意
 義ヲ以テ解スレバ、其中ニ遠方ヨリ貨物ヲ得ルコト並ニ之ヲ産スルノ所
 爲ヲ包含スト
 マルサスハ「生産」トハ「富資」ヲ組成スル物体ヲ創造スル事ノ謂ナリト解
 釋セリ

ダスマツト、トトラシハ曰「吾人ハ決シテ何等ノ物件ヲモ創造スルコ
 ト能ハザルノミナラズ、又創造シ、若クハ滅絶ストノ語ヲ詳密ニ解釋セ
 バ物件ヲ虛無ヨリ産出シ、或ハ之ヲ虛無ニ遺歸スルノ謂ナルヘケレ、
 是レ果シテ何ヲ指示スルモノナルヤヲ見得シ難シ、何トナレバ吾人ハ
 決シテ物件ヲ虛無ヨリ産出シ、又ハ之ヲ虛無ニ遺歸スルコトヲ見ザレバ
 ナリ、是ノ故ニ「物」トシテ物ヨリ生セザルハナク、物トシテ虛無ニ歸スル
 コト能ハズト」ノ格言ハ古人ノ皆信認セシ所ナリ、然ラバ吾人ハ吾人ノ
 境遇ニ在ル物類ノ上ニ勞力ヲ施シテ以テ何ヲ爲スヤト問フニ、此等ノ
 物類ノ形容若クハ位置ヲ變更シテ之ヲ我カ用ニ適セシメ、我カ欲望ヲ
 満足セシムベキ有用物ト爲スノ外決シテ何事ヲモ爲スコトヲ得ザル
 ナリ、余輩ハ生産スル事ト云ヘル語ニ於テ詳解セザルヲ得ザル所ノ者
 ハ何ゾヤ、即チ其未ダ曾テ有セザリシ所ノ功用ヲ物件ニ賦與スルノ謂

ナリ、勞力ノ何タルヲ問ハズ、若シ其勞力ニシテ利用ヲ生セザルハ、是レ則不生産勞力ナリ、然レモ若シ利用ヲ生スルハ是レ則生産勞力ナリト

以上抄録スル所ノ諸説ヲ以テ經濟學上ノ諸著述家ノ「生産」ナル語ノ常用ヲ示スニ足ルヤ必セリ、故ニ更ニ他説ヲ掲クルヲ要セズ、余輩退テ「生産」ノ何タルニ係ル此等ノ議論ノ大要ヲ考フルニ大抵皆其關スル所「産物」ヲ得ルノ手段ニ在リトスルモノ、如シ、若シ之ヲシテ「經濟」上「生産」ナル語ノ意義ニ關スル正當ノ見解ヲラシメバ、「經濟」ニ於テ、富資ノ生産ヲ論ズルハ、隨テ農事、採礦ノ理學、藝術及ビ各種ノ製造ニ於ケル一切ノ作用ヲ考究シテ、一切ノ貿易ハ之ヲ度外ニ置カザルヲ得ザルベシ、何トナレバ此ノ釋義ニ從ヘバ此等ノ諸件ハ總テ富資ヲ生産スルモノナレバナリ、然レモ是レ全ク謬見ナリ、各經濟學者ハ皆其説ヲ同クシテ曰

ハン、是レ全ク此ノ事項ヲ誤解セシナリト、「經濟」ハ農事、採礦、製造ノ作用即チ工人ノ手藝トモ關係ヲ有セズ、獨リ産物ヲ得タルハ其價格ト關係ヲ有スルノミ、凡ソ産物ハ貿易ノ境界ニ入テ他物トノ交易ヲ要スルニ至ルマデハ「經濟」理學ノ範圍ニ入ラザル者ナリ、而シテ「經濟」ノ單一ナル主意及ビ目的ハ此ノ産物ニ對シテ交易シ得キ自餘ノ同物ノ相互ノ分量ヲ斷定スルニ在ルナリ、上世ノ經濟學士モ亦屢論シテ曰ハスヤ此ノ理學ハ生産者カ交易ヲ爲サスシテ自ラ製作シ自ラ享用スル産物トモ關係ヲ有セズト、而シテ前ニ引用シタルホウエートリー、パスチアール、ベルリールモ亦明ニ是レト同一ノ教理ヲ主張セリ、以上ノ諸經濟學家ハ産物ヲ得ル所ノ作用ヲ詳説スルヲ其度ヲ越エタルヲ以テ、「經濟」上ヨリ之ヲ言ヘハ大ニ讀者ノ思想ヲ誤導セシ者ト謂フ可シ、故ニ余輩ハ「經濟」ニ於ケル「生産」ナル語ノ真正ノ意義何如ヲ証明セザル可カラズ

今之ヲ証明セント欲セハ羅甸ノプロシユース^{プロシユース}レナル語ノ本原ノ意
義ヲ研究スベキノミ此ノ語ハ嚮導シ又ハ提出スルノ意義ヲ含有セリ、
是レ品物ヲ賣ルカ爲ニ暴露スル^トニ用ヒタル科語ナリ

トレンスハユース^{ユース}カス詩篇第一卷二篇五十五章ニ曰

「相當ノ市價ヲ得^レト^クヲ望ミ女ヲ其處ニ賣ルカ爲ニ呈出^シテ之ヲ賣
却ス^ト」

又ヘウトンチモルメノース^{メノース}詩篇第一卷九十章ニ曰

「余ハ男女一切ノ双隸ヲ賣ルカ爲ニ呈出^シテ賣却シタリ^ト
ストト^トユース^{ユース}ノ詩篇ニ曰

「若シ某人ノ家内ノ奴隸ヲ賣ルカ爲ニ呈出^セレ時云々^ト」

英國ニ於テプロシユース^{ユース}ナル語ノ本原ノ意義モ亦羅甸ト異ナルヲ無
シ此ノ語ハ携ヘ來ル又ハ傍ニ來ラシムルノ意義ヲ含有セリ「イサイア
ノ詩篇第四十一卷二十一篇ニ曰「ロルド云汝ノ道理ヲ表明セヨ^{プロシユース}」
「王云汝ノ據ル所ノ道理ヲ提出セヨ^ト」其旁注ニ曰「プロシユース^トハ
傍ニ來ラシムルノ謂ヒナリ^ト」

セークスピヤ^{セークスピヤ}モ亦ジュリユス^{ユス}シーザルノ詩篇第三卷一篇ニ曰「アン

ト子^ト云フ以上ハ余ガ要求ノ諸點ナリ且ツ又余ハ彼レノ身体ヲ市場

ニ携ヘ來ルコトヲ得^レガ爲ニ訴人トナレルナリ^ト同クリーエルノ詩

篇第五卷三篇ニ曰「彼等カ生活セルト死去セルトニ拘ラズ彼等ノ身体

ヲ携ヘ來レヨ^ト

前ノ詩句ニ據レハ一物件ヲプロシユース^{ユース}ストハ之ヲ携ヘ來リテ其要
ス^ル處ニ置クノ謂ヒナリ若シ證人タルモノ約束書又ハ他ノ書類ヲ裁

判所ニテロシユースセヨトノ命ヲ受ルハ、是レ裁判所ニ携ヘ來リテ其處ニ置ク可シトノ義ナリ、又獄吏タルモノ罪人ノ身体ヲ裁判所ニプロシユースセヨトノ命ヲ受ルハ、是レ罪人ヲ其處ニ置ク可シトノ義ナリ、又詞訟ニ於テハ證人若クハ書類ヲプロシユーススル爲コ之ヲ延期スルコヲ得可シ、是レモ亦右ノ憲義ニ同シ、而シテ此ノ憲義ハ平常甚々多キヲ以テ、更ニ他例ヲ示スコヲ要セズ

貿易上ノ通語ニ於テ「生産者」トハ、客ヲ延キテ貨物ヲ賣却スル人ヲ指稱ス、若シ市場ノ景況生産者ノ爲ニ利アリ、又ハ不利ナリト云フ時ハ、是レ即チ其景況賣者ノ利ト爲リ、又ハ不利ト爲ルノ義ナリ

サレバ又佛語ニ於テモ「プロシユウイル」ナル語ノ本原ノ憲義ハ携ヘ來ルノ謂ヒニシテ「プロヂウクチヨン」ナル語ノ本原ノ憲義ハ携ヘ來ルコ

トノ謂ヒナリ

「經濟」ニ於テ用フル所ノ「プロシユース」及ビ「プロダクシヨン」ナル兩語ノ真正ナル意義モ之ニ外ナラズ、此ノ兩語ハ市場ニ運ビ人ヲ延キテ賣リ、又ハ交易スルノ義ヲ有スルナリ、「經濟」ハ凡ソ可量物ノ何タルヲ問ハズ、苟モ人ヲ延キテ賣却スルノ用ニ供スルニ非サルヨリハ毫モ之ト關係ヲ有セズ、而シテ凡ソ人ヲ延キテ某物件ヲ賣ル者ハ其何如シテ此ノ物件ヲ得タルヤヲ論セス、「經濟」上ヨリ之ヲ言ヘバ「生産者」タルナリ、又其賣ル所ノ可量物ハ、其性質ノ何タルヲ問ハズ總テ「產物」タルナリ

例ヘバ農夫、礦夫、漁夫、獵者ノ如キハ「生産者」ナリ、何トナレハ、此ノ輩ハ、人ノ食物、衣服、炭薪ヲ要スルコヲ知リ、穀物、家畜、魚類、石炭、銅鐵等ヲ得ル事ニ努力ヲ盡シ、此等ノ物件ヲ以テ自餘ノ物件ト交易スルノ用ニ供ス

レバナリ

各種ノ製造者及ヒ工匠モ亦生産者ナリ、何トナレバ、此ノ輩ハ、土地ヨリ生シタル未製物ハ原質ヲ以テ人ノ用ニ適スルコト甚ダ稀ナルヲ知リ、此ノ未製物ヲ初ノ生産者ヨリ購求シテ、種々ニ之ヲ製造スル事ニ努力ヲ盡セハナリ、例ヘバ穀物ヲ磨碎シテ粉末ト爲シ、或ハ麥粉ヲ焙リテ麵包ト爲シ、或ハ羊毛ヲ織リテ、衣服ノ料ト爲シ、百般ノ技術工藝上ノ作用ニ努力ヲ施シ、然ル後其製造セシ産物ヲ以テ自餘ノ物件ト交易スルノ用ニ供スレバナリ

商賈即チ套賣商及ヒ零賣商モ亦生産者ナリ、何トナレバ、此ノ輩ハ一國人民ノ他國ニ生シタル産物ヲ要シ、又甲地ノ人民乙地ニ生産シ若クハ製造シタル物件ヲ要スルコトヲ知リ、此ノ國ヨリ彼ノ國ニ物件ヲ運送シ、甲地ヨリ乙地ニ運送スル事ニ努力ヲ費シ、斯ク運送セシ物件ヲ以テ自

餘ノ物件ト交易スルノ用ニ供スレバナリ

是ヲ以テ、凡ソ「生産」トハ、之ヲ概言スレバ、物件ヲ其要スル處ニ置クノ謂ヒナリ、夫ノ店舗ヲ開キテ貨物ヲ賣ル商賈ノ如キモ、其舖ニ就テ貨物ヲ買フ願主ニ關シテ謂フトキハ、一ノ「生産者」ナリ、舖商カ直接ニ雇使スル所ノ工人ニ賃銀ヲ拂ヒテ工場ヨリ貨物ヲ其願主ニ送付シタルト、三百里外ニ獨立セル製造者ニ賃銀ヲ拂ヒテ貨物ヲ自己ノ店舗ニ運送シタルト、其間何ノ異ナル所カアラシヤ

然レモ人ハ有形物ヲ以テ身體ノ欲望ヲ満足セシムルノ外ニ、尙ホ許多ノ欲望スル所有リ、即チ人ハ各種ノ努力及ヒ快樂ヲ要シ、而シテ此等ノ努力及ヒ快樂ト某物件トヲ交易シ、又ハ此等ヲ得ルカ爲ニ金錢ヲ與ヘンコトヲ好メリ、然ルモハ此等ノ努力ヲ爲シ、又ハ此等ノ快樂ヲ供給スル

者ハ、恰モ有形物ヲ生産スル者ト同ク「生産者」ナリ
 例ヘバ人ハ其當然ノ權利ノ保護ヲ受ケテ、各自ノ間ニ生ズル争論ヲ止
 メ、又ハ疾病ノ治療ヲ受ケンコトヲ要シ、其他各種ノ勞力ヲ要スルモノ枚
 舉ニ違アラズ、是ヲ以テ法律醫術及ヒ土木ノ智識ヲ得ル事及ヒ其他種
 ヲノ職業及ヒ學問ニ勞力ヲ費シテ、此等ノ勞力ヲ携出シテ自餘ノ物件
 ト交易スル人即チ之ヲ生産スル人アルニ至ルナリ
 例ヘバ又人民ハ演劇踏舞ヲ觀、音樂聲曲ヲ聽クノ快樂ヲ好メリ、是ヲ以
 テ此等ノ技藝ニ練熟スル事ニ勞力ヲ費シテ、金錢トノ交易ニ供スル人
 アルニ至ルナリ、夫レ各科ノ理學ニ於テハ言詞ヲ取テ以テ學科適用ノ
 意義ヲ定メザル可カラザルヤ明白ナリ、而シテ同一ノ言詞ト雖モ、別異
 ナル理學ニ於テハ、別異ナル専門上ノ意義ニ用フルコト普通ノ常觀ナリ、
 故ニ余輩ハ曰ハン、縱ヒ農作採礦ノ藝術、其他諸種ノ製造及ヒ貿易ニ於

テハ「プロダクシヨ」ナル語ヲ以テ種々ノ意義ニ用フルコト有ル可シト
 雖モ、其レ等ノ意義ハ「經濟」ニ適當スルモノニ非ズ、「經濟」ニ於テ「プロジユ
 ー」ナル語ノ真正ノ意義ト云ヘバ、人ヲ延テ賣ルノ一事有ルノミ、而シ
 テ「プロダクシヨ」ナル語ノ「經濟」上真正ノ意義ト云ヘバ、人ヲ延テ賣ル
 作爲ノ一事有ルノミト

卓越ナル詩人ハ卓越ナル詩ヲ作リ、卓越ナル畫家ハ卓越ナル畫ヲ寫シ、
 卓越ナル彫刻師ハ卓越ナル像ヲ彫ムコトアラン、且ツ吾人モ此等物件ノ
 巧妙ヲ最モ珍重スルコトアラン、則此等ノ物件ハ人ノ天才ノ最貴至尊ナ
 ル産物ノ中ニ列スルモ可ナリ、夫レ然リ然リト雖モ余輩ハ如何シテカ
 此等物件ノ價格ヲ臆算スルコトヲ得可キヤ、之ヲ要スルニ、此ノ詩、此ノ畫、
 此ノ像ハ自然若クハ人工ノ生出スル所ト爲リタルノ後ト雖モ、之ヲ市

場ニ送致シテ販賣ニ供ヘザルノ間ハ「經濟」上ヨリ之ヲ言ヘバ未タ「製産」セラレタル者ニ非ザルナリ

○「消費」の意義の考査

「經濟」ニ於テ今日ニ至ルマデ用ヒタル「コンサンプション」〔消費〕ナル語モ亦意義錯雜シタルモノナリ何トナレバ「プロダクション」〔生産〕ナル語ハ、産物ヲ得テ貿易上ニ運搬スルノ義ヲ示ス爲ニ用ヒタリト雖モ「理物學派」ハ「コンサンプション」又ハ佛語ノ「コンツンマクション」ナル語ヲ以テ産物ヲ購求シ、貿易上ヨリ搬出シテ之ヲ使用シ若クハ之ヲ享有スルノ義ヲ示ス爲ニ用ヒタレバナリ、而シテ「經濟」上ノ産物ノ大半ハ土地ノ産物ニシテ、之ヲ使用享有スレバ滅却スルモノナルヲ以テ、此ノ滅却スト云フ副貳ノ意義ヲ以テ却テ主要ノ意義ト爲スニ至レリ

「スミス」ハ「コンシューム」〔消費〕「コンサンプション」及ビ「コンシューム」〔消費〕「グーツ」ナル語ヲ用ヒタリ、然レモ他ノ諸語ニ於ケルガ如ク、此等ノ語ニ關シテモ亦其意義ヲ解釋セズ、其著書「富國論」ノ緒言ニ曰「各國年々ノ努力ハ、其年々消費スル人生」一切ノ必需品及ビ便利物ヲ、其國ニ供給スルノ財本ナリ、而シテ其努力ノ直接ニ産出スル所ノ物品又ハ外國ヨリ輸入シテ内國ノ努力ノ産物ニ換フル所ノ物品ヨリ成リ立ツモノナリ」
「故ニ此ノ産物、若クハ之ヲ以テ換フル所ノ可量物ト、之ヲ消費スル人數トノ割合何如ニ從ヒ、其國ノ一切ノ必要及ビ便利ノ具ノ供給饒足ナルト否ラサルトノ差違アリ」

「スミス」ハ其著書第二卷第二章ニ曰「若シ人、數月又ハ數年ノ間己レヲ扶持ス可キ充分ノ資金ヲ有スレバ、自然此ノ資金ノ過半ノ部分ヨリ歳入ヲ生セシメン」〔消費〕「中ニ就キテ自己ノ直接ノ消費ニ供スル爲メ、後日

積入ノ始メテ入り來ルマデ已レヲ扶持スルニ足ルヘキ部分ノミヲ貯蓄スルナルヘシト
 又同章ニ曰「貨幣ハ流轉資本トシテ分類ス可シ、貨幣ノ媒介ニ由リ總テ自餘ノ三者ハ融通セラレテ、相當ノ消費者ニ分配セラル、ナリト」
 又同卷ノ第二章ニ曰「縱ヒ各國ノ種々住民ノ每週若クハ毎年ノ入額ハ一樣ニ貨幣ヲ以テ彼等ニ拂フコトヲ得可ク、且ツ現ニ貨幣ヲ以テ拂フヲ常トスルモ、此等住民ノ富資即チ其每週若クハ毎年ノ眞ノ入額ハ、此等住民カ此ノ貨幣ヲ以テ購求シテ消費スルコトヲ得ル、貨物ノ分量ニ均シカラサル可カラズ、此等住民ノ入額ノ總量ハ、其請クル所ノ貨幣ト其消費スルコトヲ得ル所ノ貨物トノ兩者ニ均カラズシテ、唯々其中ノ一方ノミニ均キナルヘク、而シテ貨幣ヨリモ寧ロ貨幣ニ均キナルヘキヤ明白ナリ」

是ヲ以テ吾人屢、一人一家ノ歲入ヲ開示スルニ、其年々收ムル所ノ正金ノ價格ヲ以テスレトモ、畢竟此ノ正金ノ價額ハ其人ノ購買力ノ多少、即チ其人ノ年々消費ニ供スルコトヲ得ル所ノ貨物ノ價格ヲ制限スル者ナリニ因ルナリ、是ヲ以テ斯ル場合ニ於テモ余輩ハ尙ホ其歲入ハ此ノ購買力即チ消費力ニ在リテ、消費力ヲ表示スル貨幣ニ在ラズト爲スモノナリト
 スミスハ又同章ニ於テ、貨幣ノ用ハ此等ノ可消費貨物ヲ運轉シテ之ヲ相當ナル消費者ニ分配スルニ在ルコトヲ示セシ後、銀行主ノ手形ノ事ニ論及シテ曰「例ヘバ十萬磅ノ價額アル銀行主ノ約束手形ヲ用ヒルモ、猶ホ同價額ノ正金銀ヲ用フルト同一ノ交易ヲ爲スコトヲ得可ク、之ヲ以テ同一分量ノ可消費貨物ヲ運轉シテ相當ナル消費者ニ分配スルコトヲ得可シト」

又其著書第四卷八篇ニ曰「消費ハ一切ノ生産ノ唯一無他ノ目的ナリ、是ヲ以テ生産者ノ利益ヲ後ニシテ、消費者ノ利益ヲ先ニス可キモノナリ、消費者ノ不利ヲ生スルヲ願ミスシテ、生産者ノ利益ノミヲ計ルハ非ナリ、此ノ格闘タルヤ、甚ダ明瞭ナルヲ以テ、之ヲ証明センコトヲ勉ムルハ殆ト愚ト謂フ可キノミ、然レモ「商賈制度」ニ於テハ、只管生産者ノ利益ノミヲ謀リ、之カ爲ニ消費者ノ利益ヲ害スルコトヲ願ミズ、恰モ消費ヲ以テ一切ノ事業及ヒ交易ノ最終ノ目的トナサズシテ、生産ヲ以テ其最終ノ目的ナリト思惟スルニ似タリト、而シテスミスハ今此ニ引用スルヲ要セザル他ノ章句ニ於テモ、亦消費者ナル語ヲ以テ買者ノ意義ヲ示スモハナルヤ明白ナリ

コシヤムフシヤム

ゼ、ビ、セイハ曰「讀者ハ、生産トハ物ヲ創造スルノ謂ヒニ非ズシテ、利用ヲ創造スルノ謂ヒナルガ故ニ消費トハ物ヲ減却スルノ謂ヒニ非ズシテ、

利用ノ減却スルノ謂ヒナルヲ理會セサル可ラス、凡ソ何物ヲ論セス一タビ減却セラル、時ハ、其利用モ亦減却セラル、蓋シ此ノ利用ハ其物ノ價格ヲ生ズル第一ノ基礎ナリ、又人ヲシテ其物ヲ求メシメ、其物ノ要需ヲ定ムル者ナリ、物ノ利用一タビ減却セラル、後ハ、其物ハ寧モ價格ヲ有セズ、又富資ノ一部ヲ爲サ、ルナリ

是ヲ以テ「消費ス」コト曰ヒ「物件ハ價格ヲ減却ス」ト曰ヒ「其價格ヲ消却ス」ト曰フノ諸語ハ、全ク同一ノ義ヲ有セリ、而シテ「生産ス」ト曰ヒ「利用ヲ分賦ス」ト曰ヒ「價格ヲ創造ス」ト曰フ同一ノ義ヲ有スル諸語ニ對應スルナリ

「總テ消費ハ價格ノ減却ナルヲ以テ、消費セラレタル産物ノ質量、數量、若クハ重量ヲ以テ之ヲ計算スルコトヲ得可カラズ、唯タ其價格ヲ以テ之ヲ計算スルコトヲ得可キノミ」ト、云云

セイハ又曰

「コンソマター」即チ消費者トハ、新タニ價格ヲ生センガ爲、若クハ自己ノ欲望ヲ満足セシメンガ爲ニ産物ノ價格ヲ減却スル人ヲ云フ」

「コンソマーチヨン」「コンソメー」ナル語、即チ「消費ス」「コンソメー」トハ、物件ノ具フル所ノ利用、又ハ其利用ノ一部ヲ減却スルニ由テ其物件ノ價格又ハ其價格ノ一部ヲ減却スルノ義ナリ」

又曰「吾人ハ減却スルコト能ハサル所ノ物ヲ消費「コンソメー」スルヲ能ハズ、例ヘバ工業ノ勞力ハ之ヲ消費シ得ヘケレド、此ノ勞力ヲ爲セル工業ト能力ハ之ヲ消費スルコトヲ得ズ又土地ノ工作ハ之ヲ消費シ得ヘケレド、其土地ハ之ヲ消費スルコトヲ得ズ」

「凡ソ價格ナル者ハ、ニタビ之ヲ消費スルヲ得ヘカラズ、何トナレバ、物件消費セラルトハ、既ニ存在セザルニ至ルノ謂ヒナレバナリ」

「凡ソ生産セラル、物件ハ、一トシテ消費セラレザルハ無シ、故ニ創造セラレタル價格ハ必ス減却セラレサルハ無シ、減却セラル、カ爲ニノミ創造セラレタルモノナリ」ト

セイハ又曰「各消費「コンソマーチヨン」ノ効果ノ最モ直接ナル者ハ、價格ノ減却是レナリ、是レ富資ノ減却ナリ、産物ノ所有主ガ之ヲ消費「コンソメー」セシ爲ニ隨テ被ル所ノ損失ハ只タ是レノミ、此ノ効果ハ永久ニ彌リ、且ツ避ク可ラザルモノナリ、余輩ハ此等ノ事ヲ論スルニ於テ、決シテ此ノ理ヲ忘却ス可カラズ、凡ソ産物ヲ消費「コンソメー」ストハ、永久世界ノ價格ヲ失フノ謂ナリ」ト

「消費」ヲ以テ減却ト爲セル此ノ意義ハ、諸著述家ノ多ク採用セシ所ナリ、マルサス曰「富資タル某物件ノ全部若クハ一部ノ消費、即チ減却云云」ト又曰「消費ハ一切ノ生産ノ一大目的ナリ」ト

マクログラチ曰、消費トハ貨物ヲシテ有用ナラシメ、若クハ人ノ情意ヲ喜
 バスニ足ラシムル類ノ性質ヲ消滅スルノ義ナリ、藝術及ヒ工業上ノ産
 物ヲ消費ストハ、其産物ヲ組織スル物質ヨリ、其利用ヲ奪却スルノ義ナ
 リ、故ニ勞力ヲ費シテ其産物ニ分賦シタル市價ヲ奪却スルノ謂ヒナリ、
 消費ハ實ニ人ノ勞力ノ目的トスル所ナリ、而シテ若シ一ノ貨物ニシテ
 人ノ用ニ適ス可キ形狀ヲ備フルニ當リ、其消費遲延スルトキハ、必ス損
 失ヲ招クト

セニオルハ此ノ論ニ對シテ善ク答辯シタリ、曰、凡ソ生産スル所ノ物件
 ハ、大概減却セラレザルコトナキハ、眞ニ然リ、然レモ余輩ハ其物件ハ初
 メヨリ減却セントノ目的ヲ以テ生産シタル者ナリトノ義ヲ許容スル
 コト能ハス、凡ソ物ハ使用スルカ爲ニ生産スルナリ、而シテ物ヲ使用ス
 ルハ、隨テ之ヲ減却セザルヲ得サルヲ往々之レアリト雖モ、其減却ハ

當ニ故意ニ出デサルノミナラズ、務メテ之ヲ避ケンコトヲ欲スルナリ、况
 シヤ世ニハ不慮ノ害ニ逢ハサレバ永ク滅絶シ難キ物件アルヲヤ、即テ
 樓臺ノ肖像、小房ノ賞牌、若クハ寶石ノ如キ是レナリ、此等ハ毫モ損傷ヲ
 受クルコト無ク、數百年間之ヲ保存スルコトヲ得可シ、蓋シ食物薪炭ノ如キ
 ニ至テハ、之ヲ用フレハ隨テ消滅ス、而シテ此等ハ最モ日用ノ貨物ナル
 ヲ以テ、消費ナル語ヲ以テ、物ヲ用ヒ盡スノ義ニ遍ク用フルコトナリタ
 ルナリ、然レモ此ノ外貨物ノ大半ハ、屢次ノ作用ヲ受ケテ減却スル者ナ
 リ、而シテ世人ハ勉メテ其作用ヲ遲緩ニセンコトヲ欲スルナリ、若シ消費
 ハ一切ノ生産ノ目的ナリトノ説ヲシテ信ナラシメバ、一家ノ住人ハ其
 家ノ消費者ト名ツケザル可カラズ、然ルニ之ヲ其家ノ破滅者ト名クル
 ハ、豈ニ奇怪ノ事ナラズヤ、何トナレバ、若シ人其家ニ住セザレバ、其住ス
 ル時ニ比スレバ、其家ノ破滅ハ却テ迅速ナルコト論ヲ俟タザレバナリ、故

ニ若シ「用フ」ト云フ言辭ヲ以テ「消費」スト云フ言辭ニ代フルコトヲ得バ、是レ即チ「政治經濟學」ニ於テ一ノ進歩ナル可シト、又其著書ノ第四頁ニ曰「需要ナル語ハ時トシテ消費ナル語ト同一ノ意義ニ用フト」

有職ノ士ニシテ、凡ソ生産スル所ノ物件ハ滅却セラレザルハ無シト云ヒ、又物件ハ滅却スルガ爲ニノミ生産セラルト云ヒ、又若シ其物件滅却セラレザルハハ損失ヲ招クト云フガ如キ奇怪ノ説ヲ主張スルハ、實ニ怪ム可キノ至リナリ

建築家ハ壯麗ナル宮殿ヲ建築スルモノナリ、此ノ人及ヒ大工、役夫ハ「經濟」ノ語ニ於テ生産者ト曰フ、宮殿ハ即チ產物ナリ、試ニ問ハン、宮殿ハ滅却スルカ爲ニ産出スルモノナルカ、若シ之ヲ産出スレハ隨テ滅却セラレズンバ損失ヲ招クニ至ルカト

蓄工ハ名蓄ヲ産出ス、此ノ蓄工ハ滅却スルカ爲ニ之ヲ産出スルモノナルカ、若シ之ヲ産出スレハ隨テ滅却セラレズンバ、損失ヲ招クニ至ルカ、彫刻師ハ彫像ヲ産出ス、此ノ彫刻師ハ滅却スルカ爲ニ之ヲ産出スルモノナルカ、若シ之ヲ産出スレハ隨テ粉碎セラレズンバ損失ヲ招クニ至ルカ

ゼビ、ゼイ曰英人鏡ヲ製スルガ爲ニ極メテ美麗ナル玻璃ヲ作ルノ術アリ、而シテ若シ英國ニ於テ玻璃ノ製造ニ重稅ヲ課シ、玻璃ノ價格ヲ騰貴セシメテ數多ノ消費者(コンソマツール)ノ購求スル能ハサル所タラシメシニ非サルヨリハ相當ノ低價ヲ以テ之ヲ供給スルヲ得タルナリト、サレバ鏡ノ消費者ハ之ヲ粉碎セシカ、鏡ハ粉碎セラル、カ爲ニ産出セラレシモノナルカ、若シ之ヲ産出スレハ隨テ粉碎セラレズンバ損失ヲ招クニ至ルカ

佛國ノ有名ナル小説家ル、セーシ氏ノ著セル「シル、ブラスト」題セル書ノ第四卷、六章ニ曰「學者中ニ甚タ貴重スル一書アリ、此等ノ學者ハ既ニ其書ノ四版ヲ消費（コンソム）メシタリト、サレバ此等ノ學者ハ此ノ書ヲ滅却センガ爲ニ其四版ヲ購求セシモノナルカ」

シヨソソンハ阿哥斯佛爾大學校ノ教頭ドクトルウエスレルニ貿易ノ原理ヲ説示シテ曰「此ニ印刷匠ト讀者トノ間、即チ貿易上ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘバ製造者ト消費者トノ間ニ拂ハル可キ三種ノ利潤アリ、而シテ若シ此等ノ利潤中一種ニテモ之ヲ分配スルニ甚タ吝ナレバ、貿易ノ運轉ヲ妨碍スルナリト」

サレバ書籍ノ消費者、即チ讀者ハ、故サラニ之ヲ滅却スルモノナルカ、書籍ハ滅却セララル、ノ爲ニ産出セララル、カ、若シ滅却セラレズンバ損失ヲ招クニ至ルカ

若シ適當ニ之ヲ保護シテ、租暴ノ事ヲ爲サ、レハ全ク滅却シ難キモノ

世間往々之アリ、佛羅稜薩博物館ノ無双ノ榮譽ト爲セルスキヤ、戰爭ノ時ニ用ヒタル戰車ハ、恰モ鐵ニ似タル木ヲ以テ製シタル者ノ如シ、サレハ木モ亦猶ホ大理石ノ如ク能ク久キニ堪ユ可キ者ナルコトヲ知ルナリ、又匠人ハ堅牢ナル書架及ビ卓子ヲ産出ス、此等ノ書架卓子ハ滅却セラル、カ爲ニ産出セララル、カ、若シ滅却セラレズンバ損失ヲ招クニ至ルカ、此等ノ物件ハ皆ニ滅却セラレザルノミナラズ、殆ド無窮ニ永傳スル者ノ如シスキ、ヤ戰爭ニ用ヒタル戰車ハ、アプロハムト同時代ノ物ナリ、而シテ此ノ車ハ今尙ホ始メ之ヲ作りシ時ト一樣ノ色澤アリ

何人ニ限ラズ少シク此ノ論旨ヲ考究スル者ハ以上示セシ如キ類例ヲ多ク看出ス可キヲ以テ此ニ掲クルヲ要セズ、然レ若シ果シテ消費ナル語ハ滅却ノ意義ヲ含有ストセバ、消費ハ一切ノ生産ノ目的トスル所ナ

リトノ説ハ明ニ其當ヲ得サル者タルヤ論ヲ埃タザルナリ、而シテ物ハ
 産出セラシム、毎ニ滅却セラズンバ必ス損失ヲ招クヘシト云フニ至テ
 ハ、妄斷モ亦甚シト謂フヘシ、余輩ハ特ニ有職ノ士ニシテ尙ホ此ノ如キ
 言ヲ其書中ニ記載セシヲ怪ムノミ

此ノ説ハ「經濟」ニ甚シキ禍害ヲ致シタル輕率不注意ナル概括法ノ一例
 ナルノミ、例ヘハ食物及ビ薪炭ノ如キ一二ノ物件ハ滅却セラル、カ爲
 ニ産出セラシム、者ト云フモ可ナリ、蓋シ此等ノ物件ヲ用ヒント欲セハ、
 之ヲ滅却スルヲ必要ナレバナリ、然レモ其他許多ノ物件アルアリ、此等
 ニ至リテハ之ヲ用フルニ由リテ之カ滅却ヲ來タスヲ無ク、若シ之レ有
 ルモ、全ク偶然ノ事ナリ、例ヘハ衣服及ビ其他許多ノ物件ノ如キ是レナ
 リ、又時ヲ經ルニ從ヒ漸次滅却スル物件モ甚タ多シ、例ヘハ家屋、懷中時
 計、及ヒ其他許多ノ物件ノ如キ是レナリ、然レモ此等ハ故意ニ滅却セラ

ル、モノニ非ズ、人皆之ヲ保存シ、之ヲ修理スルニ深ク注意ヲ加フルナ
 リ、其他租暴ノ事ヲ爲スニ非レハ全ク滅絶シ難キ物件モ亦多ク之レア
 リ

然レモ縱ヒ物件ノ過半ハ時ヲ經ルニ從ヒ消滅スト云フト雖モ「經濟」ハ
 此等物件ノ消滅ト毫モ關係ヲ有セザルナリ、夫レ「經濟」ハ產物ヲ得ル所
 ノ種々ノ方法ト毫モ關係ヲ有セサルヤ此ノ如シ、然レモ若シ產物貿易
 上ニ入ル時ハ始メテ「經濟」ノ中ニ入ルト同ク若シ產物購買セラレテ貿
 易外ニ出ツル時ハ其產物ハ全ク「經濟」ノ外ニ出ツルナリ、而シテ「經濟」ハ
 產物ヲ使用滅却スル所ノ方法ト毫モ關係ヲ有セザルナリ、サレバ「經濟」
 ノ論ズ可キ現象ハ交易ノ一事ニ外ナラザルナリ

貿易上ノ語ニ於テ消費者トハ單ニ購買者ヲ指示スルモノナリ、セイハ
 鏡ノ消費者(コンツマツール)ニ就テ論スルモ、唯鏡ノ購買者ヲ指示セリ、

其言ニ曰産物ノ消費者(コンツマツール)ハ其購買者ナリトシル、プラスノ書中ニ書籍ノ四版ヲ消費セシト云ヘルハ是レ唯此等ノ四版購買セラレタリト云フノ義ナリ、又ドクトルジョンソンモ消費者ニ就テ論スル時、唯買者ノ義ヲ指示セリ、貿易上ノ語ニ於テ「生産者」及「消費者」ナル兩語ハ販賣者及ビ購買者ノ義ヲ示スノミ、生産ト消費トハ共ニ「經濟」ノ真正ノ範圍ヲ畫スル者タル交易ヲ構成スル者ナリ、而シテ經濟學士輩ノ紛争ヲ惹起セシ所以ノ者ハ一ニ「經濟」ノ此ノ真正ノ範圍ヲ越エシニ由ル、バスターチャー曰人ハ概テ一身ヲ一ノ商賣、一ノ學藝、若クハ一ノ職業ニ委ヌト雖モ、其自カラ從事スル所ノ業務ニ因リテ直接ニ自己ノ欲望ヲ満足セシム可キ物ヲ得ンコトヲ期望スルニ非ザルナリ、人ハ互ニ勞力ヲ受授シ、有價物ヲ供給需要レテ、賣買ヲ爲スナリ、即チ自身ハ他人ノ爲ニ勞シ、他人ハ自身ノ爲ニ勞スルナリ、之ヲ約言スレバ、人ハ生産者ニシテ

又同時ニ消費者ナリ宜ナルカナ

「生産」及「消費」ナル語ヲ真正ナル貿易上ノ意義ニ於テ用フレバ余輩ハ「分配」ナル語ヲ除去スルコトヲ得可シ、「物理學派」ハ貿易及ヒ交易ナル兩語ヲ以テ産物ノ最初ノ賣者(プロダクチュール)ヨリ、數回ノ交易ヲ經テ最終ノ買者(アストルーズ、コンツマツール)ニ至ルノ間ニ於テ經過セシ所ノ全途ヲ示シ、其中間ノ交換ヲ名ケテ「トライフイク」ト曰ヘリ、然レ而シテ事實ニ徴スルニ、此等ノ取引ハ殊別獨立ノ交易ニシテ、而モ一々「經濟上」ノ現象ナリ、農夫ハ穀物ヲ播種シテ之ヲ産出ス、即チ之ヲ市場ニ賣出ス、是ニ於テ此ノ穀物ハ貿易ニ入り、隨テ「經濟」ノ中ニ入ルナリ、磨者ハ其穀物ヲ農夫ヨリ購求ス、此ノ磨者ハ願主即チ消費者ナリ、是レ一ノ交易ニシテ、即チ「經濟上」ノ現象ナリ、磨者ハ穀物ヲ粉碎スルニ於テ之ヲ産出ス、即チ之ヲ麵包師ニ賣出ス、此ノ麵包師ハ麥粉ノ願主、買者即チ消費者ナリ

リ、是レ又一ノ交易ニシテ即チ「經濟上ノ現象」ナリ、麵包師ハ麥粉ヲ焙テ麵包ト爲スニ於テ之ヲ產出ス、即チ此ノ麵包ヲ其舖ニ提出ス、而シテ衆人其舖ニ來リテ麵包ヲ買フ、此ノ衆人ハ麵包ノ願主買者、即チ消費者ナリ、是レ第三ノ交易ニシテ、即チ「經濟上ノ現象」ナリ、是ニ至リ麵包ハ貿易及ヒ「經濟」ノ外ニ出テ、人ノ享用ニ移レリ、斯ノ如ク殊別ナル交易、數度行ハレテ、各々全ク獨立シ、各々「經濟上ノ現象」タリ、而シテ此等ハ皆一ノ大ナル普關理法ノ管理スル所タリ、凡ソ他ノ諸種ノ交易ノ如キモ固ヨリ同一ノ理ヲ以テ推ス可キナリ、サレバ「分配」ナル語ハ、「生産」「消費」ノ兩語中ニ包括スルモノナルヤ明白ナリ

然リト雖モ「分配」ナル語ハ時アリテ消費ナル語ト同一ノ意義ニ用ヒラル、コアリ、例ヘバツールゴールハ其著書ヲ名ツケテ「富」「生産」及ヒ「分配」ニ係ル、想察ト曰フ、又スミス曰「勞力ノ生産力ニ關スル此ノ進歩ノ原因、

及ヒ勞力ヨリ生ズル產物ノ、社會ノ貧富貴賤ノ間ニ自然ニ分配セララル、ノ順序ヲ以テ、此ノ書第一卷ノ論題ト爲ストセニオルフハ「政治經濟學」ヲ「富資ノ本性」「生産」及ヒ「分配」ノ學ト解釋シタリ、サレハ此等ノ著述家ハ「分配」ナル語ヲ以テ「消費」若クハ「購買」ノ義ヲ示ス者ナリ、スミス曰「貨幣ヲ組成スル所ノ地金銀ハ、年々ノ融通ニ由リテ各人ニ屬ス可キ歲入ヲ分配」スト而シテスミスハ少ク進ンテ又言テ曰「紙幣ヲ用フルモ猶ホ正金ヲ用フルト同一ノ交易ヲ爲シ、可消費貨物ノ同一ノ量ヲ融通シテ、之ヲ其消費者ニ分配スルコトヲ得可シト、經濟學士輩ハ「分配」ナル語ヲ用フル毎ニ必ス皆由テ「交易」ノ法ニ由テ「分配」スルノ意義ヲ示レタリ、其故ハ富資ハ何如ナル方法ヲ以テ分配セララルヤト問フニ、交易ノ法ニ由ルニ非ザルヨリハ決シテ他ノ法ノ採ル可キ者アラサレバナリ、若シ人自身ニ麵包ノ分配ヲ受ケント要スルハ、之ト交易ス可キ靴、若クハ其他

ノ物件ヲ有セザル可カラズ、若シ又自身ニ靴ノ分配ヲ受ケンコトヲ要スルハ、之ト交易ス可キ麵包ノ如キモノヲ有セザル可カラズ、是ヲ以テ靴師及ビ麵包師ハ各々生産者ナリ、而シテ雙方ノ分配、即チ相互ノ産物ノ消費ハ交易ナリ、故ニ余輩ハ曰ハントス、富資ノ生産、分配、及ビ消費ナル語ト、富資ノ生産、及ヒ分配ナル語ト、富資ノ生産、及ビ消費ナル語トハ、至ク同様ノ意味ヲ含ムモノニシテ、且ツ「交易」ナル語ト全然同一ナルモノナリト

此ノ意義ノ錯亂ハ「消費」ナル語ノ真正本原ノ意義ニ注意スルコトヲ怠リシ著述者流ヨリ起レルモノ居多ナルヤ疑ナシ、英國ニ於ケル科語ハ「コンシューメル」及ビ「コンサンブション」ナリ、此ノ兩語ハ破滅ノ義ヲ含ム者ト言ハザルヲ得ザルガ如シト雖モ余輩ハ既ニ貿易上ノ語ニ於テ「コ

ンレユームル」ハ買者ノ義ヲ示ス可キコトヲ述ヘタリ、佛國ニ於テハ羅甸ノ「コンシユメレ」ヨリ來レル「コンスメ」ヨリ轉シテ「コンソンプチオン」トイフ語アリ、是レ滅却ノ義ナリ、又羅甸ノ「コンサンメレ」ヨリ來レル「コンソンメ」ヨリ轉シテ「コンソムマチオン」トイフ語アリ、是レ即チ佛國經濟學士輩ノ通シテ用フル所ノ科語ナリ、「コンソムマチオン」ハ羅甸ノ「コンサンマチヨ」ナル語ニ對セリ、サテリツトルノ佛語辭書ニ「コンソンメ」ナル語ノ本原ノ意義ハ完了スル、又ハ成就スルノ謂ヒナリトアリ、且ツ其證例トシテラフオンタインノ詩篇中ヨリ左ノ一句ヲ引用セリ、曰「僅々數日ニシテ彼レ其事ヲ成就セント、又パスカルノ詩篇中ヨリ左ノ一句ヲ引用シテ曰「吾人將ニ證明ヲ成シ遂ケントスト、此等ノ句ニ於テ「コンソンメ」ナル語ハ成就スル、又ハ完了スルノ意義ヲ示セリ、機敏ナル佛人ハ「ウオルフノ、ジョンムール、公ノ葬儀」ト題スル有名ナル詩篇ヲ精巧ニ翻

譯シ、千七百六十一年ボンヂシエハーノ圍ニ於テ死セシト云フコロネ
 ルドホーマノワーノ爲ニ佛語ヲ以テ著述シタル原本ナリト稱シテ世
 人ヲ欺カントシタリ、而シテウオルフハ却テ之レガ爲ニ他人ノ著述ヲ
 偷ヨシモノト言ハレタリ、此ノ詩ノ末句ニモ「コンツンメ」ナル語ヲリッ
 トルノ辭書中ニ引用シタル詩句ト同一ノ意義ニ用ヒタリ、就テ看ル可
 シ、又ル「フローン」モ正ニ之ト同一ノ意義ヲ以テ「コンツンメ」ナル語ヲ用
 ヒタリ、其「社會」之利害第二章ニ曰「交易ト賣買トノ殊異ナル所ヲ説カバ
 交易ニ於テハ彼我全ク其目的ヲ果シ、各々其得ント欲スル所ノ物件ヲ
 領收ス、故ニ唯之ヲ享用スルノ外、又何事ヲモ爲スヲ要セズ、賣買ニ於テ
 ハ之ニ反シテ獨リ買主其目的ヲ果スナリ何トナレバ物件ヲ享用スル
 ノ地位ニ在ルモノハ獨リ彼レノミナレバナリ、賣主ニ至リテハ未ダ全
 タ其目的ヲ果ササルナリト

又同書第三章ニ曰「交易ハ直行シテ其結局タル消費ニ達ス、交易ハ生産
 及ビ消費ノ二事ニ止マリテ單一ノ契約ヲ以テ其局ヲ結ブ、然レモ貨幣
 ノ媒介ヲ以テスル契約ハ直ニ完了スルモノト謂フヘカラズ、何トナレ
 バ賣主ハ自身若クハ他人ニ委託シ其得タル所ノ貨幣ヲ以テ更ニ買主
 トナラザルヲ得ザレバナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ、此ノ契約ノ最後ノ目
 的タル消費ニ達スルニハ、四目ト三契約者其一人ハ二回關與ス可キト
 ヲ經過セザルヲ得ザルナリト

又「ブランキヤ」ハ其「經濟學沿革史」第一卷百九十四頁ニ曰「一切ノ取引ハ
 交易ノ様式ヲ以テ完了ス可シト」
 「コンツンメ」ハ原來完了、又ハ成就ノ謂ナリ

伊太利ノ經濟學者流ノ用ヒル科語ハ「コンツマシヨキ」ナリ、此レ猶ホ佛
 語ノ「コンスシマチヨシ」ノゴトク、羅甸ノ「コンスシマチオ」ナル語ヨリ來

レル者ニシテ、至備又ハ成就ノ意義ヲ含有セリ
 「消費者」トハ何ノ爾ロツヤ、消費者トハ生産者ノ事業ヲ完了シ、成就スル
 人ヲ云フ、生産者ハ某物件ヲ産出シテ賣出ス、然レモ之ニ價格ヲ與フル
 者ハ買主ナリ、又之ヲ賣フニ因テ之ニ價格ヲ與ヘ、以テ生産者ノ情願ヲ
 完了シテ取引ヲ成就スル者モ買主ナリ、ル、ブルーン及ヒ、理物學派ガ交
 易ヲ行ハルニ及テ取引始テ完結スト言ヒシハ最モ正當ノ語ナリ、靴
 師ハ麵包ヲ要シ、麵包師ハ靴ヲ要ス、此ノ兩家ハ各々其產物ヲ交易シテ
 各自ノ情願ヲ成就ス、然レモ若シ靴師其靴ヲ賣テ貨幣ヲ收ムルニ於テ
 ハ、其情願未ダ成就セズ、乃チ更ニ其貨幣ヲ以テ麵包ト交易セザルヲ得
 ズ、麵包師及ビ、其他各生産者ニ就テ論スルモ亦然リ
 是ニ於テカ余輩ハ英語ノ「コンシューメル」モ買主ノ外一ノ意義ヲモ有
 セ、買主者ナルヲ「消費會スル」ニ非ズレバ「コンシューメル」即チ消費ナ

ル諸ハ人ヲシテ誤認ニ陥ラシメ易キヲ知ルナリ

此ノ考究ノ總結果ハ「經濟」ノ第二學派ト第三學派トノ間ニ於テ更ニ差
 異ナキヲ示スニ在リ、即チ一ノ學派ニ於テ「政治經濟學」ハ富資ノ「生産」分
 配及ビ「消費」ヲ講スルノ理學ナリト云ヒ他ノ學派ニ於テ「政治經濟學」ハ
 「交易」ノ理學ナリト云フハ、其實同一物ヲ指示スルナリ、斯ノ如ク此等ノ
 言辭ヲ細密ニ解釋スルハ、到底何レモ同一ノ事ヲ表明スルヲ知ルト
 雖モ後者ノ釋義ノ前者ニ比スレハ遙ニ勝レルハ明白ナリ、人皆交易ノ
 何物ナルカヲ知レリ、而シテ「經濟」ハ「交易」ノ理學ナリト云ヒ、又凡ソ交易
 ニ供シ得ヘキ物件ハ「經濟」上可量物ナリト云フハ、直ニ此ノ理學ノ本
 性、目的、區域ヲ了解ス可シ、然レモ「經濟」ハ富資ノ「生産」分配及ビ「消費」ヲ論
 スルノ理學ナリト云フハ、此等ノ語ハ各々其之ニ由テ理會ス可キ事

門上ノ意義ノ詳解ヲ要ス可シ、且ツ前ニ論セシガ如ク「經濟」ヲ交易ノ理
 學ト云フ所ハ、其區域内ニ屬スルヲ最モ明瞭ナル數多ノ取引モ、若シ「經
 濟」ヲ「富資」ノ生産分配消費ノ理學ナリト云フ所ハ、其區域内ニ屬スルヤ
 否ヤ甚々明瞭ナラザル者アリ、其果シテ此ノ學ノ區域内ニ屬スルヲ
 示スハ頗ル困難ニシテ許多ノ説明ヲ要スベシ
 是ヲ以テ余輩ハ「經濟」ニ於テ「消費」ナル語ノ専門上ノ意義ヨリ減却ノ觀
 念ヲ全ク排斥シ、獨リ購買ノ觀念ノミヲ本眞ノ普關ノ意義ト爲シテ留
 存スヘシ、余輩既ニ各物件ハ減却セラル、カ爲ニ產出セラルト主張ス
 ルノ全ク誤謬ナルヲ論シ、又「消費」ナル語ハ減却ノ義ヲ示ストスルモ
 「消費」ハ一切ノ生産ノ目的ナリト云フノ正當ニ非ザルヲ論シタリ、况
 ヤ又「消費」遲延スル時ハ損失ヲ招クト云フニ至リテハ其當ヲ得サルコ
 ト固ヨリ論ヲ俟ササルナリ、然リト雖モ今若シ「消費」ナル語ハ唯々購買

ノ義ヲ示ス者ナリトスル所ハ、則「消費」ハ一切ノ生産ノ目的ナリト云フ
 正當ナルヘシ、何トナレバ、生産ナル語ハ某物件ヲ交易ニ供スルノ義
 ヲ示シ、消費ナル語ハ之ヲ交易シテ收ムルノ義ヲ示セバナリ、サレバ「消
 費」愈々速ナレバ、利益愈々多ク、「消費」愈々遅ケレバ、利益愈々少ナシト云フモ亦
 正當ナリ、獨リ「利潤」ノ割合ヲ論ズル一節ニ於テ、一日ニ得タル利潤ハ一
 週間ニ得タル利潤ニ比スレハ其割合更ニ多キヲ七倍ニシテ、其時間益、
 遲延スレバ、利潤ノ割合モ益々鮮少ナルヲ勿論ナリトノヲ示シタリ、サ
 レバ若シ生産者ノ產物消費セラレズ、即チ全ク購求セラレズンバ、是レ
 全ク生産者ノ損失ト爲リテ自己ノ勞力ノ報酬ヲ失フナリ、何トナレバ、
 其產物ヲシテ富資ヲラシムルモノハ獨リ「消費」アルノミニシテ、之ニ因
 テ勞力ノ報酬ヲ得ルニ至ルマデ、其勞力成就セサレハナリ、靴師ハ一千
 足ノ靴ヲ製セズ、其要スル所ノ者ハ之ト交易ス可キ物件ニ在リ、即チ直

接ニ麵包、衣服、薪炭、家屋等ノ如キモノト交易シ、又ハ間接ニ此等ノ物件
 ヲ得ルノ媒介即チ貨幣ト交易センコトヲ要スルモノナリ、而シテ其報ニ
 レテ果シテ消費セラレズ、即チ購求セラレザルトキハ、靴師ハ自家ノ勞
 カノ爲ニ一モ報酬ヲ得ルコト能ハズ、其取引ハ成就セザラン、麵包
 師モ亦一千個ノ麵包ヲ要セズ、然レモ靴師ト同ク之ト交易ス可キ衣食
 住其他幸福ヲ得ルノ具ヲ要セリ、酒商ハ數十石ノ伯爾多酒^{ホルト}及ヒ葡萄酒、
 其數樽ノ塞爾利酒ヲ要セズ、毛布商ハ數十丈ノ毛布ヲ要セズ、農夫ハ數
 町ノ禾穀、數頭ノ家畜ヲ要セズ、石炭坑ノ持主ハ一船ノ石炭ヲ要セズ、然
 レモ此等ノ人々ハ皆其產出スル所ノ物ト交易ス可キ衣食住及ヒ其他
 ノ便利物並ニ歡樂ヲ得ルノ具ヲ要セリ、俳優社中ハ自己ノ歡樂ノ爲ニ
 伎藝ヲ演セズ、戲曲踏舞者ノ社中モ亦自己ノ歡樂ノ爲ニ戲曲ヲ爲サズ、
 然レモ此等ノ社中ハ他ノ物件ト交易センガ爲ニ身ヲ勞レテ其戲ヲ演

スルナリ、此等ノ人ノ勞力若シ其報酬ヲ得ルキハ、是レ生産勞力ナリ、否
 ラザレバ是レ不生産勞力ナリ、總テ生産者ハ其自ラ產出スル所ノ物件
 ヲ要セズ、唯メ之ト交易シ得可キモノヲ要スルノミ、而シテ生産者ニシ
 テ其產物ヲ自餘ノ物件ト交易シ得ルコト愈速ナレバ其富資ヲ増殖ス
 ルコトモ亦愈速ナリ、是ニ於テ乎知ル消費ナル語ノ意義ハ購買ナリト
 スルキハ(是レ即チ消費ナル語ヲ創成セシ者ノ下タセシ意義ニ外ナラ
 ズ)消費ハ一切ノ生産ノ目的ナリ、消費ノ起ル愈速ナレバ富資ノ増殖ス
 ルモ愈大ナリトノ説ノ正當ナルコトヲ、而シテ「生産」「消費」ノ二事ハ交易
 ヲ構成スル者ナルガ故ニ邦國ノ富資ヲ致スハ交易ヲシテ迅速ナラシ
 ムルニ在ルナリ

此ニ國アリ多ク金貨及ヒ銀貨ヲ有スルモ之ヲ稱シテ眞ニ富メリト謂
 フヲ得ザルコト、酒多ク器械ヲ有スルモ之ヲ稱シテ眞ニ富メリト謂フ

コトヲ得サルカ如シ、金銀貨アレハ融通ナケレバ、其國ハ恰モ製造ヲ業トスレハ職工一揆ノ爲ニ其業ヲ罷ムル都府ノ如ク、常ニ貧窮ヲ免カル、コトヲ得サルヘシ、サレバ富資ヲ生産スルハ金銀貨ヲ融通スルニ在リ、富資ノ増殖ノ割合ヲ指示スルモノハ融通ノ速力ナリ、此ノ説ニ據ルルハ久ク經濟學士及ヒ政治家ノ紛議ヲ惹起シタル問題ヲ氷解スルコトヲ得可レ、即チ何如ナル事業、最モ國ノ富資ヲ致スノ効力アルカトノ問題是レナリ、ヨルベルト執政ノ時ヨリ佛國革命ノ時ニ至ルマデ、市邑又ハ村郷ノ中ニ就キテ何レカ最モ國ノ富資ヲ致スノ効力アルヤノ問題ハ烈シキ爭論ヲ惹起シタリ、而シテ甲又ハ乙ノ説其勝ヲ制セシニ從ヒ、一方ハ勢力ヲ得テ贊成ヲ被リ他ノ一方ハ沮壓セラレタリ、夫レ貨幣融通ノ速力ハ富資ノ増殖ノ割合ヲ指示スルヲ以テ其事業ノ何タルヲ問ハズ、貨幣ノ融通ヲレテ最モ速ナラシムルモノハ最モ國ノ富資ヲ増殖ス

ルノ効力アリト知ル可シ、通貨ハ融通ノ機械ニシテ事業ハ此ノ機械ノ運動力ナリ、故ニ事業ノ種類ノ何タルヲ論セズ、此ノ機械ヲ最モ速ニ運轉スル者ハ最モ速ニ國ノ富資ヲ増殖スヘシ、世間一切ノ事業中ニ就キテ、農業ハ貨幣ノ融通ヲシテ最モ遲鈍ナラシムル者ナルコトハ世人ノ熟知スル所ナリ、人ノ勞力ニ因ル事業ヨリ生スル產物ハ、其勞力ニ酬イルニ格外ノ獎勵物ヲ以テスレバ、大ニ之ヲ増殖シ、且ツ速ニ產出セシムルコトヲ得可キモ、天地自然ノ作用ニ至テハ遲鈍ニシテ人力ヲ以テ之ヲ迅速ニスルコトヲ得ズ、各種ノ商業ハ貨幣ノ融通ヲ迅速ニスルノ度ニ多少ノ差アリト雖モ、農業ニ比スレバ、其度皆甚タ迅速ナリ、是ヲ以テ専ラ農業ニ從事スルノ國ハ他ノ職業ニ從事スルノ國ニ比スレバ、其富資ヲ増殖スルコト最モ遲鈍ナラザルヲ得ズ、又一國ノ中ニ於テモ住民中農業ニ從事スル者ノ多少ニ應ジテ富資ノ差等アルヘシ、古今ノ經驗ハ以テ此

ノ説ヲ證明スルニ足レリ、即チ被^レ養^ル者自餘ノ諸國ノ如キハ農業ノ外
 其富源ヲ有スルコト甚ダ少キヲ以テ、歐洲中ニ於テ最も貧困ニシテ且ツ
 最も未開ナリ、英國及ビ荷蘭ノ如キハ、住民中農業ニ從事シテ他人ニ食
 物ヲ給スル者最も少キヲ以テ、最も富^クシテ、自餘ノ諸國ニ至テモ
 農業ニ從事スル住民ノ多少ニ比例シテ、貧富ノ差等アリ、古來人民ノ農
 業ヲ以テ富^クシテ致^スル例ハ甚ダ多カラズ、然レモ商業ニ奮發勸^ムシテ大ニ
 富貴ヲ得タル人ノ例ヲ見難キ市府トテハ、恐ラクハ稀少ナラン

○供給^ハ及ビ需要^ハノ釋義

三十四節 供給及ビ需要ナル語ハ、生産及ビ消費ナル語ト同一視セテ
 ル、コトアリ、セニオ^ル氏ハ前ニモ述ヘシカ如ク、消費ナル語ノ時トシテ

ハ、需要ナル同一ノ意義ニ用ヒラル、コトヲ説キタリ、案スルニ「生産」ト「供
 給」トハ意義全ク同一ナリ、販賣ニ供スル可量物ト云ヒ、生産シタル可量
 物ト云ヒ、又供給スル可量物ト云フハ皆同一ノ意義ノミ、然レモ「需要」ト
 「消費」トニ至テハ意義決シテ同一ニ非ザルナリ
 「需要」トハ某物件ヲ獲ントノ欲望ナリ、然レモ人其獲ント欲スル所ノ物
 件ト交易ス可キ物件ヲ有スルニ非ザルヨリハ、決シテ其欲望ヲ遂クル
 コトヲ得ズ、經濟上ノ現象モ亦從テ起ラザルナリ
 「需要」ノ「消費」ト同一ニ非ザルハ之ヲ知ルコト容易ナルヘシ、譬ヘバ田舎
 ニ於テ若干ノ牛乳、牛酪、鵝卵、家禽等ヲ生産スルモノ有リトセンカ、其地
 方ノ人民ハ常ニ某ノ價銀ヲ以テ此等ノ産物ヲ購買消費シ、從テ若干ノ
 生産及ビ消費アラシ、今該地方或ハ漸ク繁盛ニ赴キ、許多ノ富人來集シ
 テ、價銀大ニ昂騰シタリトセンカ、然ルモ尙ホ以前ト同一額ノ産物消費

セラレシ、今夫レ此ノ場合ニ於テ生産及ヒ消費同一ニシテ、其供給モ亦同一ナリ、然レモ需要ハ同一ナラザルナリ、若シ富民來集レ、村郷貧民ヲ出スヲ得ル所ニ比スレハ一層高キ價銀ヲ出サバ、需要ハ一層大ナラン、若シ價銀甚タ昇騰シテ某度ヲ超過スルニ及デハ、人々何如ニ此等ノ物件ヲ熱望スルモ、斯ク昇騰セル價銀ヲ出スヲ得ズンバ、購買ヲ廢絶セザルヲ得ズ、即チ「經濟」ノ意義ヲ以テ之ヲ言ヘバ、需要ヲ廢絶セザルヲ得ズ、是ヲ以テ「經濟」ニ於テ所謂需要トハ欲望及ヒ購買力ノ謂ヒナラザルヲ得ズ、故ニ欲望愈切ニシテ購買力愈大ナレバ其需要モ亦從テ愈大ナリ、サレバ「生産」及ヒ「消費」ハ交易ヲ成スト雖モ、相交易スル物産ノ數量上ノ關係ハ「供給」及ヒ「需要」ニ由テ定マル者ナリト言フヲ得ヘシ、此ニ於テ余輩ハ「經濟」ノ第二學派ト第三學派トノ間ニ本然ノ差別アルコトヲ見ルナリ、經濟ノ釋義ニ至テハ、兩派ノ意見全ク同一ニ歸スルヲ

ハ既ニ之ヲ示シタリ、但シ兩派ノ主義全ク相容レザル所ハ「價格」ノ原由ニ在リ、第二學派ノ經濟學士輩ハ大抵皆「生産者」ノ「勞力」ヲ以テ價格ノ重要ノ原由トナスノミナラズ、或ハ之ヲ以テ價格ノ唯一ノ原因トナス者アリト雖モ、物理說ノ論者及ヒ第三學派タルコンヂヤーク、ホウエー、トリ、パスチヤール並ニ伊太利ノ經濟學士ブエルリ、ベツカリア、シエ、ノブエ、レ並ニ余輩ノ如キハ、後章ニ於テ詳説スルガ如ク、消費者ノ需要ヲ以テ價格ノ唯一無他ノ原由ト爲スナリ

○生産勞力、プロダクト、及ヒ不生産勞力、ファンプロダクトなる語の釋義

三十五節 スミスノ「富國論」中ニ就キ其最モ熱心ナル稱讚者トイヘモ尙ホ且ツ翕然非斥スル所ニシテ、スミス自家ノ論旨并ニ世人普通ノ語

「生産力」ト「不生生産力」トニ備ル説ト如キ
モハバ之アラザルナリ

「理物學派」ハ「生産力」ナル語ヲ制限シテ、土地ノ産出スル原質ヲ増殖ス
ルノ謂ヒナリトシ、自餘一切ノ「力」ヲ盡ス者、即チ一切ノ「工匠」及「一切
ノ商賈」ヲ以テ「不生生産力者」ト看做シタリ、蓋シ其説ニ製造ハ「力」ヲ以
テ産物ノ價格ヲ増加スト雖モ、其増加シタル價格ハ「工匠」ノ就業中消費
セシ産物ヲ價ヲ止マレリ、又商業ハ同一價格ノ物産ヲ交易スルニ止
マレリ、從テ製造商業ハ決シテ富實ヲ増殖セズト曰ヒシニ因リ、
「不生生産力者」ノ名ヲ以テセシメ、
「力」ヲナレバ、
「不生生産力」ナル語ハ侮辱ノ意
味ヲ有スル者ト思惟スル者モアリテ、
「理物學派」ヲ駁撃シタリト雖
モ「理物學派」ハ之ニ答フルニ甚タ正當ナル語ヲ以テシタリ、曰其所謂「不

生産力」ナル語ハ、侮辱擯斥ノ意義ヲ以テ用ヒシニ非ズ、唯タ單ニ「理學
上」ノ分類ノ一部トシテ用ヒタルノミナリト「理物學派」ハ固ヨリ此等「人
類」ノ「力」ノ貴重有用ニシテ實ニ缺ク可カラザルコトヲ認容シガリト
雖モ、唯「理學上」ノ意義ニ於テ「生産力」ト名ケザリシノミニシテ、其答
ハ甚タ正當ナリヤ、然レモ其「理學上」ノ分類ハ歲月ヲ出テズシテ誤謬ナ
ルヲ明白ナルニ至リヌ

爾後「經濟學士」輩出シ、「理物學派」ノ此ノ主義ヲ駁撃セシガ、就中「スミス」ハ
「富國論」第四卷九章ニ於テ之ヲ駁撃シ、且ツ曰「第三類」ハ「理物學派」ガ「不生
産力」者ナル賤稱ヲ附シテ以テ貶黜セントセシ「工匠」製造者及「商賈」
ナリト、余輩ハ下文ニ於テ「スミス」躬自ラ「理物學派」ニ責ムルト同一ノ誤
謬ニ陷リシヲ無キヤ否ヤヲ觀察ス可シ
同書第二卷三章ニ「力」ヲ二種有リ、一ハ物件ノ價格ヲ増加スルモノ

是レナリ、一ハ此ノ如キ效職無キモノ是レナリ、前者ハ價格ヲ生産スル
 ヲ以テ「生産勞力」ト名ケ、後者ハ價格ヲ生産セザルヲ以テ「不生産勞力」ト
 名ク可レ、即チ製造者ノ勞力ノ如キハ、概テ其工ヲ加フル所ノ物料ニ自
 身ノ扶持ト、備主ノ利潤トヲ生スルニ足レル價格ヲ加フト、サレバスミ
 スハ「生産勞力」ナル語ヲ擴メテ農業ハ勿論、製造及ビ商業ニ屬スル各種
 ノ勞力ヲ包含セシムルモノナリ、然レモスミスハ此ニ至リテ頓ニ其言
 ヲ止メ自餘一切ノ勞力者ヲ擯斥シテ不生産ト爲セリ、即チ自家ノ「理物
 學派」ヲ評スル言ノ如ク「不生産勞力者」ナル賤稱ヲ附シテ以テ之ヲ貶黷
 セツトスルハ誠ニ怪ムヘキナリ

スミス同輩ニ於テ語ヲ續テ曰「之ニ反シテ僕婢ノ勞力ハ何物ノ價格ヲ
 モ増加セズ、夫ノ製造者ハ預メ備主ヨリ賃銀ヲ收ムト雖モ、其實備主ヲ
 シテ毫モ費用ヲ負ハシメズ、何トナレバ此等ノ賃銀ノ價格ハ概テ其工

ヲ加フル所ノ物件ノ價格ヲ増加スルガ爲メニ利潤ト共ニ復歸スレバ
 ナリ、然レモ僕婢ヲ扶持スルノ價銀ハ決シテ復歸セズ、衆多ノ製造者ヲ
 使雇スル者ハ富裕ヲ致シ、衆多ノ僕婢ヲ扶持スル者ハ貧困ニ赴ケリ、僕
 婢ノ勞力ト雖モ、價格行リテ、當ニ其賞ヲ受クベキハ、製造者ノ勞力ト異
 ナルコトナシ、然レモ製造者ノ勞力ハ賣買ス可キ貨物ニ附着シテ、其勞力
 ヲ結了セシ後少ナクトモ若干時間ハ存在シテ、恰モ他日若シ必要ノ事
 有ラバ之ヲ使用センガ爲ニ若干ノ勞力ヲ保蓄スルニ異ナラズ、爾後若
 シ必要ノ事行ラバ此ノ物件又ハ其價銀ヲ以テ初メ此ノ物件ヲ生産セ
 レ勞力ト同一量ノ勞力ヲ運用スルコトヲ得可シ、之ニ反シテ、僕婢ノ勞力
 ハ特別ノ物件即チ賣買ス可キ貨物ニ附着セズ、其勞力ハ概テ之ヲ施行
 スルノ際ニ於テ消滅シ、後日由テ以テ同一量ノ勞力ヲ運用ス可キ痕跡
 即チ價格ヲ遺スコト罕ナリト

スミスノ説ク所ニ據レハ、客館ノ庖人ハ生産勞力者ナリ、彼レ衆客ノ啖
喫スル種々ノ食料ヲ調理シ、其勞力ハ食料ノ價格ヲ増加シ、房錢ヲ收ム
ルニ及ンテ報酬ヲ受ク、其勞力ハ賣買ス可キ貨物ニ附着シ、之ヲ盡スノ
後モ若干時間ハ存在シ、又其勞力ハ館主ノ利潤ヲ致セリ、故ニ其賃銀ハ
主顧ノ決算ヲ得テ悉皆館主ニ償還セラレ、ナリ
然レモ紳士ノ家ニ備ハル、庖人ハ、客館ノ庖人ト同一ノ職務ヲ盡セド
モ、其僕婢ナルヲ以テスミスノ説ク所ニ據レバ、生産勞力者ナリ抑、此
ノ如キ分別ノ理由ハ何處ニアルヤ、スミス自家ノ意見ニ據ルニ、種々ノ
食料ハ庖人ノ之ヲ調理シテ食用ニ適スルニ至ラシムル後ハ、其未タ調
理ヲ施ササルノ前ニ比スレバ、價格増加セリ、庖人ノ勞力ハ有形貨物ニ
附着シ、之ヲ盡スノ後モ若干時間ハ存在セリ、此ノ兩庖人正ニ同一ノ事
ヲ行ヒ、均ク其勞力ノ爲ニ賃銀ヲ受ルモノナルニ、何ヲ以テカ一ハ生産

勞力者ニシテ、一ハ生産勞力者ナルヤ、スミスノ説ク所ニ據レハ、若シ
客館ノ庖人紳士ノ家ニ入レバ、直ニ生産勞力者ヨリ轉シテ生産勞力
者トナルナリ、又若シ通常ノ家ニ備役セラレシ庖人移テ客館ニ入ル
ハ、直ニ生産勞力者ヨリ轉シテ生産勞力者トナルナリ、此ノ如キ分別
ノ有害無用ニシテ事理ニ背戾スルハ明白ナリ
又スミスハ石炭ヲ坑中ヨリ採掘シテ、之ヲ遠方ニ運輸シ、且ツ之ヲ紳士
ノ邸宅ノ地窖ニ入ル、ニ從事スル一切ノ人夫ノ生産勞力者ナルコトヲ
説ケリ、然レモ此ノ石炭ヲ地窖ヨリ客房ノ爐底ニ運搬スル人夫ハ僕婢
ナリ、是ヲ以テ生産勞力者ナリ、スミス自家ノ意見ニ據ルニ、石炭ヲ採
掘シ且ツ之ヲ地窖ニ運輸スル各種人夫ノ勞力ハ、石炭ノ價格ヲ増加ス
ルモノナリ、サレバ此ノ理ヲ推ストキハ石炭ヲ地窖ヨリ客房ニ運搬ス
ル人夫ノ勞力モ亦石炭ノ價格ヲ増加スト謂ハザルヲ得ズ、石炭ノ發ス

ル所へ山谷ノ坑中ナリ、石炭ノ着スル所ハ客房ノ爐底ナリ、何ヲ以テカ
 坑中ヨリ地窖ニ運送スル人夫ハ生産勞力ニシテ、地窖ヨリ爐底ニ運送
 スル人夫ハ不生産勞力者ナルヤ、兩者ノ勞力均ク必要ニシテ且ツ均ク
 賃銀ヲ受クルナリ、此ノ如キ分別ノ有害無益ニシテ事理ニ背戻スルヤ
 明白ナリ

紳士ハ何ヲ以テ客館、若クハ自家ニ於テ、其食料ヲ調理スル庖人ノ爲ニ
 賃銀ヲ拂フヤ、親ヲ調理スルノ勞ヲ省カンガ爲ナルヘシ、紳士ハ何ヲ以
 テ石炭ヲ採掘スル坑夫、及ビ之ヲ運輸スル商賈ノ爲ニ賃銀ヲ拂フヤ、何
 ヲ以テ地窖ヨリ客房ニ運搬スル人夫ニ賃銀ヲ拂フヤ、親ヲ其事ヲ爲ス
 ノ勞ヲ省カンガ爲メナルヘシ、自餘何等ノ事物タルヲ問ハズ、人ノ需要
 スル所ト爲リテ賃銀ヲ受クルモノハ、皆此ノ理ニ據リテ推論スルコトヲ
 得可シ、此等ノ場合ハ皆勞力ノ需要アリ供給アリ賃銀アルコトニ於テ彼

此同一ナリ、然ルニ尙ホ其某者ヲ生産勞力ト名ケテ、他ヲ不生産勞力ト
 名クルカ如キハ、是レ豈ニ全ク理學上ノ分類法ニ背戻セル者ト謂ハザ
 ル可ケンヤ

スミス又語ヲ續テ曰「社會中ノ最モ上流ニ位スル人類ノ勞力ニシテ、僕
 婢ノ勞力ノ如ク何等ノ價值ヲモ生産セズ、又永續ス可キ物件、即チ賣買
 ス可キ貨物(其勞力ヲ盡セシ後モ尙ホ存在シ、且ツ爾後同一量ノ勞力ニ
 換フルコトヲ得可キ貨物)ニ附着セザルアリ、例ヘバ君主及ビ之ニ事フル
 司法、軍務、兩部ノ官吏、並ニ陸海軍隊ノ如キハ、不生産勞力者ナリ、是レ皆
 公衆ノ備人ニシテ、他ノ人類ノ勞力ヨリ生産スル物件ノ一部分ヲ以テ
 扶持セラル、モノナリ、其勞力ハ何如ニ尊重ナルモ、何如ニ有用ナルモ、
 何如ニ緊要ナルモ、決シテ後日同一量ノ勞力ニ換フルコトヲ得可キ物件
 ヲ生産セザルナリ、其當年ノ勞力ノ結果タル社會ノ保護、安寧、防禦ハ、以

テ來年ノ社會ノ保護安寧防禦ヲ買フコトヲ得ザルヘシ、最モ端嚴ニシテ且ツ緊要ナル職業ニ從事スル者、並ニ最モ輕浮ナル職業ニ從事スル者、即チ僧官、法師、醫師、各種ノ博士並ニ俳優、樂師、唱歌者、踏舞者等ノ如キモ、齊ク同一ノ部類ニ入レサル可カラス、此等ノ中ニ在テ至賤ナルモノ、勞力モ、尙ホ自餘各種ノ勞力ノ價格ヲ整理スル理法ト同一ノ理法ノ整理スル所タル多少ノ價格ヲ有セサルハナシ、而シテ右ノ如キ諸勞力ハ縱ヒ至貴ニシテ且ツ至要ナル結果ヲ生スルコトアルモ、決シテ同一量ノ勞力ニ換フルコトヲ得可キ物件ヲ生産セザルナリ、凡ソ此輩ノ事業ハ、俳優ノ講談、辯士ノ演說、又ハ樂師ノ曲調ノ如ク、隨テ生産スレハ、隨テ消滅セリト

スミスガ陸海軍人ノ當年ノ勞力ヲ以テ買ヒタル社會ノ保護安寧防禦ハ以テ來年ノ社會ノ保護安寧防禦ヲ買フコトヲ得可カラスト説クニ至

テハ、余輩一言セサルヲ得ス、人有リ其當年喫スル所ノ食料、若クハ温ヲ取リシ所ノ衣服、薪炭ハ、以テ來年ノ生活、若クハ温暖ヲ買フコトヲ得ヘカラザルニ非スヤト、然ルニ尙ホスミスハ食料、衣服、薪炭ヲ生産スルモノヲ以テ生産勞力者ト爲シ、社會ノ保全ヲ生産スル者ヲ以テ、不生産勞力者ト爲セリ、其虛妄モ亦甚シカラズヤ

且ツ此ノ事ニ就テハ、スミス全ク自家撞着ニ陷ルモノト謂フヘシ、其第二卷、一章ニ曰、社會各人ノ學ビ得タル有益ノ才能ハ皆富資ナリ、此ノ如キ才能ヲ學ビ得ントスル者、教育ヲ受ケ、若クハ勤學シ、若クハ見習生タルノ間、之ヲ扶持スルニハ必ズ實費ヲ要スベシ、是レ恰モ其身ニ附着スル固定資本ノ如キ者ナリ、此等ノ才能ハ其人ノ財産ノ一部分ナリ、又其社會ノ財産ノ一部分ナリ、工匠ヲ教練シテ精工ヲ進ムル事ノ如キモ、必ス多少ノ費用ヲ要ス可ケレモ、爲ニ其勞力ヲシテ輕易簡略ノ法ヲ得シ

ムルニ至ルヲ以テ、相當ノ利潤ト此ノ費用トヲ比シテ、是ル可シ故コ之ヲ工業上ノ器械ト同一視スルモ可ナリト

又其第一卷十章ニ曰「許多ノ勞力及ビ光陰ヲ費レ以テ非凡ノ精工ヲ要スル所ノ職業ニ習熟セル者ハ、之ヲ高價ノ器械ニ比スルモ可ナリ、其學ビ得タル所ノ職業ハ、尋常勞力ノ賃銀ノ外ニ之ヲシテ其修業ノ全費ヲ償ヒ、且ツ少ナクモ此ノ費額ニ均キ資本ノ尋常ノ利潤ヲ收ムルヲ得シムルヤ必セリト

又曰「人ハ生活ノ必需、便利、娛樂ノ具タル物件ヲ享用スルヲ得ルノ多少ニ從テ貧富ヲ異ニス」ト

サレバスミスノ富資ト認定スル所ノ學科、知識、娛樂ヲ生産スルヲ得ル者ノ、生産勞力者タルハ、斷レテ疑ヲ容レザル所ナリ

故コセ、ビ、セイハ生産勞力ナル語ヲ擴メテ、凡ソ人ノ需要スル所ト爲リ

テ賃銀ヲ受ルニ足ル一切ノ勞力ヲ包含セシメタリ、其經濟論第一卷七章ニ曰「勞力ハ、之ヲ使用スル所ノ事業ノ何タルヲ問ハズ、産物ノ生殖ヲ助クル以上ハ、皆生産勞力ナリ、サレバ試験ヲ行ヒ、書冊ヲ著ス學士ノ勞力ハ生産勞力ナリ、事業企畫者ノ如キハ、直接ニ其手ヲ事業ニ下サズト雖モ、其勞力ハ生産勞力ナリ、之ヲ約言スレバ、一切ノ手業ハ土地ヲ掘鑿スル人夫ノ勞力ヨリ船ヲ運轉スル水夫ノ勞力ニ至ルマテ皆生産勞力ナリト

又曰「勞力トハ一定ノ時間ニ一定ノ目的ニ向テ連發スルノ行爲ナリ、何等ノ物件ヲ問ハズ、之ニ多少ノ利用ヲ加テ、結局之カ爲ニ盡セシ勞力ト同一ノ價格若クハ之ニ超過スルノ市價ヲ備ヘシムル類ノ勞力ハ、皆生産勞力ナリ、又結局市價ヲ有スル藝能ヲ生スル類ノ勞力ニ至テモ、縦ヒ之ヲ用フル時直ニ滅盡スル俳優等ノ藝能ヲ生スル者モ皆生産勞力ナ

リ、之ニ反シテ、結局毫モ價格ヲ致サザル類ノ勞力ハ皆不生産ナリ生産
 勞力ニ、學士ノ勞力、人夫監督者ノ勞力、及ビ勞役者ノ勞力ノ三種有リト
 セイハ又スミスノ不生産勞力ニ係ル意見ヲ駁撃セリ、其「經濟論」第一篇
 五章ニ曰「家屋、金片、又ハ堅牢ナル家具ハ甚タ久キニ耐ユル産物ナリ、衣服
 ハ斯ク久キニ耐エズ、蔬菜菓實ノ如キニ至テハ愈々甚タシ、然レモ此ノ耐
 久ノ度ノ差違ハ決シテ其産物ノ産物タル所以ヲ増減セズ、此等ノ産物
 ハ皆其價格ニ比例スルノ富資ヲナス者ナリ、モントモレンシノ山谷
 ニ往スル農夫カ毎歲櫻子ヲ賣テ得ル所ノ金圓モ、モントモレンシノ
 山林ノ一部分ノ所有生ガ伐木シテ得ル所ノ金圓モ、其價銀タルノ性質
 ニ於テハ何ソ異ナランヤ、其同シカラザル所ハ、只タ金額ノ多少ニ在ル
 ノミ、若シ櫻子ノ價格ヲシテ木材ノ價格ヨリモ貴カラシメンニハ、櫻子

ハ木材ヨリモ一層巨額ナル富資ノ生産ヲ表センノミ、夫レ然リ、然リト
 雖モ櫻子成熟ノ時ト、之ヲ喫スル時トノ間ハ、決シテ久キニ非ザルニ反
 シテ、堅牢ナル家屋ヲ構造スル木材ハ、甚タ永ク存在スヘキノ富資ナリ、
 是ニ由テ之ヲ觀レバ、生産ノ事ヲ論スルニハ、決シテ産物ノ久キニ堪ユ
 ト否トヲ商量スルコトヲ要セス、唯人ノ之ニ付與スル賣價大ナルトハ
 即チ其産物ニ勞力ヲ盡シテ生シタル利用大ナルカユエナリト知ルヘ
 ク、賣價小ナルトキハ即チ其利用小ナルガユエナリト知ルヘキノミ、故
 ニ生産者ガ其産物ヨリ得ル所ノ利潤ヲ量定スヘキモノハ只タ價銀ア
 ルノミ

「斯ク生産ノ事ニ關シテ、其産物果シテ價格アルヨリハ、毫モ其存續ノ長
 短ヲ商量スヘキ理由無キ」既ニ明白ナルヲ以テ、余輩試ニ各種ノ産物
 ヲ通觀シ、完成ノ後暫時ニシテ消費セサルヲ得サル者ヨリ、生成ノ時直

ニ消費セザルヲ得ザル者ニ至ラン、例ヘバ演戲ノ如キハ、其存續ノ點ニ於テハ土地ノ菓物ト異ナル所アリ、何トナレバ、其價格ハ演扮ノ後瞬息モ存續スルコトヲ得ザレバナリ、然レモ二者各々一ノ産物タルノ性質ニ至リテハ、異ナル所無シ、但シ人ノ欲望ヲ充タシメ、嗜好ニ投シ、賣買セラル、ノ性質ヲ指スナリ、俳優ハ其勞力及ヒ藝能ヲ賣ランガ爲ニ來會シ、觀者ハ其親ヲ生産シ若クハ其父母ノ生産セシ物件ヨリ來ル所ノ某金額ヲ此ノ適意ノ産物ト交易センガ爲ニ來會ス、其交易タルヤ、他物ノ交易ト異ナラサルナリ、

「アダム、スミス及ビ自餘ノ經濟學士輩」ハ無形産物ニ産物ノ名ヲ下シ及ヒ無形産物ヲ生産スルノ勞力ニ生産勞力ノ名ヲ下スヲ非トセリ、其意蓋シ以爲ク、此等ノ産物ハ即時ニ滅盡シテ毫モ存續セズ、之ヲ蓄積シ難ク決シテ、之ヲ以テ邦國ノ富資ヲ増加セザレバナリト

最後ニ述フル理由ハ其謬見ニ起ルヤ明白ナリ、人焉ゾ土地ノ菓物ノ如キ保存シ難キノ産物ヲ蓄積センヤ、然ルニ彼輩ハ尙ホ之ヲ産物ニ非ズトハ言ハザル可シ、

「之ヲ要スルニ、有價物ハ滅盡スルノ故ヲ以テ其産物タル所以ヲ損滅ストスルハ不可ナリ、看ヨ、毎年ノ産物ノ大半ハ其年中ニ滅盡セラル、ニ非スヤ、例ヘバ利息ニ由テ以テ生計ヲ立ツル者ノ如キハ、年々一物ヲダモ餘ササルナリ、サレトモ其故ヲ以テ毫モ利息ヲ有セズト言フコトヲ得可キヤ、」

「此ノ論旨ニ係ルスミスノ意見ハ、生産ナル者ノ全体ノ旨趣ヲ包括セザルナリ、スミスハ給料ヲ受ケテ以テ實益ヲ與フル一様ノ人類ヲ不生産勞力者ノ部類ニ列入シテ社會ノ無用ノ重擔ト看做セリ、然レモ常ニ外ヲ拒クノ準備ヲ怠ラズ、身命ヲ抛テテ防禦ニ勉ムルノ軍人、光陰、智識ヲ

費シテ社會ノ權利ヲ保護スル爲政家、無事及ヒ正義ヲ護持スル法官、苦學シテ得タル所ノ學科ヲ傳布スル博士等ノ如キ地位高尚品行最モ選擇スルニ堪ユヘキ者ヲ包含スル人類ハ、社會ノ爲ニ有用ニシテ且ツ邦國ニ缺ク可カラザルノ需要ヲ滿タス者ナルコト、決シテ衣食住ノ民生ニ於ケルニ異ナラザルナリ

「若シ夫レ此等ノ民類ノ勞力ニシテ十分廣大ナル競争ニ付セラレズ、或ハ之ニ適當ノ價銀ヲ拂フガ如キコトアラバ、是レ價銀ノ妄用ノミ、斯ル妄用ハ余輩ノ毫モ關係セサル所ナリ、世間ニ不生産勞力ト稱ス可キ者ノ存スル行ルヤ疑ヲ容レズ、然レモ順當ノ競争ヲ經テ價銀ヲ付與シ且ツ其價銀ニ適應スルノ勞力ハ、之ニ因テ生スル所ノ産物ノ存續何如ヲ論セスシテ必ス皆生産勞力ナリ

「無形産物ナル者アルコトヲ認承スルヲ肯ンゼザル著述家ノ説ニ據レバ

明日公園ニ於テ放ツ可キ烟火ヲ生産スル工人ハ生産勞力者ニシテ、一大戯曲ヲ演スル俳優ハ不生産勞力者ナリ、今若シ此ノ兩例ニ就キテ判斷ヲ下スニ勞力ノ爲ニ拂フヘキ價銀ノ大小ヲ以テセズシテ之ニ因テ生産消費スル富資ノ多寡ヲ以テシタランニハ、得難キ藝能ノ必要ナルト時間ノ永キハ人ヲシテ久ク之ヲ記憶セシメ且ツ其志氣ヲシテ精微高尚ナラシムルカ爲ニ瞬間ニ消散スル烟火ノ製造人ニ比スレバ俳優コソ一層生産勞力者タルニ幾キ者ナレト想料セサルヲ得スト

余輩ハ窃ニ期待スラクミル氏ハ必ズセイノ此ノ論旨ニ同意シタラント何トナレバミル氏ハ其書ノ卷首ニ於テ富資トハ購買力ヲ有スル物件ナルコトヲ説ケハナリ、購買力ヲ有スル物件ハ勞力ヲ包含スルヤ明白ナレバナリ、然ルニ何ソ圖ランミル氏ハ大抵スミスノ主意ニ依レリ、但シ少シク之ヲ擴メタルノミ、富資ハ何物ヲ問ハス交易シ得可キ物件

ナリトノ釋義ヲ定メシ後余輩ノ前ニ説ケルガ如ク之ヲ縮少シテ有形
産物ニ制限シ且ツ曰是ヲ以テ余ハ本論ニ於テ富資ト云フハ獨リ有
形ノ富資ト名ケラル、者ノミヲ指示シ、生産勞力ナル語ハ獨リ有形物
ニ合體スル利用ヲ生産スル勞力ノミヲ指示ス可シ然レモ今此ノ語ノ
意義ヲ斯ク制限スルニ當テハ此ノ制限内ニ在テハ十分ニ廣キ意義ヲ
以テ之ヲ用ヒント欲スルナリ即テ直接ニ有形産物ヲ生産セサル勞力
ト雖モ若シ其最後ノ結果有形産物ヲ増加スルニ在ランニハ之ニ生産
勞力ノ名ヲ下スコトヲ辭セサル可シ例ヘハ製造上ノ練熟ヲ得ルニ費
セル勞力ノ如キハ之ヲ生産勞力ノ部ニ加列セン是レ練熟ヲ重スルノ
故ニ非ス工業ヲ學ブノ最後ノ目的ハ此ノ練熟ヲ以テ有形産物ヲ製造
スルニ在ルガ故ナリ又事業ノ振起ニ缺ク可カラザル所ノ保護ヲ與フ
ル政府官吏ノ勞力ノ如キモ亦有形ノ富資ヲ生産スル者ト看做サマ

ヲ得ズ何トナレバ若シ此ノ保護無クシハ現今ノ如ク旺盛ナル事業
ハ到底存立シ得ヘカラサレバナリ此ノ如キ勞力ハ耕夫及ヒ紡棉者ノ
勞力ノ如キ直接ナル生産勞力ニ對シテハ間接ナル生産勞力ト謂フ可
キニ似タリ凡ソ此等ノ勞力ハ其未タ存セサルノ時ニ比スレハ社會ヲ
シテ迫ニ有形産物ニ富マシムルノ一事ニ於テハ皆同一ナリ皆直接若
クハ間接ニ有形ノ富資ヲ増殖スル者ナリ
之ニ反シテ不生産勞力ナル語ハ有形ノ富資ヲ生産スルノ結果ヲ生セ
ザルノ勞力ヲ指示スル者トス可シ此ノ類ノ勞力ハ如何ニ之ヲ廣施シ
如何ニ之ヲ利用スルモ之カ爲ニ毫モ社會及ヒ世界ノ有形ノ富資ヲ増
加セサルノミナラス却テ斯ル勞力者ノ消費ニ歸スル有形ノ富資ヲ減
ス可シ
政治經濟學ノ語ニ於テハ永久ニ快樂ヲ生スルノ具タル蓄積財本ヲ増

加セズシテ直接ノ享用ヲ爲スニ止マル一切ノ勞力ヲ稱シテ不生産勞カト云フ、而シテ余輩ノ取ル所ノ釋義ニ依テ之ヲ論スルハ、結局ハ如何ニ緊要ナル永久ノ利益ヲ生スヘキ勞力ナリトモ、其利益ニシテ有形産物ヲ増加スルニ至ラサル以上ハ、不生産勞力ノ部類ニ屬セシメザル可カラズ、例ヘバ友人ノ生命ヲ救フノ勞力ノ如キ、若シ其友人ニシテ生産勞力即チ自身ノ消費スル所ニ比スレハ、許多ノ物品ヲ生産スル者ニ非ザル以上ハ、生産勞力ト謂ヒ難シ、又教法家ニ於テハ、人ノ靈魂ヲ救フヲ以テ、之ヲ生命ヲ救フ者ニ比スレハ、遙ニ緊要ナル勞力ト看做サ、ル可カラズ、然レモ若シ宣教師又ハ僧徒ニシテ南海宣教師ノ如ク其教道ヲ傳フルノ外ニ文明開化ノ藝術ヲ教フルニ非ザルヨリハ、吾人ハ此ノ宣教師又ハ僧徒ヲ名ツケテ生産勞力者ト曰ハザル可シ、之ニ反シテ一國ニ於テ扶持スル宣教師又ハ僧徒ノ數愈々多ケレバ、他事ニ消費スル所

從テ少ナカラサル可カラズ、又其國ニ於テ農夫及ヒ製造者ヲ使用シテ巧ニ資財ヲ費ス_ト愈々多ケレハ、自餘ノ目的ヲ達スルカ爲ニ得ル所ノ資財從テ多カル可シトノ理ハ論ヲ竣タズシテ明白ナリ、此ノ第一例ニ於テハ其國ハ有形産物ノ總量ヲ減少シ、第二例ニ於テハ之ヲ増加ス、
 「不生産勞力ト雖モ啻ニ有用ナルノミナラス社會ニ利益ヲ與フル點ニ於テハ却テ生産勞力ヨリモ更ニ有用ナルヲアラン、又其用ハ人ニ一時ノ歡樂ヲ與フルニ止リ、其過キ去ルニ及ヒテハ毫モ痕跡ヲ遺サザルヲアラン、又或ハ此ノ感覺ヲモ與ヘスレテ、全ク浪費セラル、_トモアラン、之ヲ要スルニ何如ナル情況ニ於テモ社會即チ人間ハ此ノ不生産勞力ノ爲ニ毫モ富資ヲ致サザルノミナラス、却テ貧ヲ加フルナリ、若シ人一物件ヲモ産出セスシテ尙ホ且ツ有形ノ富資ヲ消費スルハ、社會有形産物ノ全体ハ其之ヲ消費セザル時ニ比スレバ減損セザルコトヲ得ザ

ルナリ、然レ而會社ハ不生産勞力ノ爲ニ毫モ富資ヲ増サ、レ而一個人ハ之ニ由テ富資ヲ増スコトヲ得可レ、不生産勞力者ハ其勞ヲ盡スノ報酬トシテ此ノ勞力ニ由テ歡樂又ハ利益ヲ得タル人ヨリ自己ノ爲ニ富資ノ一大原因ト成ル所ノ者ヲ收受スルコトヲ得可シ、然レ而其利得ハ歡樂又ハ利益ヲ得タル人々ノ損失ヲ以テ乘除セラレ、ナリ、又此等ノ人々ハ其費ス所ノモノニ對シテ全ク同價ノ歡樂及ヒ利益ヲ得トイヘ、其之ヲ得ルノ分量ニ從テ其富資ヲ減スルナリ、裁縫匠ノ上衣ヲ作テ之ヲ賣却スルヤ、其代價願主ヨリ裁縫匠ニ移轉スルニ對シテ、前ニハ存在セザリレ所ノ上衣裁縫匠ヨリ願主ニ移轉セリ、然レ而俳優ノ得ル所ノ者ハ觀者ノ財本ヲ己レニ移轉セシムルノミニ止マリテ觀者ノ費ス所ヲ補フカ爲ニ何物ヲモ遺スコトナシ、サレハ社會ニ於テハ俳優ノ勞力ニ因テ分毫ノ富資ヲモ得ルコトナク、却テ其收受セシ富資中ニ就キ貯蓄セス

シテ消費セシ分ニ均キ社會ノ富資ヲ減スベシ、然リト雖モ一ノ社會ハ不生産勞力ヲ以テ他ノ社會ニ損失ヲ與ヘテ自分ノ富資ヲ増益スルコトアリ、是レ猶ホ一個人ガ他ノ一個人ニ損失ヲ與ヘテ自己ノ富資ヲ増益スルコト有ルカ如シ、即チ伊太利ノ唱歌者、日耳曼ノ女教師、佛朗西ノ踏舞者等ノ收ムル所ノ利潤ハ、彼等ノ之ヲ取テ自國ニ歸ル場合ニ於テハ其國ニ於テ富資ノ原因タリ、希臘ノ小國、就中其中ノ稍、開ケザル者ニ於テハ兵卒ヲ養成セリ、此等ノ兵卒ハ有害無益ノ戰爭ヲ爲スカタメニ自ラ好テ東洋諸國ノ君主及ヒ波斯、錫、臺ノ雇使スル所ト爲リ、老衰スルニ及テ其貯蓄セシ所ヲ職セテ歸國スルヲ常トセリ、此等ノ兵卒ハ不生産勞力者ナリ、且ツ其收受セシ所ノ給料、其劫掠セシ所ノ物品ハ復々之ヲ與ヘタル國ニ反ルコト無キノ費用ナリ、而シテ世界全体ニ取テハ毫モ利益ヲ生セザレド、希臘ニ取テハ一ノ利益ナリ、其後希臘及ヒ其藩屬地ハ又

一種ノ人ヲ出シテ羅馬帝國ニ供シタリ、此等ノ人ハ哲學士又ハ修辭家ノ名ヲ以テ中人以上ノ子弟ニ當時最モ貴重ス可キ者トセラレタル學藝ヲ教ヘタリ、彼等モ亦多クハ不生産勞力者ナリ、然レモ勞力ノ報酬トシテ得タル所ノ十分ノ褒賞ハ彼等ノ自國ニ取リテハ富資ノ原因ト爲リ、此等ノ場合ニ於テハ何レモ世界ノ富資ヲ毫モ増益セシメ無シ、勞力者ノ勞力若シテ要用ナルルハ、世界ニ於テ有形產物ノ一部ヲ失フテ又一部ヲ得ルモノナレトモ、若シテ不用ナルルハ此等ノ勞力者ノ費セシ一切ノ資財ハ世界ヨリ之ヲ視レバ純然タル損失ナリト

マルサスハ此ノ問題ヲ追究スルルハ經濟ノ根元ニ達スト云ヒ、ミルモ此ノ問題ヲ論スルルハ余輩ヲシテ「富資」トハ何ヲ指稱スルカノ論題ニ立チ返ラシム、何トナレバ生産勞力トハ「富資」ヲ産スル勞力ノ義ナレバ

ナリト云ヘリ、前ニ長文ヲ掲ケタルハ斯ク緊要ナル論旨ニ關スルミル氏ノ意見ヲ讀者ノ一覽ニ供センカ爲メナリ、余輩ハミル氏カ嘗テ「ミルス」ノ生産勞力ナル語ニ與ヘタル意見ノ外ニ此語ノ意義ヲ稍擴メタルヲ看得セリ、何トナレハ「ミルス」ハ直接ニ有形產物ノ生産ニ用ヒラル、人物ノミヲ生産勞力者ナリト爲シタルニミル氏ハ間接ニ有形產物ノ生産ニ用ヒラル、人物ヲモ生産勞力者ノ中ニ包括スレバナリ、今ミル氏ノ意見ヲ取ルトキハ「ミルス」ノ生産勞力者ト稱スル所ニ比スレバ一層廣大ナル部類ノ人物ヲ此ノ名目ニ網羅スルモノナルヤ言フ跋ダズ、ミル氏ハ官吏ヲ以テ生産勞力者ナリト認メタリ、サレバ製造所ノ管理者、頭取、陸軍、海軍、及ヒ警吏ノ如キハ生産勞力者ノ部類中ニ包括ス可シ、然レモ裁判官ハ官吏ノ中ニ列ス可キ者ナルヤ否ヤニ至テハ余輩之ヲ保證スルコト能ハズ、余輩以爲ラク、裁判官ハ官吏ノ中ニ列スト、果シ

テ然リトセバミル氏ノ釋義ニ從ヘハ、民間ニ在リ代言ヲ職トシテ利益ヲ得ルノ狀師ハ、不生産勞力者ナレド、政府ニ立チ代言ヲ職トシテ俸給ヲ得ルノ法官ハ、生産勞力者ナリトセザル可カラズ、又新聞紙ノ編輯人及ヒ印刷者ハ、生産勞力者ノ中ニ列ス、然ルニ俳優、唱歌者、踏舞者、僧徒及ヒ其他ノ人物ハ、尙ホ不生産勞力者ノ中ニ在リ、銀行主ハ、生産勞力者ノ中ニ列スルコトヲ得可シ、何トナレバ、銀行ノ業務ハ、有形産物ヲ増加スルコト極メテ大ナルヤ疑ヲ容レザレバナリ、鐵道ニ於テ商品ヲ運輸スルノ勞力及ヒ其他此ノ運輸ニ從事スル備人ノ勞力ハ、生産勞力ナリ、然レド、乘客ヲ運輸スルノ勞力ニ至テハ、不生産勞力ナル可シ、ミル氏ノ區別ニ從ヘバ、同一教師ニシテ工匠及ヒ其他ノ生産勞力者ヲ教育スルノ勞力ハ、生産勞力ナリ、然レド、縮紳即チ職業ニ關係セザル人物ヲ教育スルノ勞力ハ、不生産勞力ナリ、又内科醫、或ハ外科醫ノ、生産勞力者ヲ治療スル

ノ勞力ハ、生産勞力ナリ、然レトモ縮紳ヲ治療スルノ勞力ハ、不生産勞力ナリ、ミル氏ノ說ニ從ヘバ、ガルリタク、ケムブル、シツドンス、タルマ、マクレー、ウイガン、タグリオニ、ハンニ、エル、スレル、ラブラチ、カタラニ、マリプラン、ジエンニ、リンド、グリシ、マリオ、アルボニ、チ、ンス、パツチ、及ビニル、ソソノ演戲ヲ覽觀スル者ノ得ル所ノ喜樂ハ、不生産勞力ノ結果ナリ、而シテ世界ノ「富資」ハ、麵包師ノ勞力ニ因リテコソ増加スルモ、此等ノ俳優ノ勞力ニ由リテハ、増加セザルノミナラズ、却テ彼等ヲ扶持スルカ爲ニ減少スルナリト

余輩ヲ以テ之ヲ視ルキハ、此等ノ如キ區別ハ、世ノ習慣及ヒ眞正着實ノ道理ニモ、符合セサルナリ、此ノ點ニ於テハ、余輩寧ろ通常ノ意見ト一般ノ習慣トニ從テ區別ヲ立テタルセイニ同意センノミ、普通ノ語ニ於テ、生産勞力ナル語ハ、利潤ヲ生産スル勞力ヲ指示セリ、人アリ有形物ヲ作

ルカ爲ニ勞力ヲ盡シ、又ハ他人ノ要スル工作ヲナスカ爲メニ勞力ヲ盡スル、彼レ何事ヲ期望スルカ、何ヲ以テ彼レノ目的ト爲スカ、其目的トスル所ハ、勞力ト交易ス可キ報酬ヲ收受スルニ在リ、其勞力ノ生産勞力ナルヤ否ヤヲ判斷スルニハ、人皆其供給スル勞力ノ何如ニ因テ區別セシテ、其勞力ニ對シテ收受スル報酬ノ何如ニ因テ區別セリ、演藝師ノ開場中演スル所ノ戯曲ハ種々ナル可シ、然レ其勞力ノ生産勞力ナルト否トハ、全ク收利ノ有無ニ關係スルモノナリ、若シ觀客少クシテ空席多キハ、不生産勞力ナリ、之ニ反シテ、若シ觀客戯場ニ群集シテ、金錢金箱ニ充滿スルキハ生産勞力ナリ

ミル氏自家ノ言ニ據ルモ、右ノ如キ者コソ真正ノ意義タルベキハ、容易ニ之ヲ示スコヲ得可シ、何トナレバ、ミル氏自ラ生産勞力トハ富資ヲ生産スル勞力ノ義ナリト言ヘバナリ、ミル氏自己ノ釋義ニ據レバ、富資ト

ハ果シテ何ヲ指稱スルノ語ヅヤ、曰購買力ヲ有スル一切ノ物件是レナリ、故ニ一物件ノ富資タルト否トハ、專ラ他ノ物件ト交易シ得可キト否トニ關係スルモノナリ、而シテ之ト交易シ得可キノ物件愈多ナレバ、其富資ハ愈大ニシテ、利益モ亦愈多キヲ言フ埃タズ、是ヲ以テミル氏自己ノ釋義ニ據レバ、某物件ノ生産物タルト否トハ、其性質何如ニ關係スルモノニ非スシテ、其交易ニ於テ收受シ得可キ自餘ノ可量物、即チ其報酬ノ多寡何如ニ關係スルモノナリト謂ハザル可カラズ

後ニ至リミル氏「富資」ナル語ノ釋義ニ種々ノ制限ヲ下シテ、其意義ヲ狹窄ニシタルヲ疑フ容レズ、然レ此等ノ制限ハ全ク同氏ノ普關定義ト矛盾スルヲ以テ、廢棄セザル可ラサルノ理由ハ余輩既ニ之ヲ示シタリ、俳優其戲ヲ演スルカ爲ニ、十「ギン」ニ「金貨」ヲ收受シ、時計匠モ亦時計ヲ製スルカ爲ニ、十「ギン」ヲ收受ストセンカ、演藝モ、時計モ、共ニ十「ギン」ニ

均キナリ、是ヲ以テ、甲、乙、共ニ、丙ニ、均ケレハ、甲、モ、乙ニ、均シト云フ簡單ナル規則ニ依テ、演戲ハ價格ニ於テ時計ニ均ヲ知ルヘシ

故ニ余輩ハ普通ノ習慣ニ從ヒ、生産勞力ナル語ハ利潤ヲ得ヘキ勞力ヲ指示スルニ用ヒ不生産勞力ナル語ハ、毫モ報酬ヲ生セズ、或ハ不十分ナル報酬ヲ生ズル勞力ヲ指示スルニ用フヘシ、而シテ凡ソ利潤ヲ得ル物件ハ、其種類ノ何タルヲ問ハズ、必ス皆、資本ナリ、是レ即チセニオルノ説ノ如ク經濟學者ノ舉テ同意スル所タリ

三十六節 若シ純全ニ所有權ヲ買主ノ手ニ移サズシテ、唯々一定ノ時期ノ間、之ヲ所有シ、若クハ之ヲ使用スルノ權利ヲ買主ニ移シ、其時期ヲ經レバ、同權利、原所持主ニ復歸スル場合アリ、此ノ如キ所用ノ爲ニ拂フヘ

キ金額ハ其所用若クハ所有ノ性質ニ由テ種々名稱ヲ異ニス

第一 若シ身體ヲ以テスル勞役ノ爲ニ貨幣ヲ拂フハ、其勞役ノ種類ノ異ナルニ從ヒ、名ケテ「賃銀」、「給料」、「給金」、又ハ「俸祿」ト曰フ

第二 若シ通常固定資本ノ部類ニ加列スルガ如キ者、即チ土地、家屋、用水等ヲ使用スルノ權利、又ハ水車ヲ運轉スル流水、礦山、漁場、專買權、版權等ノ如キ權利ノ爲ニ貨幣ヲ拂フハ、名ケテ「租銀」ト曰フ

第三 若シ以上ニ比スレハ稍、著シク流轉資本ニ屬スベキ物品、若クハ動産ヲ使用スルカ爲ニ貨幣ヲ拂フハ、名ケテ「借料」ト曰フ

第四 若シ貨幣ヲ使用スルカ爲ニ貨幣ヲ拂フハ、名ケテ「利息」ト曰フ
總ヘテ此等ノ名稱ハ買主ニ於テ、制限アル時期ノ間、一物ノ使用權ノミヲ購買スルハ、其物ノ性質ニ從テ用ヒラル、モノナリ

三十七節 余輩ハ此ニ至リテ「經濟」ニ屬スル諸普關概念ノ總論ヲ終リ
 又、此ノ考究ニ多時ヲ費シタリト雖モ、讀者モ亦多少ノ快意無カリシニ
 非ザルヘシ、蓋シ今日「經濟」ヲシテ一ノ「歸納理學」タルノ地位ニ登ラシム
 ルハ到底已ミ難キノ事業ナリトス、此ニ掲クル議論ノ如キハ、之ヲ以テ
 形而下理學中一切ノ名目ニ就テ十中ノ八九ハ興起セシ劇論ニ比スレ
 バ、誠ニ簡短ナリト謂フ可キノミ、余輩ハ嘗ニ「經濟」ノ「本性」及ヒ「範圍」即チ
 此ノ學ニ於テ其理法ヲ攻究セントスル一大團ノ現象ノ明瞭ナル「概念」
 ヲ得タルノミナラズ、又主トシテ世ニ重ゼラル、二派ノ「經濟學士」ノ「釋
 義」ヲ調和シテ、此等ノ釋義ハ其實同一ナルヲ示スノ満足ヲ得タリ、最
 後ニ又經濟上ノ諸名目ヲ順次ニ舉論シ、「歸納推理」ノ「律則」ヲ用ヒテ、各名
 目ニ屬スル偶發外來ノ觀念ヲ撥除シ、以テ其固有スル單一普關ノ觀念
 ノ、一大普關理學ノ本然「概念」タルニ適シタル者ヲ決定シタリ、是レ全ク

自餘諸科ノ理學ニ於テ履踐シタル所ノ順序ニ外ナラズ、且ツ苟モ理學
 ノ構造ヲ堅牢ニセント欲セバ、必ズ履踐セサルヲ得ザル所ナリ

三十八節 人或ハ斯ノ如キ議論ハ無用ニ屬スト爲スモノアラン、余輩
 ハ此ニドクトルヒウエル氏ノ一二ノ論說ヲ引テ、其然ラザルヲ證セン、
 曰「歴史ニ徴シテ之ヲ言ヘバ、本然觀念ニ就キ余輩ノ從事セシ所ノ如キ
 議論ハ、現存理學中ニ含有スルノ概念ヲシテ、正確知識ノ元質タルニ適
 當セル明瞭ノ度ニ達セシメタル所以ノ者ニ外ナラズ」

「サレバ甚々虛形無象ニシテ普關ナル名目及ヒ總念ノ意義ニ係ル議論
 及ヒ釋思ハ、決シテ無用ニ屬ス可キモノニ非ズ、實ニ有用ノモノタリ、此
 ノ如キ議論ハ、他人ヲシテ自己ノ意見ヲ銘心セシメントスルノ欲望ヨ
 リ起レリ、而シテ之ニ因テ一層其意見ヲシテ明瞭ナラシムルノ效果ヲ

生セズンバアラズ、他人ヲシテ自己ノ意見ヲ理會セシメントスルノ就
 心探極ナルヨリ、知ラス職ラス自カラソノ意見ヲ綿密ニ了解スル生至
 ルナリ、即チ曠職ナル釋思ノ曉天ヲモツテ起リ、議論講究ヲ積テ、赫々ノ
 白日ニ終ルモノナリ、抑、人ノ現ニ知識元質ヲ成セル概念ヲ得ルニ至リ
 シハ、決シテ容易ノ業ニアラズ、幾多ノ勞力ト光陰トヲ費シテ、此ニ至リ
 シナリ、理學ノ沿革ヲ案スルニ發明者及ビ發明ノ先驅者ハ、眞理ノ未
 判然見ル可キノ點ニ到ラザル前ニ在テハ、思想曖昧模糊ナルカ爲ニ、非
 常ノ刻苦辛勞ヲ嘗メタルヲ知レリ、而シテ斯ル理學進步ノ路ニ於テ、一
 二釋思者ノ、他ノ釋思者ノ前ニ出ツルモノアルハ、自然ノ事ナルニ因リ、
 勢ヒ其間ニ辨難爭論ノ地ヲ開カザルヲ得ザリキ、然レモ斯ル辨難爭論
 ハ、必ス眞理ヲ擴張シテ謬見ヲ消散スルニ在リ、眞理ハ堅實ナル者ニシ
 テ、能ク戰闘ノ危難ニ堪ユト雖モ、謬見ハ脆弱ナル者ニシテ、爭擾ノ際、忽

チ破碎セザルコトヲ得ス、眞正ノ概念ハ能ク赫々タル日光ニ堪エテ、却
 テ之カ爲ニ明瞭ヲ添フヘシ、然レモ錯雜シテ整齊シ難キ概念ハ、白日ノ
 清晨ニ逢ヘハ、恰モ幻像ノ如ク、須臾ニ消失セサルハナシ、是ヲ以テ理學
 ノ含有スル概念ニ係ル一切ノ爭論ノ如キハ、必ス常ニ眞理ヲ確定スル
 ニ於テ其局ヲ結ハザルハナシ」
 ケアレルノ時ヨリラグラシテノ時ニ至ルマデノ、重學ノ經歷ハ、理學ノ
 進歩之カ元素ト成ス概念ヲシテ明瞭該蓋ヲ加ヘシタルノ實アル議論
 及ヒ釋思ニ因ル所多キヲ證スルノ通例ナリ、余輩ガ上文ニ説クカ如
 キノ進歩ハ、則チ概念ニ明瞭ト該蓋トヲ添フル者ニ外ナラズ、是レ即
 チ前ニ擧ゲタル理學沿革ノ部分ニ於テ見ルヘキ形勢ノ最モ著明ナ
 ル者ナリ、凡ソ觀察ニ由テ考究ス可キ所ノ者ハ、既ニガリレオ及ヒ其徒
 弟ニ於テ殆ト之ヲ畢リタリ、其未タ盡サ、リレ所ハ、普關通ニシテ且